

K-733

石田遺跡
上谷柏遺跡
発掘調査報告書

2002

東北電力株式会社
東北用地株式会社
山形市教育委員会

山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第14集
正誤表 石田遺跡上谷柏遺跡発掘調査報告書

頁	行	誤	正
7	(キャブション)	24	34
41	(遺物キャブション)	47-1	34-1
45	(遺物キャブション)	30-1	13-1
45	(遺物キャブション)	13-1	30-1
66	27	II II	II

石田遺跡
上谷柏遺跡
発掘調査報告書

平成14年6月

東北電力株式会社
東北用地株式会社
山形市教育委員会

序

本報告書は、平成12・13年度に実施された、石田遺跡及び上谷柏遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

石田遺跡は、その存在について以前から知られていました。しかしながら、これまで本格的な調査は行われておらず、その内容について不明な点が多くあったのですが、このたびの調査により、奈良～平安時代の掘立柱建物跡群などが検出され、当時の生活を物語る貴重な資料を得ることができました。

上谷柏遺跡は平成13年度に新たに確認された遺跡です。このたびの調査により、平安時代と考えられる建物跡が1棟検出されました。

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「鳩遺跡」をはじめ、約300箇所の遺跡が確認されております。これらの遺跡は、山形市の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の財産となっています。

近年は市内各地区において様々な開発事業が進められており、埋蔵文化財保護を目的とした調整の結果、発掘調査に至る事例が多くなっています。石田遺跡・上谷柏遺跡の発掘調査もそのような開発事業との調整の中で、遺跡の記録保存を目的として行われました。

本書が埋蔵文化財についての保護啓蒙のために、皆様の地域史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いります。

最後になりましたが、調査にあたって埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました東北電力株式会社や工事関係者の皆様並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成14年8月

山形市教育委員会
教育長 相田良一

例　　言

1 本書は、東北電力株式会社山形支店による谷柏変電所建設事業に係る「石田遺跡」及び高圧送電線谷柏支線新設工事に係る「上谷柏遺跡」の発掘調査報告書である。

2 調査要項は下記の通りである。

遺　　跡　名 石田遺跡（いしだいせき）

上谷柏遺跡（かみやがしわいせき）

所　　在　地 山形市大字谷柏元上谷柏字石田12-1-1（石田遺跡）

山形市大字谷柏字上谷柏（上谷柏遺跡）

遺　　跡　番　号 82（石田遺跡）

平成13年度新規発見（上谷柏遺跡）

現　　地　調　査 平成12年4月10日～平成12年6月30日（石田遺跡）

平成13年11月5日～平成13年11月20日（上谷柏遺跡）

整　理　作　業 平成12年12月12日～平成14年4月12日

調　査　面　積 2,569m²（石田遺跡）

64m²（上谷柏遺跡）

調　査　主　体 東北電力株式会社

調　査　実　施　機　関 山形市教育委員会

調　査　担　当　者 石田遺跡 文化課長 石澤孝一郎

課長補佐 工藤 義夫

文化財係長 江川 隆

主　事 須藤 英之

主　事 武田 和宏

上谷柏遺跡 社会教育課長 柳橋 幸男

課長補佐 金子 美則

文化財保護係長 江川 隆

主　事 國井 修

調　査　協　力 東北用地株式会社山形営業所

3 本書の作成・執筆は、第Ⅰ～Ⅲ章を、須藤英之が、第Ⅳ章を國井修が担当した。

4 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関より御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる。（敬称略）

高桑登 山口博之 吉田江美子 山形県教育庁文化財課 （財）山形県埋蔵文化財センター

5 発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては以下の方々から御協力をいただいた。記して感謝申しあげる。（敬称略）

荒井治良 石垣勝幸 大場俊三 岡崎久夫 小川定雄 折原栄悦 木村澄子 斎藤和彦 笹利幸 佐藤博志田英信 清水理太郎 白田敬 鈴木清志 鈴木敏幸 関口太 武田武 丹野与三郎 堤操 富沢啓広土門弘 中村光作 保科源則 前野勲 森田誠 横山内宥 渡辺ふじえ（以上石田遺跡現地調査）

笠利幸 鈴木敏幸 丹野与三郎 長岡伸恭 森田誠 (以上上谷柏遺跡現地調査)

伊藤桂子 木村澄子 深瀬美貴子 渡辺ふじえ (以上遺物整理)

- 6 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会で一括保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

S B : 掘立柱建物跡 S I : 壁穴住居跡 S D : 溝跡 S G : 河川跡 S K : 土坑

S P : 柱穴・不明ピット E P : 掘立柱建物跡の各柱穴 P : 土器 S : 碑

- 2 遺構番号は現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

- 3 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。

- 4 グリッドの南北軸は、石田遺跡がN-33°-W、上谷柏遺跡が、N-1°-Eを測る。なお、国家座標及び経緯度は、日本測地系による。

- 5 遺構実測図は、1/20・1/40・1/60・1/80・1/300他の縮図で採録し、各々スケールを付した。

なお、実測図中の遺物出土地点の記号は以下の通りである。

△ : 須恵器 ○ : 土師器 □ : 赤焼土器

- 6 遺構実測図中の水糸レベルは標高を表す。単位はmである。遺構断面図中の網点部分は木柱残存部分を表す。

- 7 土層観察において、遺跡を覆う基本層序については、ローマ数字を、遺構覆土についてはアラビア数字で表している。

- 8 遺物実測図・拓影図は1/3・1/4の縮図で採録し、各々スケールを付した。

- 9 遺物実測図中の土器については、断面黒ベタが須恵器、網点が赤焼土器、白抜きが土師器を表す。

- 10 遺構観察表中において、() 内数値は現存値を示す。単位はcmを使用している。

- 11 遺物観察表中において、() 内数値は図上復元による推計値を、"-"は欠損等による計測不能を示す。単位はmmを使用している。

- 12 遺構・遺物番号については、本文、表、挿図、写真図版とも一致している。

- 13 基本層序及び遺構覆土の色調記載については、『新版土色帳』(小山・竹原:1997)に掲った。

目 次

I 調査の経緯

1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	1

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6

III 石田遺跡

1 遺跡の概観	9
(1) 遺跡の層序	9
(2) 遺構と遺物の分布	9
2 検出された遺構と遺物	13
(1) 堀立柱建物跡	13
(2) 柱穴	26
(3) 坂穴住居跡	32
(4) 土坑	32
(5) 溝跡	38
(6) 河川跡	38
(7) S P・確認面出土遺物	44
(8) 木製品	46
3 総括	
(1) 調査の成果	66
(2) 奈良～平安時代の遺構及び遺物について	66

IV 上谷柏遺跡

1 遺跡の概観	70
2 検出された遺構と遺物	70
(1) 堀立柱建物跡	70
(2) 河川跡	70
3 まとめ	71
参考文献	75
報告書抄録	76

挿図

第1図 調査区概要図	3	第23図 石田遺跡 S I 12(2)	34
第2図 石田遺跡グリッド配置図	4	第24図 石田遺跡 S I 12出土遺物(1)	35
第3図 遺跡位置図	7	第25図 石田遺跡 S I 12出土遺物(2)	36
第4図 石田遺跡基本層序	10	第26図 石田遺跡 S K14	37
第5図 石田遺跡構造配置図	11・12	第27図 石田遺跡 S D 7・8	39
第6図 石田遺跡 S B 1 平面図	14	第28図 石田遺跡 S D 9・10・48	40
第7図 石田遺跡 S B 1 セクション	15	第29図 石田遺跡 S D 34・47・51	41
第8図 石田遺跡 S B 1 出土遺物	16	第30図 石田遺跡 S G 11 平面図	42
第9図 石田遺跡 S B 2 平面図	17	第31図 石田遺跡 S G 11 セクション	43
第10図 石田遺跡 S B 2 セクション	18	第32図 石田遺跡 S G 11 出土遺物	44
第11図 石田遺跡 S B 3 平面図		第33図 石田遺跡 S P	
出土遺物	20	確認面出土遺物(1)	45
第12図 石田遺跡 S B 3 セクション	21	第34図 石田遺跡 S P	
第13図 石田遺跡 S B 4 平面図	22	確認面出土遺物(2)	46
第14図 石田遺跡 S B 4 セクション(1)	23	第35図 石田遺跡柱根(1)	47
第15図 石田遺跡 S B 4 セクション(2)	24	第36図 石田遺跡柱根(2)	48
第16図 石田遺跡 S B 4 出土遺物	25	第37図 石田遺跡柱根(3)	49
第17図 石田遺跡 S B 5 平面図	27	第38図 石田遺跡柱根(4)	50
第18図 石田遺跡 S B 5 セクション		第39図 石田遺跡柱根(5)	51
出土遺物	28	第40図 石田遺跡柱根(6)	52
第19図 石田遺跡 S B 6 平面図・出土遺物	29	第41図 上谷柏遺跡構造配置図	72
第20図 石田遺跡 S B 6 セクション	30	第42図 上谷柏遺跡 S B 6 平面図	
第21図 石田遺跡 S P 41・42	31	セクション	73
第22図 石田遺跡 S I 12(1)	33	第43図 上谷柏遺跡出土遺物	74

表

表1 調査工程表	5	表7 石田遺跡遺物分類表	69
表2 周辺古代遺跡一覧	8	表8 上谷柏遺跡基本層序	
表3 石田遺跡土層注記	53	S G 1 土層注記	72
表4 石田遺跡遺物観察表	64	表9 上谷柏遺跡 S B 6 土層注記	73
表5 石田遺跡木柱觀察表	68	表10 上谷柏遺跡遺物観察表	75
表6 石田遺跡構造観察表	68		

図版

- 図版1 石田遺跡全景
- 図版2 石田遺跡S B 1 完掘状況・検出状況・E P 5木柱出土状況、E P 6断面他
- 図版3 石田遺跡S B 2 完掘状況・検出状況・E P 2完掘状況・E P 5断面他
- 図版4 石田遺跡S B 3・S I 12完掘状況・S B 3検出状況・E P 1断面他
- 図版5 石田遺跡S B 4 完掘状況・検出状況・E P 2断面・E P 2完掘状況他
- 図版6 石田遺跡S B 5 完掘状況・検出状況・E P 1断面・E P 4断面他
- 図版7 石田遺跡S B 6 完掘状況・検出状況・E P 1断面・E P 3断面他
- 図版8 石田遺跡S P 41断面・完掘状況・S P 42断面・完掘状況・S I 12完掘状況他
- 図版9 石田遺跡S K14・S B 2 E P 6断面・完掘状況他、S D 9・10断面他
- 図版10 石田遺跡S D 7・8 検出状況・S P 33・S D34断面、S D47断面他
- 図版11 石田遺跡S G11検出状況・石組・断面・完掘状況・精査状況・現地説明会風景
- 図版12 石田遺跡S B 1、S B 2、S B 3、S B 4、S B 5、S B 6出土遺物
- 図版13 石田遺跡S I 12、S K14、S D 7・8、S D51出土遺物
- 図版14 石田遺跡S I 12、S K14、S D34、S G11他出土遺物
- 図版15 石田遺跡出土遺物 S P・確認面出土遺物
- 図版16 石田遺跡S B出土木柱
- 図版17 上谷柏遺跡調査区遠景・調査区近景・遺構検出状況・完掘状況他
- 図版18 上谷柏遺跡E P 2～4断面・完掘状況
- 図版19 上谷柏遺跡出土遺物

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

(1) 石田遺跡

本遺跡は、昭和40年代頃石田地区の水田中から墨書のある須恵器などの遺物が採集されたことにより発見されたもので、昭和53年度発行の山形県遺跡地図には県遺跡番号82として登録されている。なお、出土遺物については、これまで度々報告がなされている（山形県1969、茨木1998等）。

今回の調査は、東北電力株式会社山形支店による谷柏変電所建設事業に伴い実施されたものである。事業者より、上記事業が計画され、平成10年12月11日付で本市教育委員会あて、埋蔵文化財の有無について照会があった。事業予定地が本遺跡に隣接することから、本教育委員会では試掘調査を平成11年5月10日～12日の期間で実施した。開発区域内に任意に45箇所の試掘坑を設定し、人力により表土を掘り下げ、埋蔵文化財の所在の確認を行った。その結果、特に開発区域の西側に遺構・遺物が集中して見られ、本遺跡が事業区域内にまで広がることが確認された。さらに、事業地に隣接する高速道路予定地内では、山形県埋蔵文化財センターにより調査が実施され、本遺跡がこれまで考えられていたより、さらに広範囲に存在することが確認された。これらの調査成果を踏まえ、関係機関により埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。その結果、事業地内について、工事に先立ち緊急発掘調査を実施し、記録による保存を図る運びとなった。

調査の実施にあたっては、開発行為の申請者である東北電力株式会社山形支店と本市教育委員会の間で調査に関する協定を結び、本市教育委員会が調査を実施することとなった。現地調査は平成12年4月10日～6月29日まで延べ56日間実施した。

(2) 上谷柏遺跡

本遺跡は平成13年度に新規に発見された遺跡である。東北電力株式会社山形支店より高圧送電線谷柏支線建設事業が計画され、平成12年6月27日付で本市教育委員会あて、埋蔵文化財の有無について照会があった。本教育委員会では照会のあった4箇所の事業予定地について、試掘調査を平成13年4月16日に実施した。事業予定地に計11箇所の試掘坑を設定し、人力により表土を掘り下げ、埋蔵文化財の所在の確認を行った。調査の結果、事業予定地の1つから、遺物および遺構が確認された。

これらの調査成果を踏まえ、県教育委員会あて新規遺跡発見の届出を行うとともに、関係機関により、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った結果、埋蔵文化財の確認された事業予定地について、工事に先立ち緊急発掘調査を実施し、記録による保存を図る運びとなった。

調査の実施にあたっては、開発行為の申請者である東北電力株式会社山形支店と本市教育委員会の間で調査に関する協定を結び、山形市教育委員会が調査を実施することとなった。現地調査は平成13年11月5日～11月20日まで延べ10日間実施した。

また、事業者と本市教育委員会で協議を行った結果、整理作業及び報告書の作成にあたっては両遺跡併せて行うこととした。その実施については両者で整理作業及び報告書作成に関する協定を締結し、本市教育委員会が行った。整理作業は平成13年12月12日～平成14年4月12日の延べ80日間実施した。

2 調査の方法と経過

(1) 石田遺跡

平成12年4月10日より、重機を使用して調査区内の現代の旧耕作土及び遺物が包含されていない表土を除去し、平成12年4月16日より、人力で遺構の検出作業を開始した。遺構検出面は調査区の西側でやや高く、東側に向かって緩やかに傾斜して低くなる。調査区の西側に6棟の掘立柱建物跡が、北側からは河川跡と予想される溝状の遺構を検出した。検出面の標高は約126mを測る。なお、調査以前の地目は水田である。

5月8日に調査区内に、日本道路公団の設置した高規格自動車道のセンター杭を基準として10m×10mのグリッドを設定した。これは、同時期に隣接地の調査を行っていた県埋蔵文化財センターと共通のものとした。よって、その呼称をX軸は東から西に52~66、Y軸は北から南にN~Zとして、N-52グリッドというように表現した。グリッドの南北軸はN-32° 50' -Wを測る。

遺構検出作業が終了した部分より土層観察用ベルトを残しながら、遺構の精査に着手した。また、5月10日に平面図作成を目的とした1回目の空中写真撮影を行った。

掘立柱建物跡の柱穴内からは土師器・須恵器が出土し、その年代観から、建物跡は8世紀末から9世紀初頭の所産であることが想定された。また、建物跡を構成する柱穴の一部では、柱根が遺存していた。出土した柱根は、計12本を数える。

6月17日には発掘調査説明会を実施し、約100名の参加者を得た。6月27日には完掘状況の平面図作成を目的として2回目の空中写真撮影を行った。

現場作業中は幾度かの大雨による調査の中止に悩まされたが、6月29日に器材の撤収を完了し、現地での調査を終了した。

また、これらの作業と併行して、図面作成及び写真撮影等の記録作業を実施している。

(2) 上谷柏遺跡

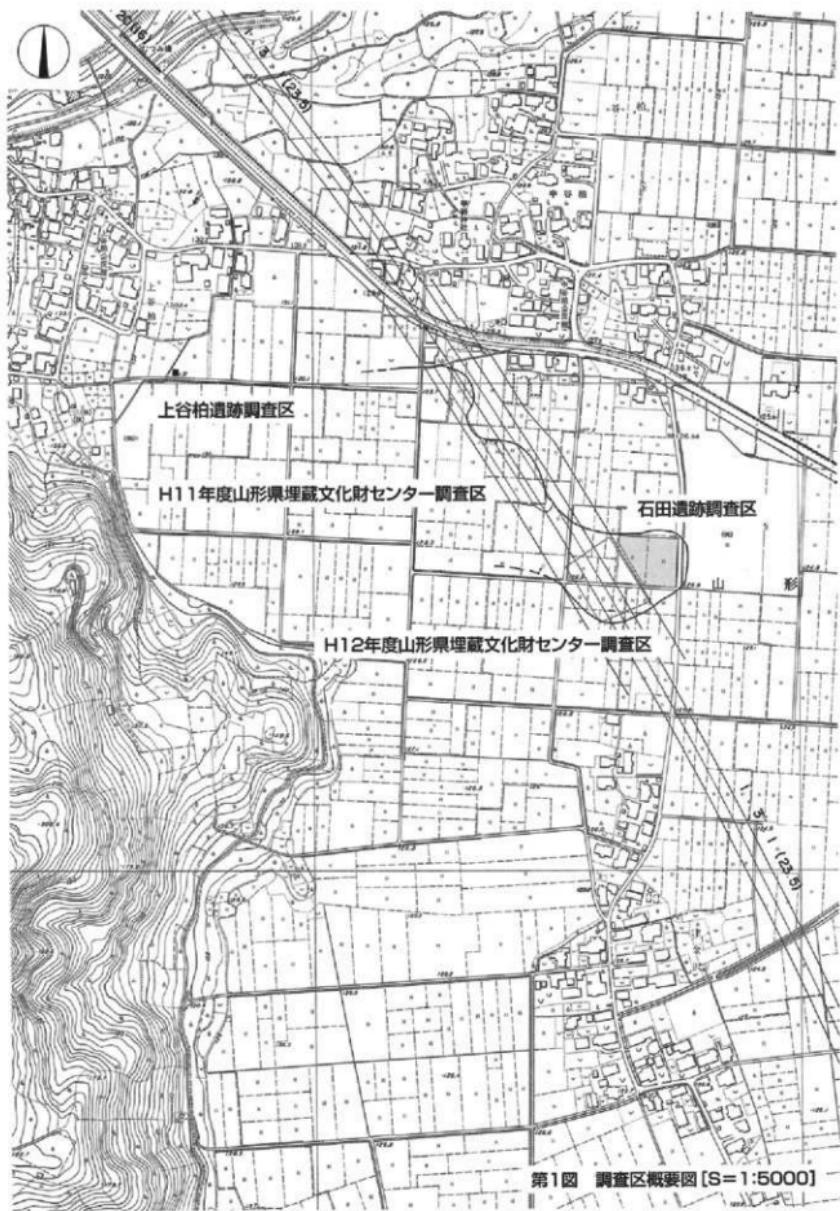
平成13年11月5日より、人力により、調査区内の現代の耕作土及び遺物が包含されていない表土を除去し、遺構の検出作業を開始した。その遺構検出面は北西から南東に向かって緩やかに傾斜し、多数のピットと1条の河川跡が検出された。検出面の標高は約132mを測る。なお、調査開始時の地目は水田である。

11月9日に、調査区内に事業用地の境界杭を基準に5m×5mのグリッドを設定した。グリッドの南北軸はN-1° -Eを測る。

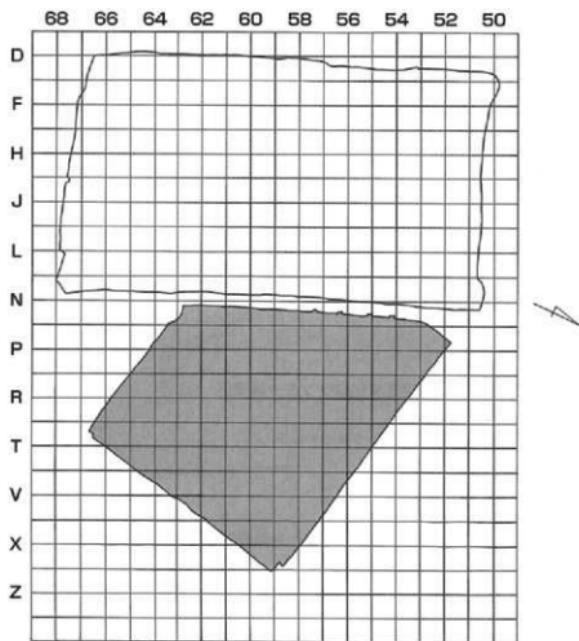
11月13日より、土層観察用ベルトを残しながら遺構の精査を開始した。検出段階では、多数のピットが確認されたが精査の結果、その大半が、現代の耕作に係るものと確認された。最終的には、旧河川跡1条と掘立柱建物跡を構成する柱穴が4基確認された。

降雨により調査が中断される日もあったが、調査区を埋め戻した後、11月20日に作業器材を撤収し、現地での調査を終了した。

また、これらの作業と併行して、図面作成及び写真撮影等の記録作業を実施している。



第1図 調査区概要図 [S=1:5000]



石田遺跡調査区



H12年度 山形県埋蔵文化財センター調査区

0 (1:1000) 50m

第2図 石田遺跡グリッド配置図

表1 調査工程表

石田遺跡工程表

月 週	4月				5月				6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週
表土除去												
面整理												
遺構精査												
記録												
備考	器材搬入					5月10日 1回目空撮				6月17日現地説明会		6月27日2回目空撮 器材搬出

上谷柏遺跡工程表

月 週	11																							
	1					2					3													
日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24			
表土除去																								
遺構検出																								
遺構精査																								
記録																								
備考	日	調査開始	雨天休み	排水作業	作業休み	土	日						雨天休み	土	日			調査終了	器材撤収				土	

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

山形市は、山形県に位置し、宮城県と境を接する。山形県東部に広がる山形盆地の南東部にあたり、東側に奥羽山脈が連なり、南部と西部には白鷹丘陵が裾野を広げている。市域の南東から北西へ向けて、奥羽山脈に源を発する馬見ヶ崎川が北流し、南東から北西に伸びる扇状地を形成している。その他、周囲の山々から流れる大小の河川が小規模な扇状地をつくり、複合扇状地を形成している。また西部には、市内最大の河川である須川が北流し、その沿岸には、自然堤防および後背湿地が広がり、その左岸には低位の河岸段丘が形成されている。これら河川の間には、沖積平野が広がり、部分的に旧自然堤防に由来する微高地が点在する。

石田遺跡は山形市の南西部、市街地中心部から約5km離れた山形市大字谷柏元上谷柏字石田地内に所在する。本遺跡は白鷹丘陵から北流する本沢川・花川によって形成された扇状地の扇尖部に立地し、北へ向かって緩やかに傾斜している。標高は約126mを測る。周辺は水田として利用されている。

上谷柏遺跡は山形市大字谷柏字上谷柏地内に所在し、石田遺跡から北西約500mの位置に立地する。白鷹丘陵から平野部への傾斜変換点付近に立地し、東へ向かって緩やかに傾斜する。遺跡及び周辺の地目は水田である。

2 歴史的環境

山形市内では現在約300箇所の遺跡が確認されている。石田遺跡・上谷柏遺跡の所在する谷柏地区近辺及び本沢川流域には、市内において最も遺跡が密集している地域のひとつである。

縄文時代では、中期の百々山遺跡（出土遺物市指定文化財）、後期の土器が出土した中谷柏遺跡が存在する。古墳時代では、石田遺跡の北西2.5kmに多数の埴輪が出土した菅沢2号墳（県指定史跡・出土遺物市指定文化財、昭和43～45・60～61年度山形市教育委員会調査実施）を含む菅沢古墳群が、谷柏地区西側の丘陵中腹、上谷柏遺跡の南方約200mには終末期の谷柏古墳群（県指定）が所在し、集落遺跡では本沢川沿岸の自然堤防上に沢田遺跡、萩原遺跡、山形元屋敷遺跡（後二者は、平成11年度及び平成13年度山形県埋蔵文化財センター調査実施）などが点在する。

奈良～平安時代では、近年、東北中央自動車道の建設工事に伴い山形県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施された谷柏J遺跡・萩原遺跡などがあり、石田遺跡の南方約2kmの白鷹丘陵にはオサヤズ窯跡・小松原窯跡などが所在している。また、石田遺跡の北東2.2kmに位置する山形市吉原地区には吉原遺跡群が所在する。奈良～平安時代の掘立柱建物跡群を中心とする遺跡群で、山形市教育委員会により継続して発掘調査が実施されている。

谷柏地区周辺地域には上記の様に、石田遺跡をはじめとして発掘調査の実施された遺跡が多く存在する。今後は、それらの調査成果の検討により、山形盆地南半の古代の様相、特に生産地遺跡と消費地である集落遺跡の関連性等について考察を進めてゆく必要性がある。



第3図 遺跡位置図 [S=1:500000]

表2 周辺古代遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	年代	その他の時期	主な所収文献
1	石田	集	9C中葉	縄	県考・県74, 94, 96, 163, 197, 199, 201・七68
2	上谷柏	集	9C中葉		
3	一本松	集	奈良	古	
4	梅野木蘭1	集	奈良・平安		県171・市年H5~11
5	鶴	集	奈良	古	県考・市史上・調1・県171・市6
6	塚田	集	奈良	縄・古	県考・市史上・調1・県163, 197, 200
7	馬上台	集	9C末~10C初		市7
8	下反田	集	奈良・平安		県6
9	高禿	集	平安		県6
10	宮町三小	集	平安	古	市史上・山考3-1
11	慶師町五中	集	平安		市史上
12	愛宕山	散	平安		県19, 94
13	長昌代条風	条風	平安		
14	五日町	集	奈良		市史上
15	城南町一丁目	集・城	8C初頭~9C中葉	縄・古・中・近	県199・七69・市年H5~H11, H12
16	及妻町	集・城	8C後葉~9C中葉	縄・古・中・近	市年H5~11, H12・き18
17	鋪廬	集	9C		県163, 197, 199・七68
18	塙平田A・B	集	8C末葉~9C前半	古・中	県33
19	山形西高歌地内	集	9C後半~10C初頭	縄・弥・古	県17, 84, 91, 173, 192, 197, 198, 200
20	館	集・城	平安	縄・中	県33, 94
21	坊屋敷	集	8C後半~9C前半	縄・弥・古	県33, 94
22	大清水	集	平安	縄・弥・古	県33, 94
23	金池	集	平安	縄	県33, 94
24	百目鬼	集	9C後半	近	県163, 197, 199・七68, 96
25	廢明石	集・古	平安	弥・古	
26	藤合	集	奈良・平安	古	山考4-1
27	鏡ヶ瀬	集	奈良・平安		
28	吉原Ⅳ	集	9C前半	近	市年H5~11
29	吉原Ⅰ	集	8C後葉~9C初頭	中・近	市年H5~11, H12
30	吉原Ⅲ	集	8C後半~9C前葉		市年H5~11
31	吉原Ⅱ	集	8C末葉~9C前半		市年H5~11, H12
32	吉原Ⅴ	集	8C末葉~9C前半		市年H5~11
33	吉原Ⅵ	集	9C中葉		市年H5~11・市13
34	青田	集	奈良・平安	古	県94, 136
35	競業堂	散	平安	近	市年H5~11
36	寺裏	集	9C	古	県6, 94・殿歷
37	二枚田	集	8C末葉~9C初頭	縄・弥	県6, 94
38	萩原	集	8C中葉~9C前葉	古・中	県94, 163, 197, 199・七68・殿歷
39	谷船J	集	平安	縄・古・中・近	県考・市史上・県94, 163, 197, 199・七68, 95・庄6
40	沢田	集	奈良・平安	弥・古	県考・市史上・殿歷・そ3-4
41	谷船	集	奈良・平安	古	県考・市史上・殿歷・県94, 200・山考4-1
42	山形元脇曾	集	平安		七109
43	虎沢西	集	10C前葉		市年H5~11
44	津坊	散	奈良・平安		県94
45	古奉山	經罕	平安	別称「谷船山経坂」	県考・山考4-1・殿歷・巻上用
46	高崎	集	奈良		県94
47	高崎山	祭	平安		県94・市史4
48	横手区	集	奈良・平安	縄・古・中	県94・殿歷・郡考
49	片谷地	集	平安		市史上・県94, 201
50	石コロ	散	平安		県195, 197
51	熊野堂	窟	平安	称「ガラミキ」	県94・上市3
52	オサヤズ窓	窟・集	8C末葉	縄	県考・県61, 94, 163, 197, 198, 199, 七60, 72・山考7-1, 庄20・上市3
53	松屋	散	平安		県考・県94, 198, 200・上市3・山考4-3・庄20
54	オミロク火葬墓群	墓	平安	(平成10年度登録抹消)	県94, 198, 199・山考2
55	小松原廻路群	窟	9C前半	縄	県考・県94, 198, 200・上市3・山考4-3・庄20
56	長者廻路	窟・集	平安	縄	県94, 198, 200, 201・上市3
57	西の宮	集	9C中葉		市年H5~11
58	百々山	集	平安	縄	県考・市史上・県74, 94, 山考5-3
59	風穴	洞	奈良・平安	縄・弥・古・中・近	県考・市史上・県94
60	三子刈窓	窟	平安		

※ 番号 説明： 窟=集落跡 穴=散布地 城=城跡 窟=窟跡 祭=祭祀遺跡 洞=洞穴遺跡

※ その他の時期： 縄=縄文 弥=弥生 古=古墳 中=中世 近=近世

※ 所収文献： 県考=山形県史考古資料編 県=山形県埋蔵文化財調査報告書 市年=山形市埋蔵文化財調査報告書

市史=山形市史 市=山形市埋蔵文化財調査報告書 市年=山形市埋蔵文化財調査報告書

殿歷=最上川流域の歴史と文化(工芸定義教授歴記念会) 殿=最上川(山形県総合学術調査会)

山考=山形考古 古=古代考 古=さかべい 瓢考=郷土考古 上市=上山市埋蔵文化財調査報告書

III 石田遺跡

1 遺跡の概観

(1) 遺跡の層序

4層を確認した(第4図)。I～II層は表土及び耕作土である。I層は褐灰色シルトの耕作土層であった。西側で10cm、東側で20cm程度の厚さであり、礫がまばらに混入する。II層は均質な灰白色細砂層であり、調査区西側で5cm、東側で20cm程度の厚さであった。水田の基盤整備工事の際に堆積されたものと考えられる。(調査区東側では、水田基盤整備の際の客土と判断される層が確認された。)III層はにぶい黄色細砂層で、北西から南東に向かって緩やかに傾斜する。III層上面が遺構検出面である。IV層は、非常に粘性の強い黒色シルト層である。これは、平成11年度の山形県埋蔵文化財センターの調査区(第1図)で、平安時代の文化層の下に縄文時代中期の文化層が確認されていることから、調査区内に試掘坑を設定し、III層以下の確認を行った際確認したものである。縄文時代の遺構及び遺物は検出されず、縄文時代の文化層は確認されなかった。

(2) 遺構と遺物の分布

今回の調査では奈良～平安時代にかけての掘立柱建物跡群を中心として、竪穴住居跡、土坑、河川跡、溝跡、小柱穴等が確認された(第5図)。調査区西側のR-54～N-60グリッド付近に特に集中して検出され、東側における分布は希薄であった。同時期に、西側隣接地で山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しているが、当該調査区では、ほぼ全域に遺構の分布が確認されたもの、南側ではやや希薄であった。本調査区の北方約100mに位置する平成11年度の山形県埋蔵文化財センター調査区からは奈良～平安時代の遺物やピット群などが確認され、調査区南端の一画からは奈良～平安時代の遺構面より約40cm程度の深さから縄文時代の文化層が確認されている。

掘立柱建物跡は8棟が検出された。建物跡を構成する柱穴からは、8世紀末から9世紀初頭を主体とする遺物が出土した。出土遺物の年代からは、建物跡の明確な年代差を確認することはできなかつたが、柱穴の重複関係及び主軸方向等の特徴から大きく2つの時期に区分されることが確認された。

竪穴住居跡は1棟検出された。S I 12竪穴住居跡は約4m四方の平面規模であり、遺構覆土も10cm程度の厚さであった。

土坑は1基検出された。S K 14土坑は検出時の平面形態が隅丸方形を呈し、遺構底面近くの層より植物質のものが検出されたが、遺構の性格について不明である。

溝跡は8条検出された。S D 9・10・48溝跡は調査区東側をやや屈曲しながら南北に走る。S D 9・10は遺構覆土の視察から奈良～平安時代に適り得る遺構ではなく、比較的新しい年代のものと判断された。S D 7・8・34・47溝跡は掘立柱建物跡群周辺に確認され、なかでもS D 8・34・47溝跡は建物跡群の東西軸と平行し、関連性を持つものと考えられる。S D 51溝跡は調査区西境界より北に向かって走る様相で検出された。

河川跡は1条検出された。S G 11河川跡は建物跡群の北側に位置し、北西から東に走る様相であった。遺構の覆土の様相や出土遺物から、奈良～平安時代の時期のものと判断された。

Ⅲ 石田遺跡

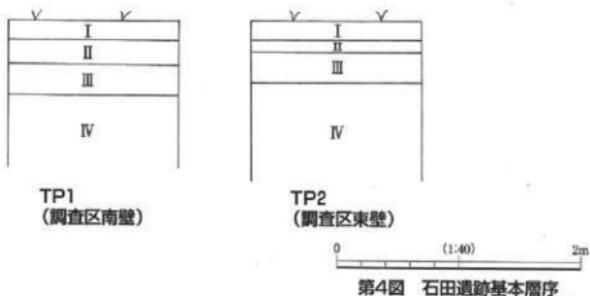
その他、多數の小柱穴等が確認されており、それらの遺構内からも上記の遺構群とはほぼ同様の年代の遺物が出土するものもあったが、建物跡等を構成するかどうかは確認できなかった。

また、平成13年10月30日～11月1日には、調査区東側に隣接する市道中谷柏津金沢線の改良工事に係り、試掘調査を実施している。その結果、今回の調査区以東は基盤整備により既に削平を受けており、遺跡範囲が広がらないことが確認された。

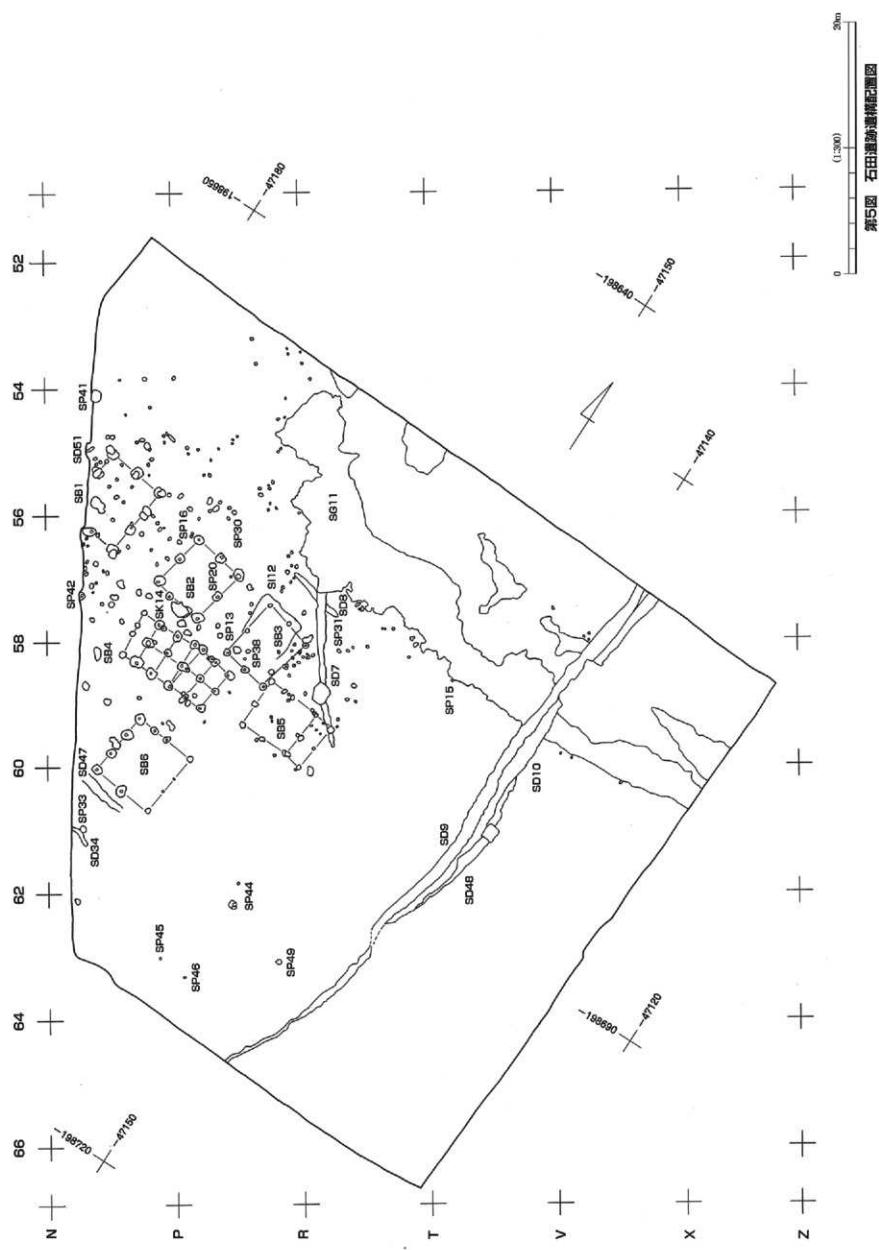
よって、今回の調査区は、調査区以東が削平により遺跡の所在が確認されなかつたものの、上記のような遺構の分布状況から、本遺跡の南端部分にあたるものと推測される。

石田遺跡 基本層序

層序	土色	土質	備考
I	10YR6/1	褐灰色シルト	φ1～3cm大礫わずかに含む。耕作土。
II	2.5Y7/1	灰白色細砂	鉄分が全体にまじる。耕作土。
III	2.5Y6/3	にぶい黄色細砂	しまり弱。粘性弱。礫が40%程まじる。
IV	7.5Y2/1	黒色シルト	しまり強。粘性強。均質。



第4図 石田遺跡基本層序



第5図 石田遺跡遺構配図

2 検出された遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は掘立柱建物跡6棟、竪穴住居跡1棟、土坑1基、溝跡8条、河川跡1条、その他不明ピットなどである。遺物は大半が竪穴住居跡からの出土である。整理箱にして20箱出土した。以下、掘立柱建物跡を中心にその概要を略述する。

(1) 掘立柱建物跡（第6～20図 図版2～7）

6棟を確認している。建物規模 2×2 間が5棟（SB 2・3・4東・4西・5）、 2×3 間が2棟（SB 1・6）、 2×4 間が1棟（SB 4）である。なかでもSB 4・SB 5は廂をもち、SB 2・SB 4は縦柱の建物跡である。建物の主軸方向は、総じて東西軸に重なるものが多い傾向にある。柱穴の検出時に抜取り穴や切り合いが確認されたことにより建て替えが行なわれたと考えられる。建物同士の重複や切り合いは認められないが、主軸方向で2つのグループに分けられることから、2時期の建物跡群の変遷を考えられる。第1は主軸方向が真北に対してN-4°～11°-Wの建物跡群のグループ（SB 1・2・3・4a・6）、第2は主軸方向が真北に対してN-2°～3°-Eの建物跡群のグループ（SB 4b・5）である。これらは検出状況や出土遺物から、全て8世紀末から9世紀初頭に帰属すると考えられる。

また、北西の調査区境界で、山形県埋蔵文化財センター調査区検出の建物を構成する柱穴SP 42が検出された。

その他にも多数の柱穴・ピットが検出されたが、それらは建物跡等を構成するには至らなかった。以下、各建物跡について概略を述べる。

SB 1（第6～8図 図版2）

（位 置） 調査区 N-55～O-56グリッドに位置する。

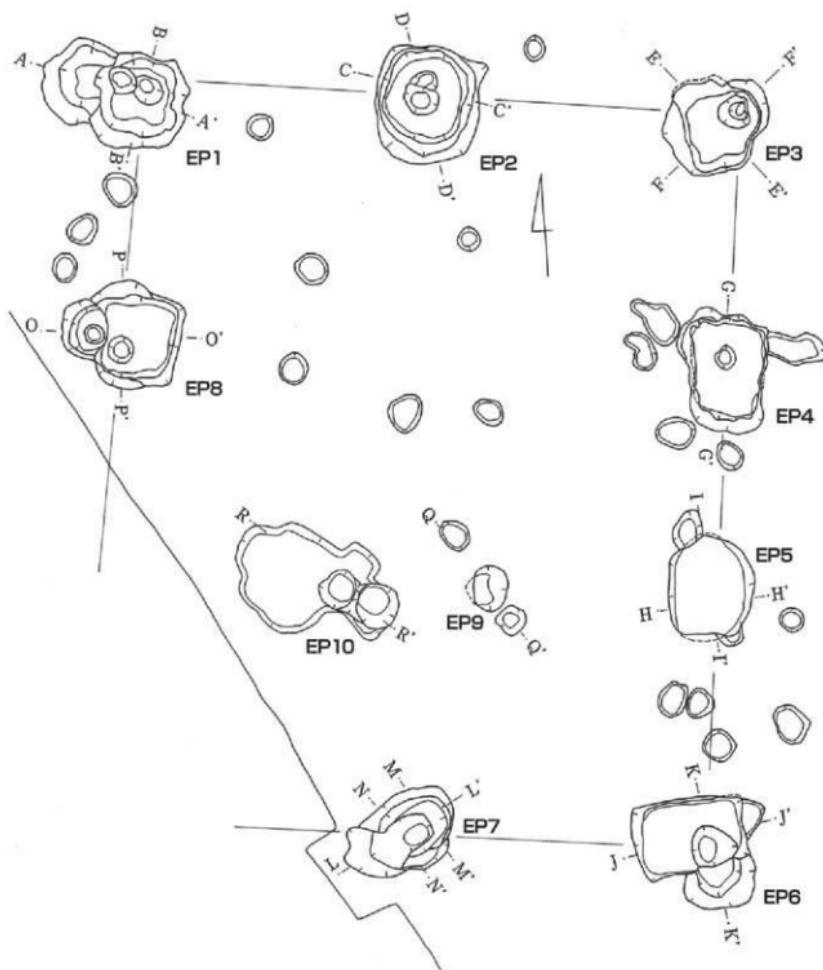
（規 模） 梁行3間、桁行2間の規模である。南西隅が調査区外であるが桁行4.4m・梁行6m、桁行の柱間は2.6m、梁行の柱間は1.8m～2mを測る。

（主軸方向） N-4°-E。

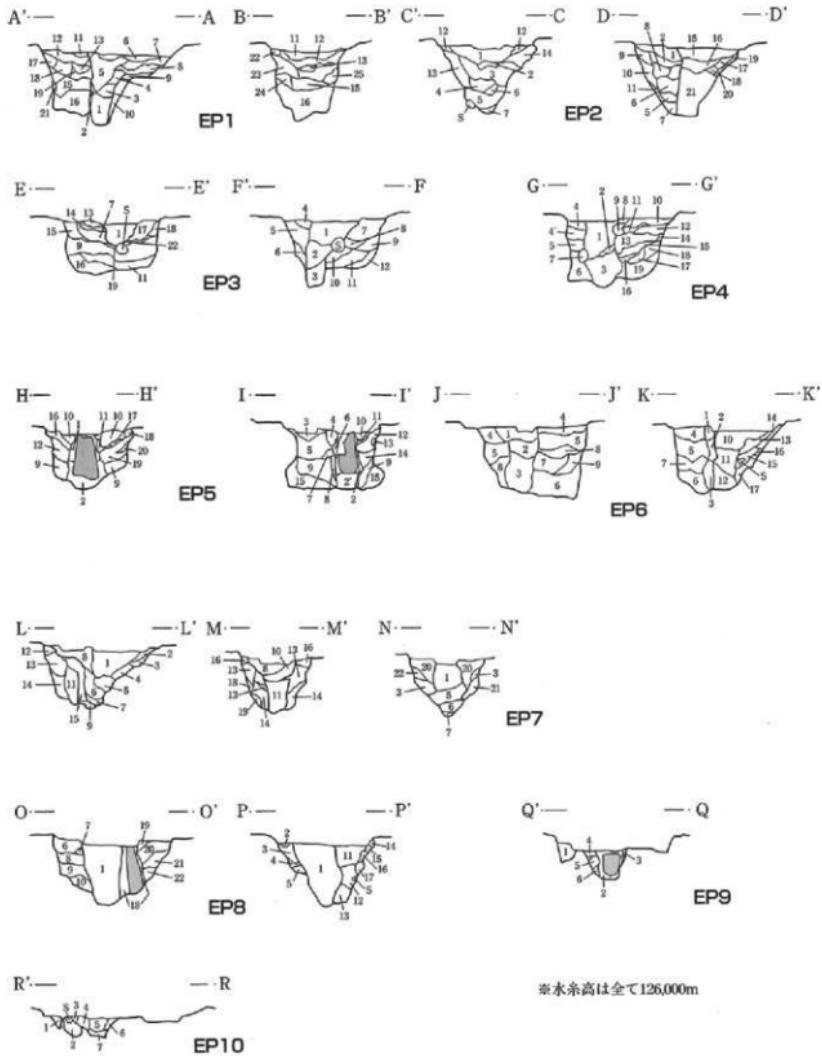
（柱 穴） 掘り方の平面形態は円形や長椭円形、隅丸方形を呈し、長径80～100cm、深さ54～67cmを測る。EP 1・EP 3・EP 6・EP 7・EP 8で抜取り痕を確認した。またEP 9・EP 10については、他の柱穴に比して規模が小さく、掘り方平面形態も異なるが、遺構覆土の状況から建物の構成要素として考えられる。

（出土遺物） 柱穴覆土より須恵器壺・蓋、土師器甕が出土した。その内で須恵器壺（1-1～5、10～11）・蓋（1-6～9）について図化し掲載した。また、EP 5・EP 8・EP 9では木柱が出土した。

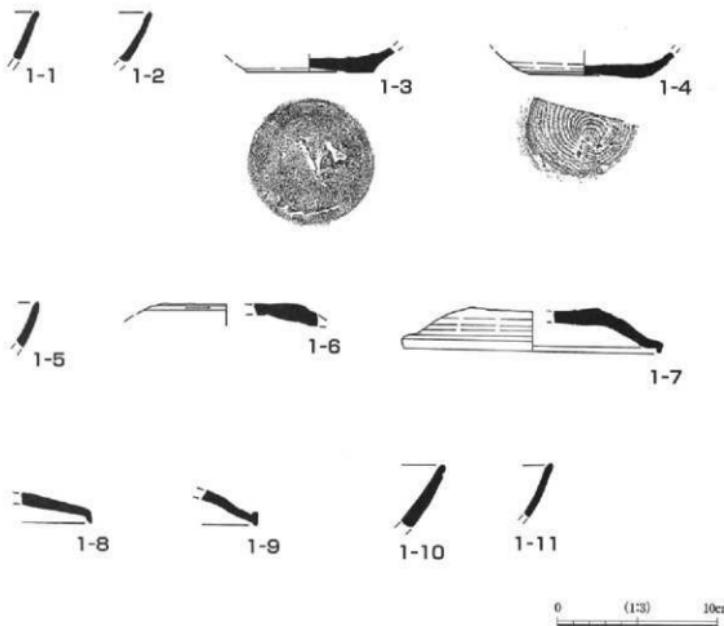
（年 代） 出土遺物の年代観より、8世紀末～9世紀初頭の時期と考えられる。



第6図 石田遺跡SB1平面図
Scale: 0 (1:140) 2m



第7図 石田遺跡SB1セクション
(1:40)
0 2m



第8図 石田遺跡SB1出土遺物

SB2 (第9~10図 図版3)

(位 置) 調査区P-56~O-57グリッドに位置する。

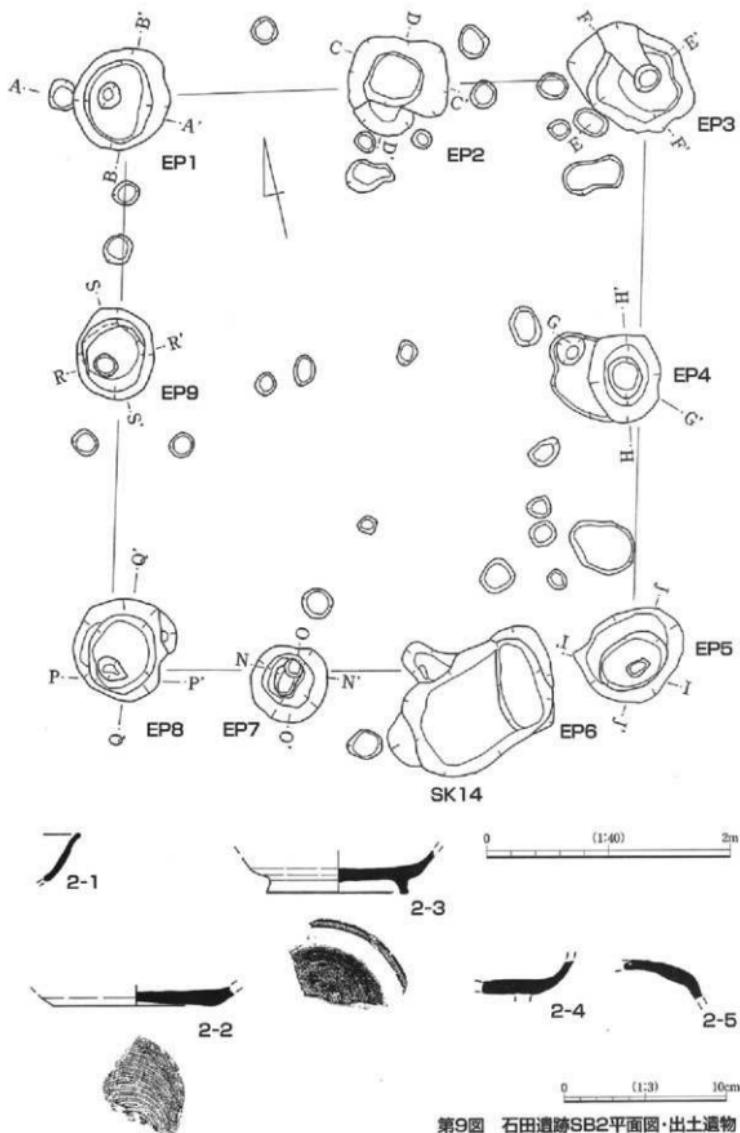
(規 模) 梁行2間、桁行2間(南面3間)である。桁行3.6m、梁行4mであり、桁行の柱間は2~2.2m、梁行の柱間は2.4mである。

(主軸方向) N-8°-E。

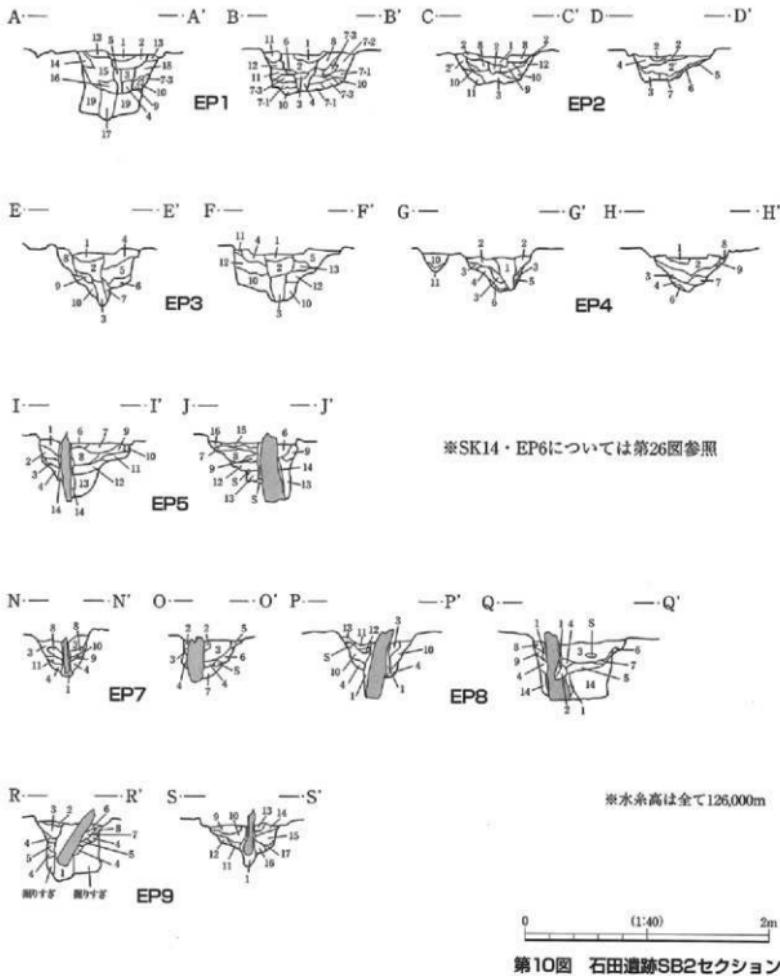
(柱 穴) 平面形態は円形や不整円形を呈し、長径64~108cm、深さ27~58cmを測る。EP2・EP3では平面形態及び断面観察で抜取り痕を確認した。

(出土遺物) 柱穴覆土より須恵器坏・有台坏・蓋、土師器壺が出土した。その内須恵器坏(2-1~2)・有台坏(2-3~4)・蓋(2-5)について図化し掲載した。EP5・EP7・EP8・EP9では柱穴覆土内に木柱が残存していた。SK14・EP6からも柱と考えられる木製品を検出しているが、後述するようにSK14に帰属するものかどうか明瞭ではなかった。

(年 代) 出土遺物より、8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられる。



第9図 石田遺跡SB2平面図・出土遺物



第10図 石田遺跡SB2セクション

SB3 (第11~12図 図版4)

(位 置) 調査区Q-57~58グリッドに位置する。

(規 模) 梁行2間、桁行2間である。桁行4m、梁行4.4mであり、柱間は桁行が2m、梁行が2.2mを測る。

(主軸方向) N-11° -E。

(柱 穴) 平面形態は円形や不整円形を呈し、長径38~70cm、深さ16~36.5cmを測る。S I 12-E P 1及びE P 2はS I 12造構覆土を精査した後に検出された。位置的にS B 3を構成する柱穴と考えられ、S B 3の柱穴として加えた。主軸方向の揃うS B 1やS B 2に比べ柱穴の規模・深さ共に小規模である。

(出土遺物) 柱穴覆土より須恵器坏(3-2)・有台坏(3-1)が出土している。

(年 代) 造構同士の重複関係から、S B 3よりもS I 12が新しくなる。出土遺物より8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられる。

SB4a・b・c (第13~16図 図版5)

(位 置) 調査区O-57~P-58グリッドに位置する。

(規 模) a : E P 3 東柱穴・4・8・9・10・13・14・15によって構成。2×2間。桁行3.2m、梁行3.8mであり、桁行の柱間は1.8m、梁行の柱間は1.6~1.8mである。

b : E P 1・2・3 西柱穴・6・7・8・11・12・13によって構成。2×2間。桁行3.2m、梁行3.6mであり、桁行の柱間は1.8m、梁行の柱間は1.6~1.8mである。

c : E P 1~19の全ての柱穴によって構成。4間×2間。桁行3.8m、梁行6.5mであり、桁行の柱間は1.8m、梁行の柱間は1.6~1.8mである。梁行4間、桁行2間であり、西面に瘤が付く。梁行の並びにややズレが確認される。

ここではS B 4をa~cの3時期に分けて概要を説明するものとしたい。

(主軸方向) a期 : N-6° -E。

b期 : N-87° -W。

c期 : N-87° -W。

(柱 穴) 平面形態は円形や不整円形・長椭円形を呈し、長径62~110cm、深さ33~56cmを測る。

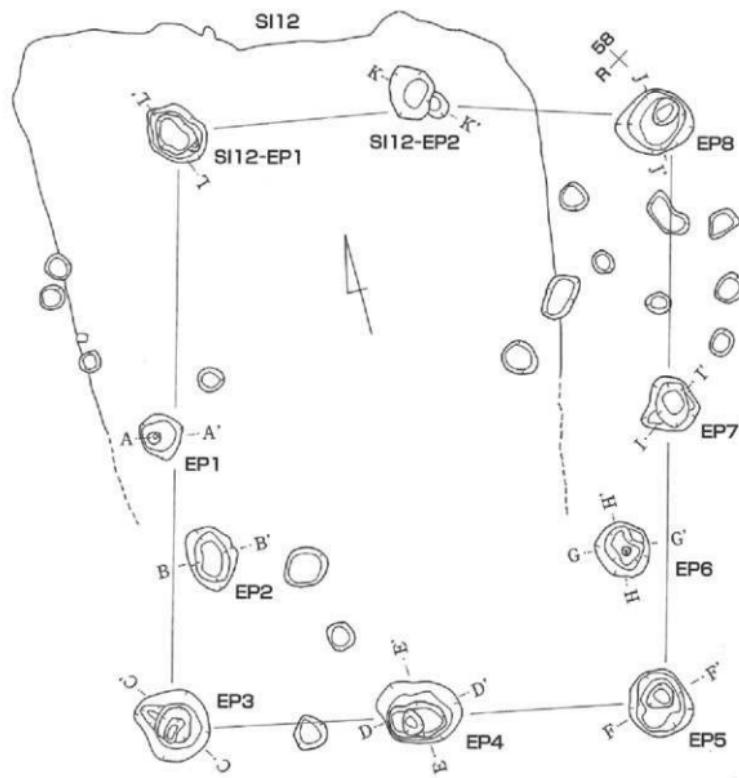
E P 1・E P 4・E P 6・E P 15で平面形態及び断面で抜取り根を確認した。

(出土遺物) 柱穴覆土より須恵器坏・蓋・甕、土師器甕が出土している。その内、須恵器坏(4-1~6)・蓋(4-7~8)・甕(4-9)、土師器甕(4-10~12)について図化し掲載した。

(年 代) 2間×2間の総柱建物の建て替えが行われたものと考えられる。4間×2間の建物として機能していた時期もあったかと推測される。

a→b期の順に建て替えが行われたと考えられる。c期とa・b期との前後関係は明確ではない。

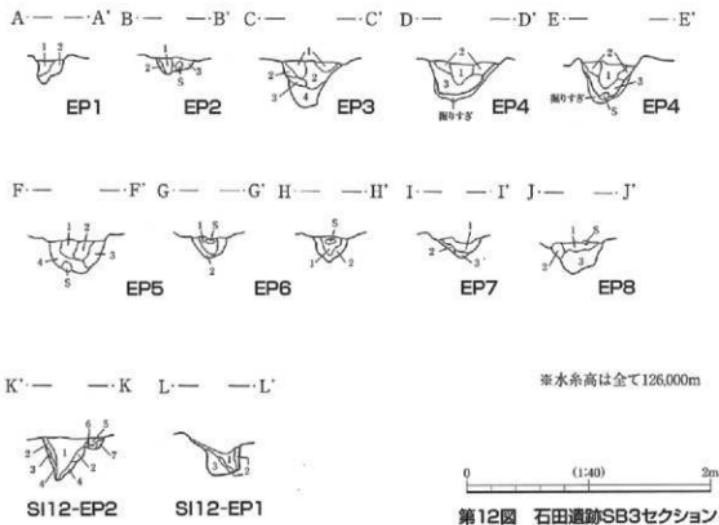
出土遺物より8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられる。遺物は数量的に少ないが、a~c期の間では遺物に時間的な隔たりは確認されず、出土遺物や断面観察から考察すると、短期間の内にa~c期の複数回の建て替えが行われたものと考えられる。



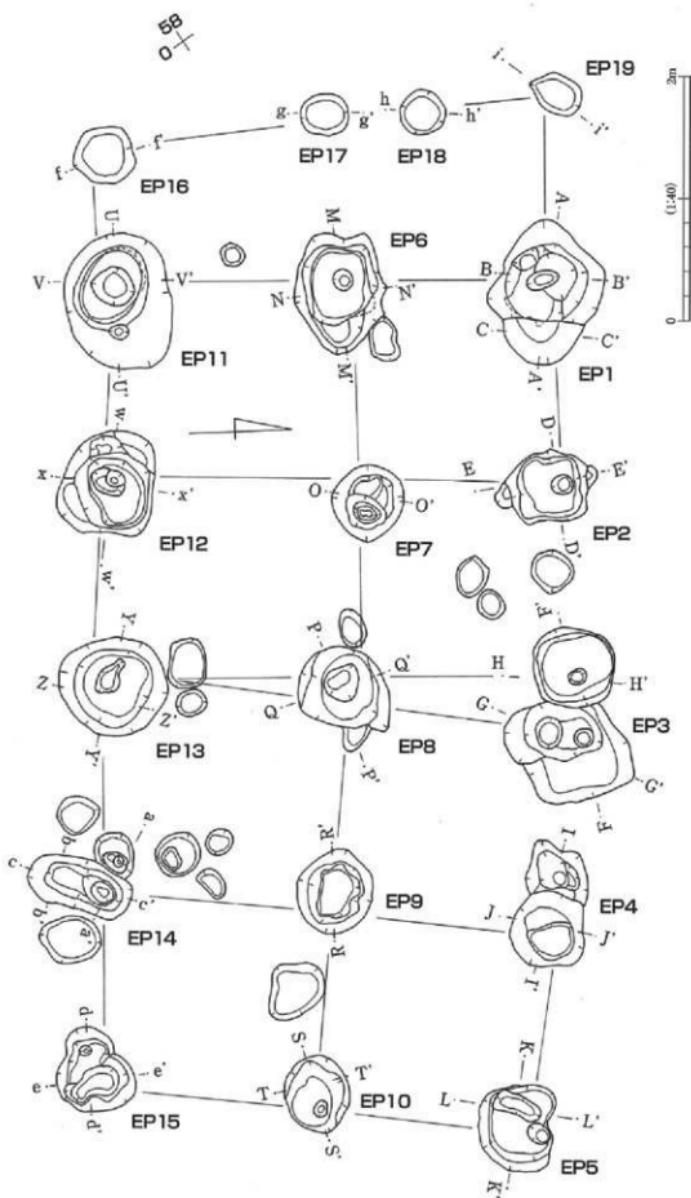
0 (1:3) 10cm

0 (1:40) 2m

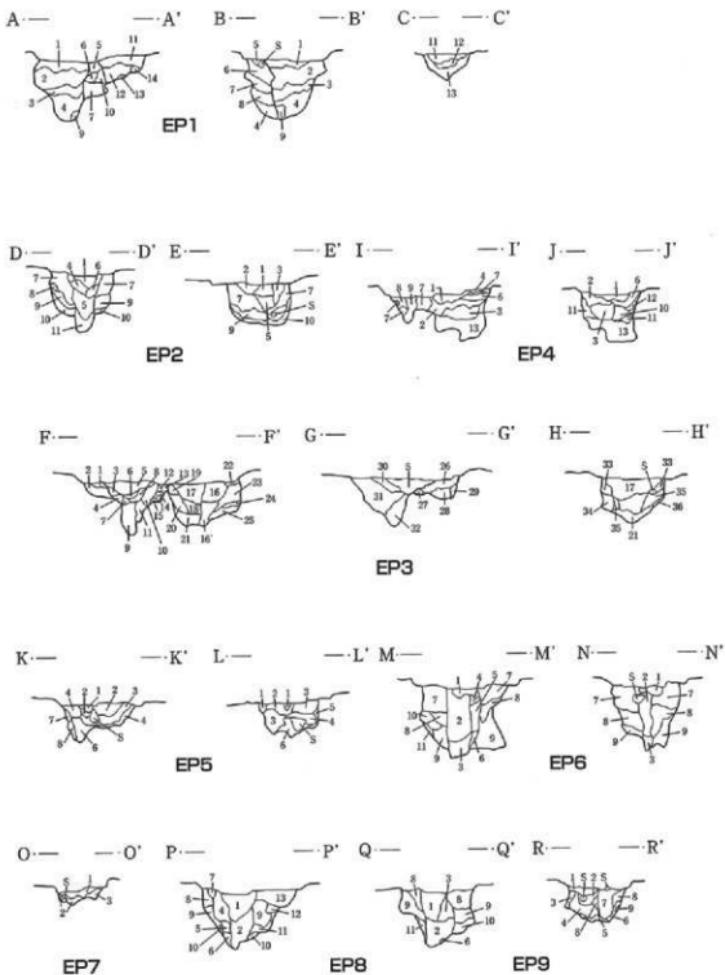
第11図 石田遺跡SB3平面図・出土遺物



第12図 石田遺跡SB3セクション

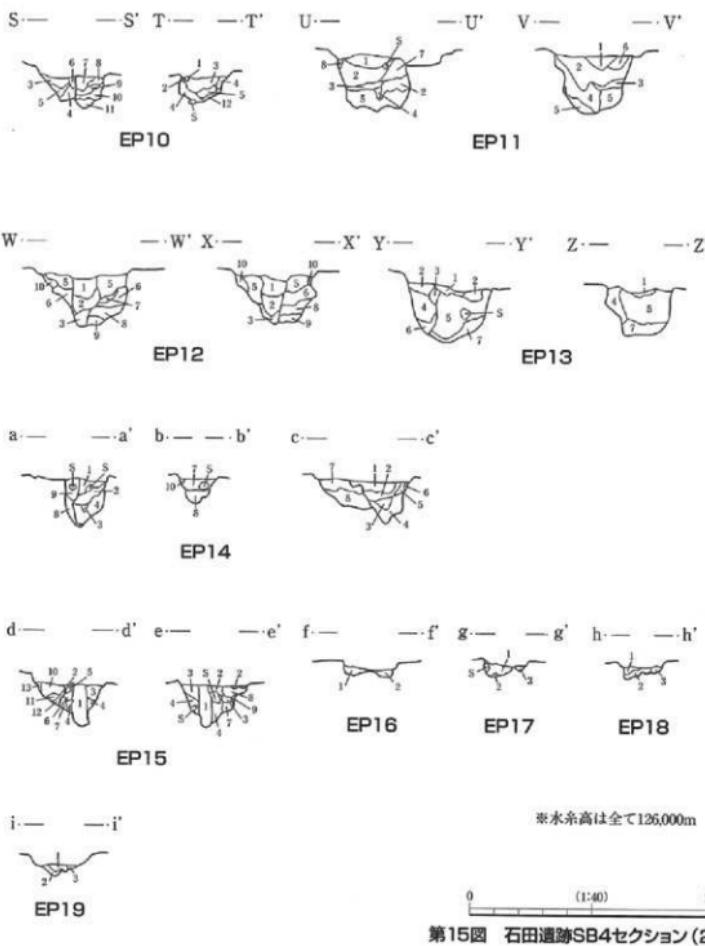


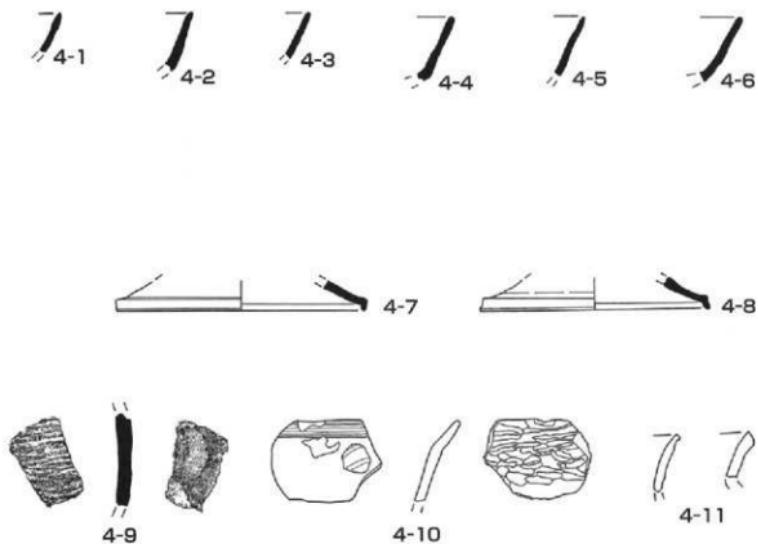
第13図 石田遺跡SB4平面図



※水糸高は全て126,000m

0 (1:40) 2m
第14図 石田遺跡SB4セクション(1)





0 (1:3) 10cm

第16図 石田遺跡SB4出土遺物

S B5 (第17~18図 図版6)

- (位 置) 調査区Q-58~R-59グリッドに位置する。
- (規 模) 梁行2間、桁行2間であり、東面に廟が付く。柱穴の並びもやや不整であるが、桁行4.2m、梁行4.4mであり、桁行の柱間は2m、梁行の柱間は2mである。
- (主軸方向) N-87° -W。
- (柱 穴) 平面形態は円形や不整円形を呈し、長径24~62cm、深さ12~44cmを測る。周囲の建物跡群に比べ、削平等の影響もあるようが、大きさも小ぶりで掘り込みも浅い。
- (出土遺物) 柱穴覆土より須恵器有台坏(5-2)、土師器甕(5-1)が出土している。
- (年 代) 出土遺物より8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられる。

S B6 (第19~20図 図版7)

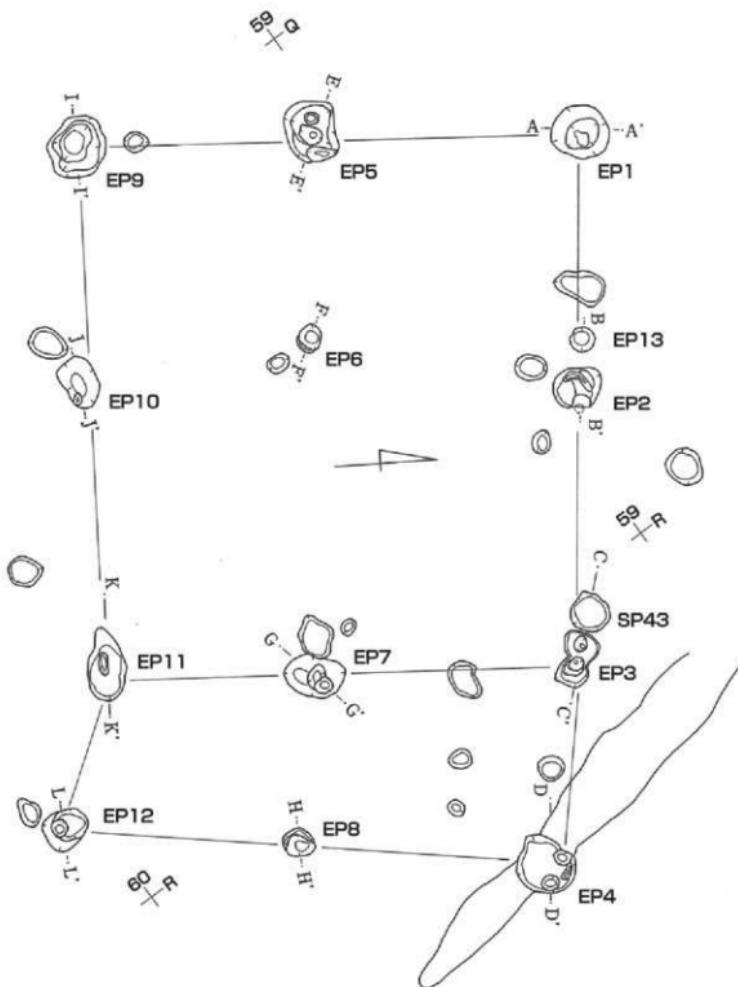
- (位 置) 調査区N-59~O-60グリッドに位置する。
- (規 模) 梁行3間、桁行3間(南面2間)である。東側の柱穴が基盤整備の工事によると考えられる削平を受けている。桁行5.2m、梁行5.2mであり、桁行の柱間は2.6m、梁行の柱間は1.6~2mである。
- (主軸方向) N-7° -E。
- (柱 穴) 平面形態は円形や不整円形を呈し、長径18~94cm、深さ10~60cmを測る。遺構覆土内に木柱が残存している柱穴が比較的多く、EP1・EP2・EP3・EP4・EP9・EP11で確認された。EP4・EP11では根固め石かと考えられる大型の礎もあわせて検出された。
- (出土遺物) 柱穴覆土より土師器甕、須恵器坏が出土した。その内EP2より出土した須恵器坏(6-1)について図化し掲載した。
- (年 代) 出土遺物から8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられる。

(2) 柱穴

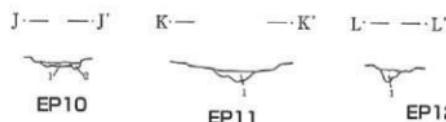
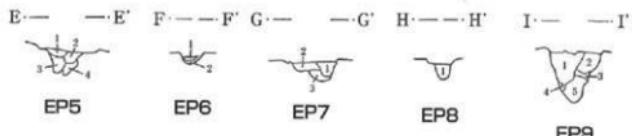
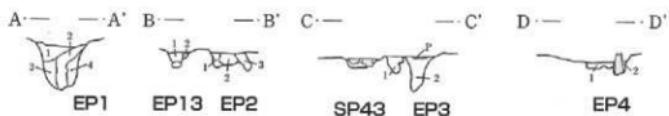
調査区境界付近で、埋文センター調査区の遺構と関連して建物跡を構成する柱穴が検出された。ここでは確実に柱穴と判断できるものについて略述する。他にも小規模で浅いピットが幾つか検出されたが、建物跡を構成するには至らなかった。

S P41 (第21図 図版8)

- (位 置) 調査区N-54グリッドに位置する。
- (規 模) 形状は不整円形を呈する。規模は長軸74cm、短軸58cmである。検出面からの深さは浅く、確認面より10cmであった。
- (主軸方向) N-7° -E。
- (遺 物) 出土していない。
- (年 代) 奈良~平安時代初頭の時期と考えられる。

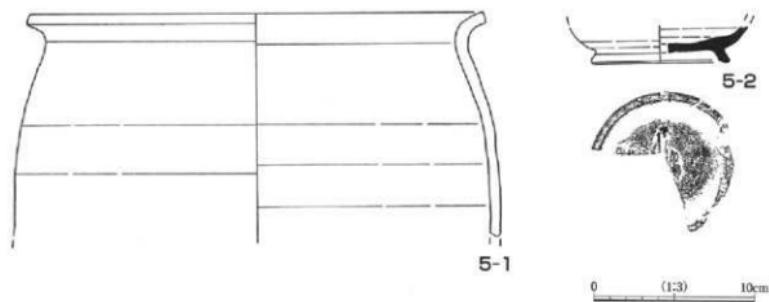


第17図 石田遺跡SB5平面図
(1:40)
0 2m

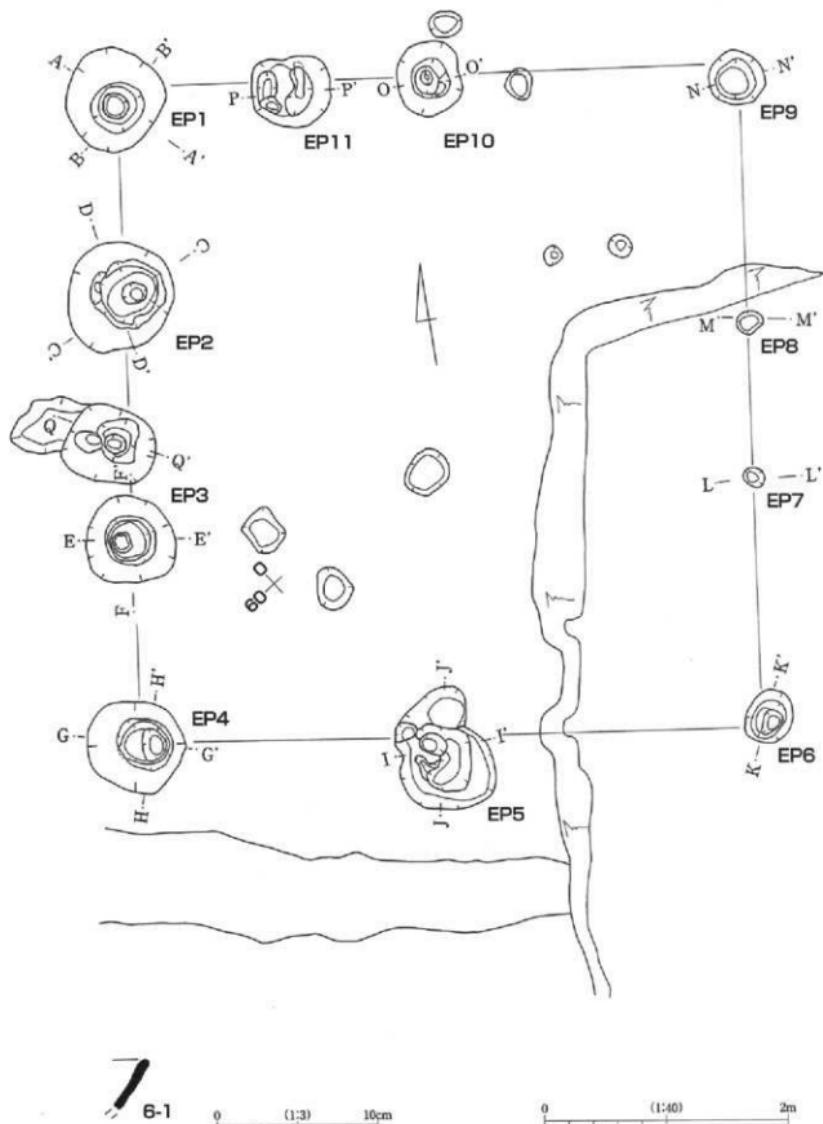


※水系高は全て125,600m

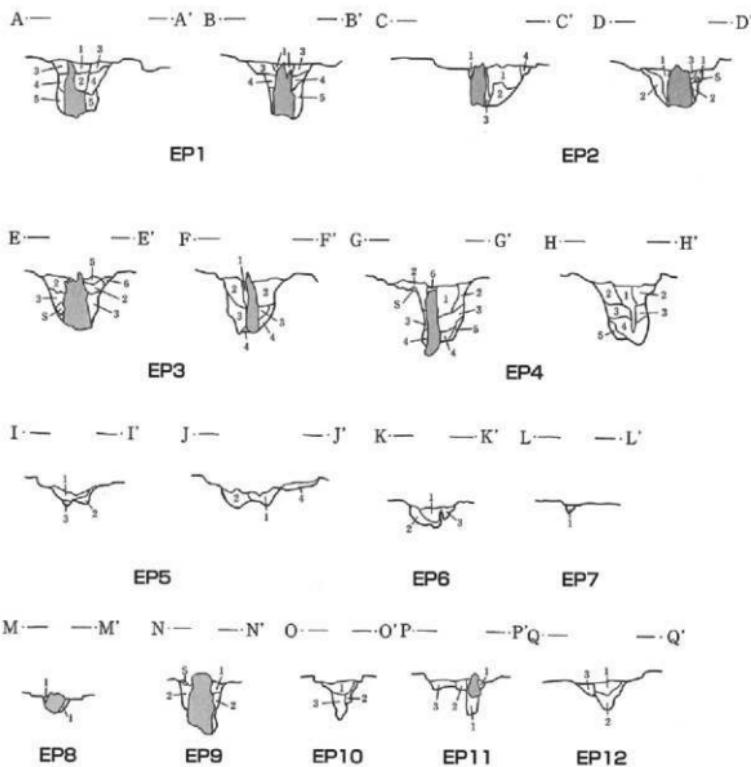
0 (1:40) 2m



第18図 石田遺跡SB5セクション・出土遺物



第19図 石田遺跡SB6平面図・出土遺物



※水系高は全て126,000m

0 (1:40) 2m
第20図 石田遺跡SB6セクション

SP42 (第21図 図版8)

(位 置) 調査区N-57グリッドに位置し、県埋文センター調査区検出の建物跡の一部を構成する
(山形県埋蔵文化財センター-2000)。

(規 模) 形状は不整円形を呈する。規模は長軸86cm、短軸72cmである。検出面からの深さは50cm
であった。

(主軸方向) N-7°-E。

(遺 物) 出土していない。

(年 代) 奈良～平安時代初頭の時期と考えられる。

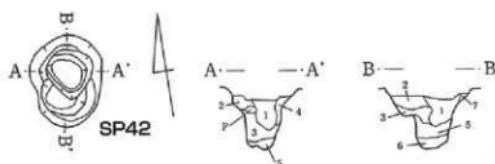
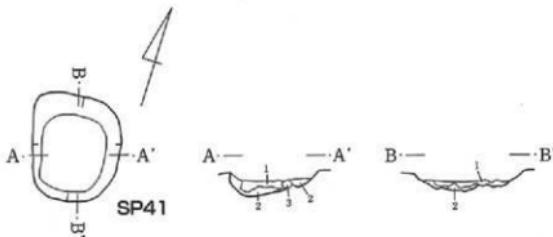
SP33 (第29図 図版10)

(位 置) 調査区N-60グリッドに位置する。

(規 模) 形状は円形を呈する。アタリ痕跡が検出時に確認された。規模は長軸50cm、短軸40cmで
ある。検出面よりの深さは20cmであった。

(遺 物) 出土していない。

(年 代) 断面観察から S D47を切る。奈良～平安時代初頭の時期と考えられる。



※水糸高は全て125,900m

0 (1:40) 2m

第21図 石田遺跡SP41・42

(3) 堅穴住居跡

1棟確認された。

S I 12 (第22~25図 図版8)

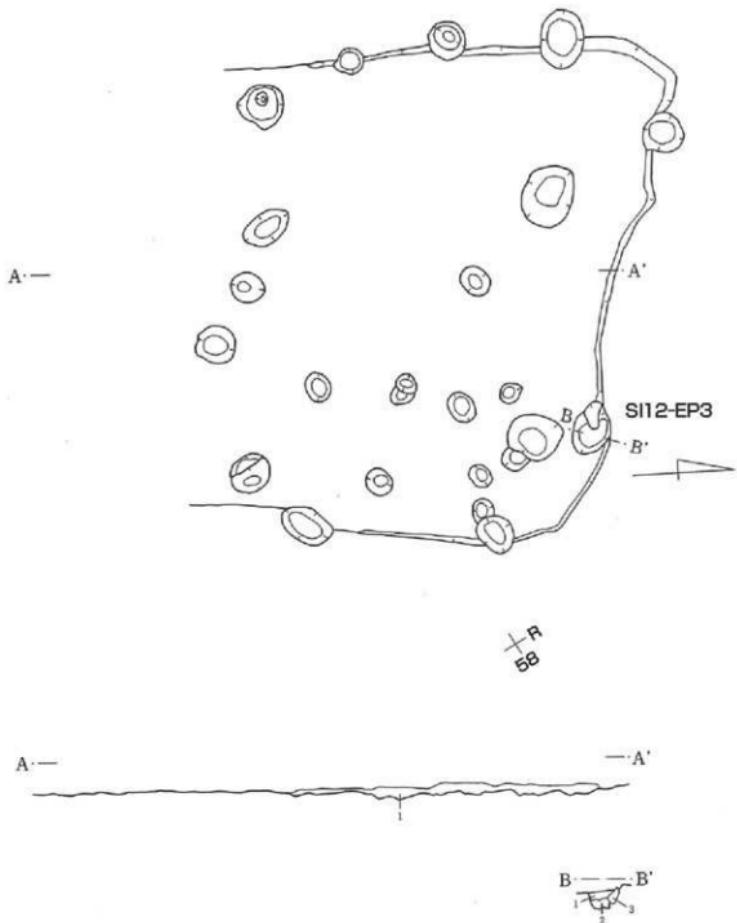
- (位 置) 調査区 R-57~58グリッドに位置する。
- (規 模) 形状は不整方形を呈する。規模は長軸4m、短軸4mと小さい。壁際の立ち上がりは明瞭でない。検出面からの深さも浅く、10cm程度の厚さであった。床面は確認することができず、覆土を精査するとすぐに地山層が検出される状況であった。
- (主軸方向) N-5° -E。
- (出土遺物) 遺物は多量に出土した。実測可能な限り図化を行ったが、須恵器に比べ、土師器の甕体部等では遺存状態が悪く、図化し得なかったものが多いことを明記しておきたい。種類は須恵器壺・有台壺・蓋・稜楕・壺・甕、土師器甕・赤焼土器蓋と多様に出土した。その内須恵器壺(12-1~9)・有台壺(12-10)・蓋(12-11~14)・稜楕(12-15~18)・壺(12-19~22)、土師器甕(12-23~28)、赤焼土器蓋(12-29)について図化し掲載した。断面観察からは、住居覆土は一層と確認されたが、S I 12住居跡の覆土そのものが二次堆積となる可能性も考えられ、住居の機能時期あるいは廃絶時期と、出土遺物を同時期のものと考えて良いかどうかは判然としない。
- (年 代) 出土遺物から8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられる。遺構同士の切り合いの観察から、SB 3より S I 12が新しくなる。しかし遺物の様相からは明瞭な時間差は見出せず、遺構群の新旧関係において掘立柱建物跡群の機能時期と S I 12の機能時期、S I 12覆土の堆積時期に大きな時間的隔たりは無いものと考えられる。住居の主柱穴と考えられる柱穴は確認されなかった。S I 12-E P 3を住居壁際で確認したが、壁柱穴となるかどうかは不明である。

(4) 土坑

1基確認された。

S K 14 (第26図 図版9)

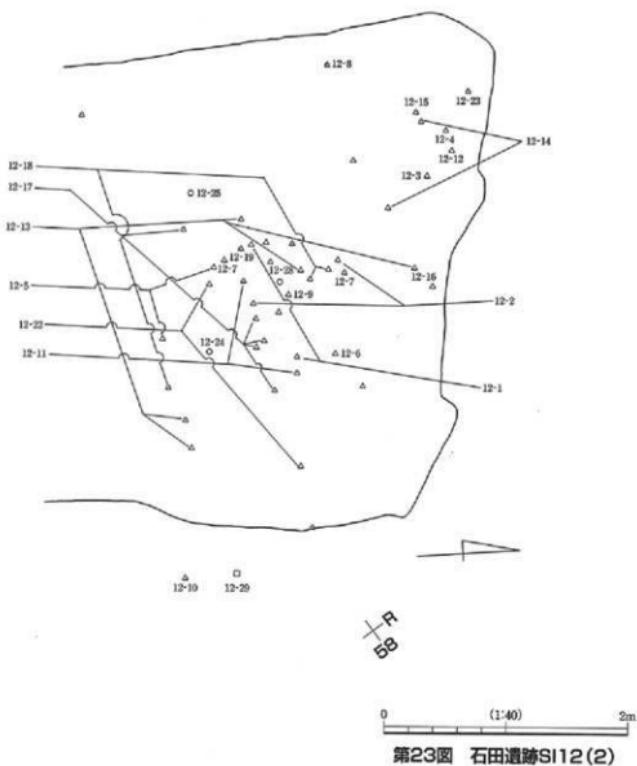
- (位 置) 調査区 P-57グリッドに位置する。
- (規 模) 平面形状は隅丸方形を呈し、規模は長軸約140cm、短軸84cm、深さ33cmを測る。断面観察より、SB 2 E P 6柱穴を切り、また遺構精査の途中、第16層(第26図)にて遺構覆土一面に植物質の物が検出される様相であったが、土坑そのものの性格の詳細については判然としなかった。
- (主軸方向) N-85° -E。
- (出土遺物) 遺物は須恵器壺・甕、土師器甕が出土した。その内、須恵器壺(14-1)・甕(14-2~3)、土師器甕(14-4)について図化し掲載した
- (年 代) 切り合いの観察から、SB 2より新しい。出土遺物から8世紀末~9世紀初頭の時期と考えられるが、周囲の遺構群との詳細な新旧関係については不明である。



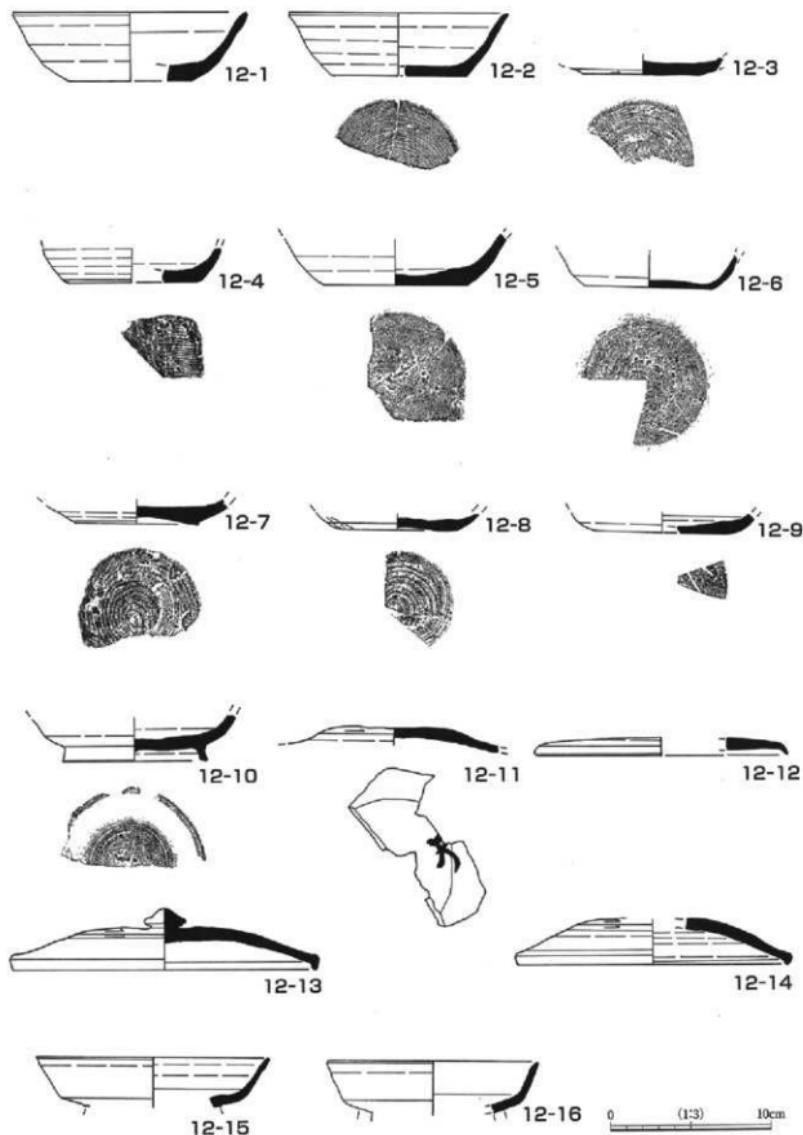
※水糸高は全て125.700m

0 (1:40) 2m

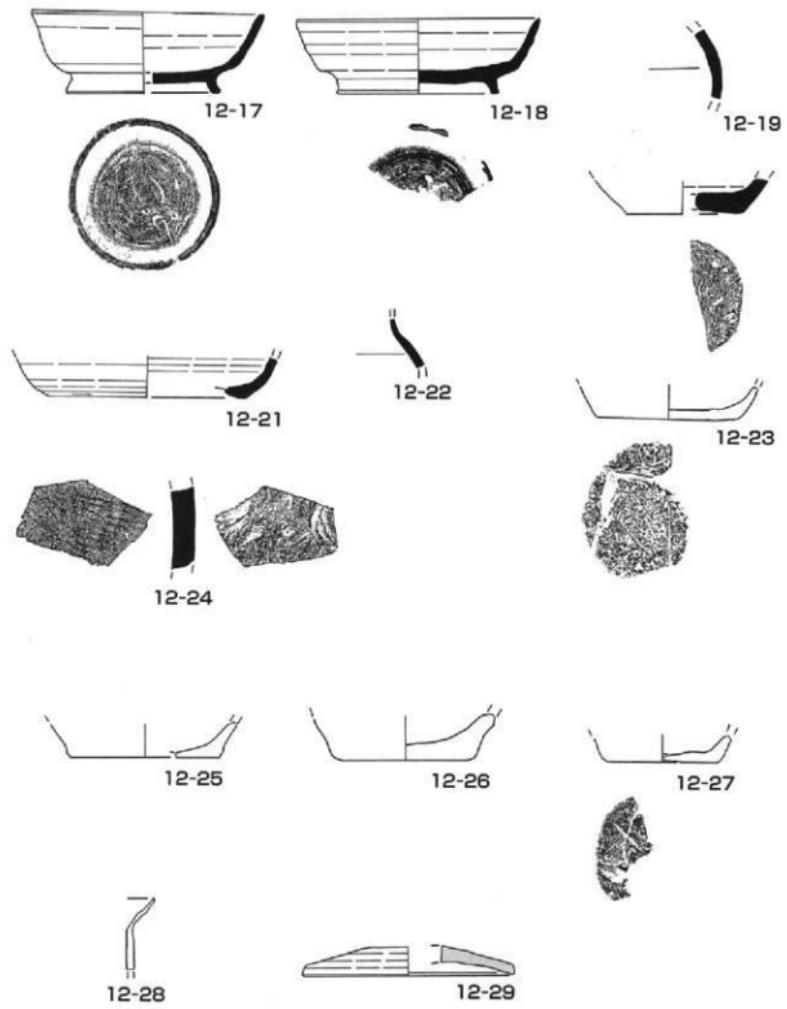
第22図 石田遺跡SI12(1)



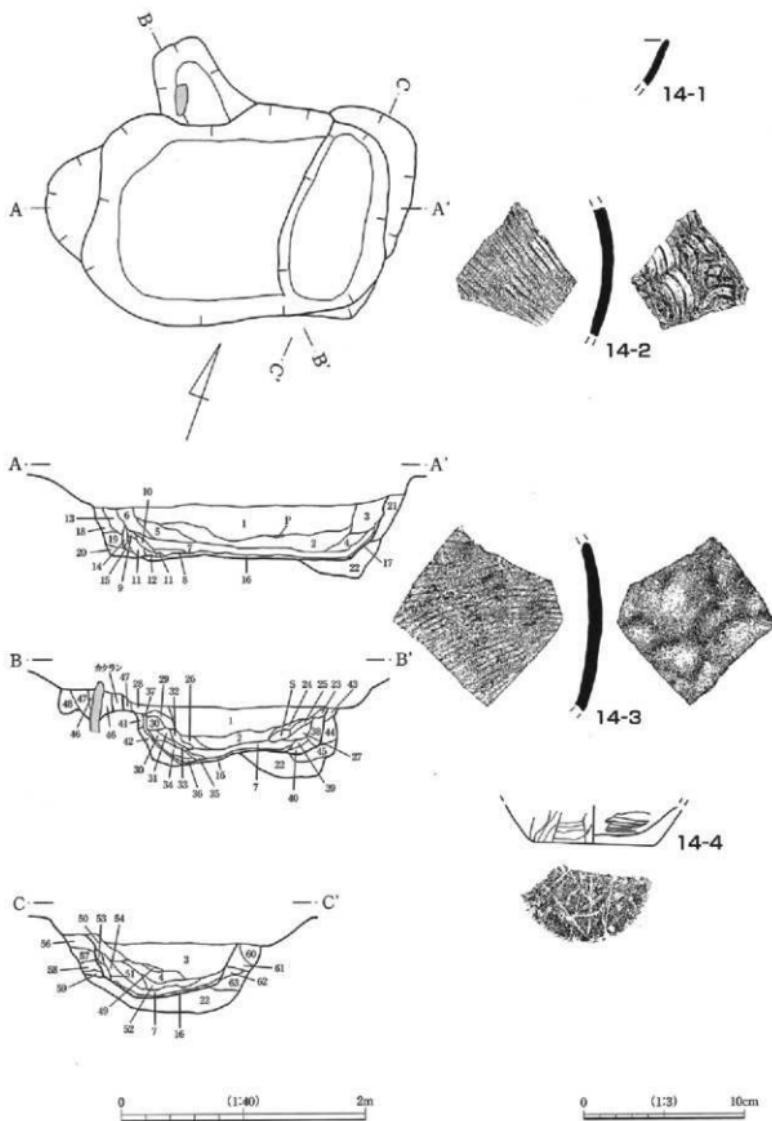
第23図 石田遺跡SI12(2)



第24図 石田遺跡SI12出土遺物(1)



第25図 石田遺跡SII-12出土遺物(2)



第26図 石田遺跡SK14

(5) 溝跡

8条確認された。

SD7・SD8 (第27図 図版10)

- (位置・方向) 調査区R-56~59グリッドに位置する。特にSD7は南西から北東に走り、後述するSG11川跡に流れ込むような様相である。
- (年代) 切り合いからは、古い順にSD8→SD7と並べることができる。前述の様相から、SG11とSD7は同時期に機能していた時期があるものと推察できる。奈良~平安時代に帰属するものと考えられた。
- (出土遺物) SD7とSD8の切り合っている部分より土師器甕底部(7-1)が出土した。

SD9・SD10・SD48 (第28図 図版9)

- (位置・方向) 調査区W-57~P-64グリッドに位置し、調査区東側中央を南東~北西に走る。東側の方が深く、西側に向かうにつれ浅くなる。
- (年代) 出土遺物が無いため時期の判別ができないが、遺構の切り合いにより、古い順からSD48→SD10→SD9と並べることができる。覆土の土色からは、SD48の覆土は黒く粘性の強い土質であり、奈良~平安時代に帰属するものと考えられた。SD9・10覆土の土色は表土の耕作土に近似した茶褐色であり、新しい時期の溝跡の可能性が高いと考えられる。

SD34・SD47 (第29図 図版10)

- (位置・方向) 調査区N-60グリッドに位置し、いずれも北側の調査区境界より南に向かって平行に走る様相である。近接のSB6掘立柱建物跡の桁行方向とも平行しており、建物跡群と関連する性格の溝跡と考えられる。
- (時期) SD34から須恵器の甕部(34-1)が出土している。SD47からは遺物は出土していない。いずれも覆土の状況より奈良~平安時代に帰属するものと判断される。

SD51 (第29図 図版13)

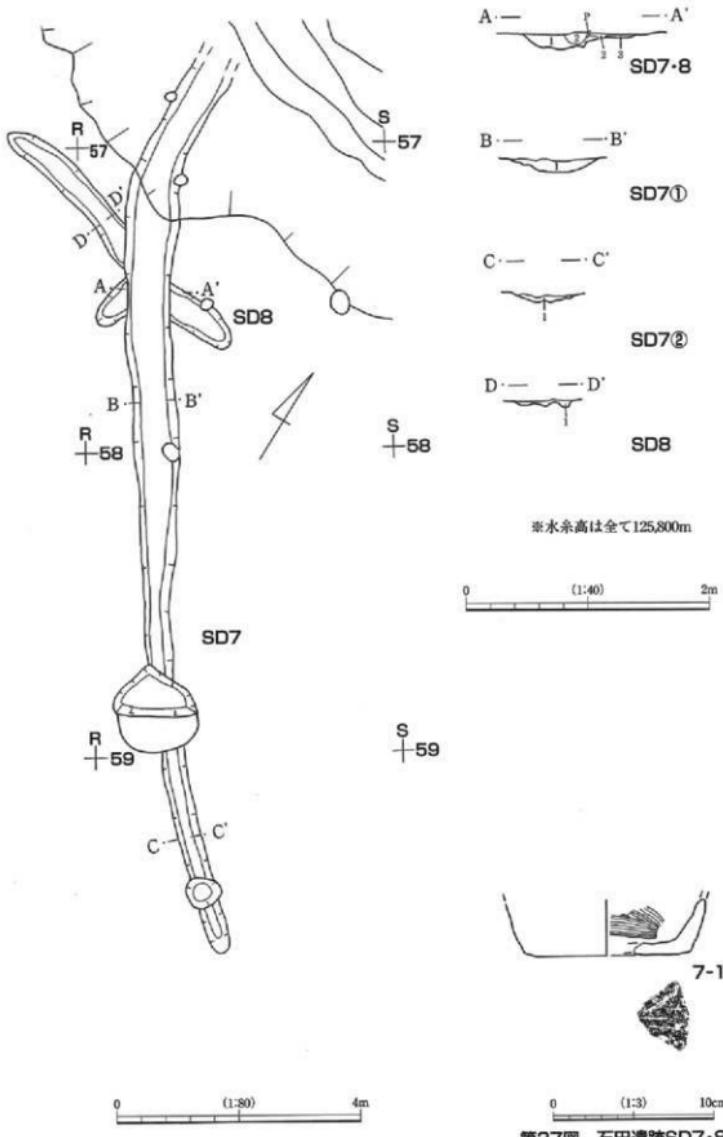
- (位置・方向) 調査区N-54グリッドに位置し、北側調査区境界より北東方向に向かって走る。
- (時期) 須恵器蓋(51-1)が1点出土しており、覆土の状況から奈良~平安時代に帰属するものと判断される。

(6) 河川跡

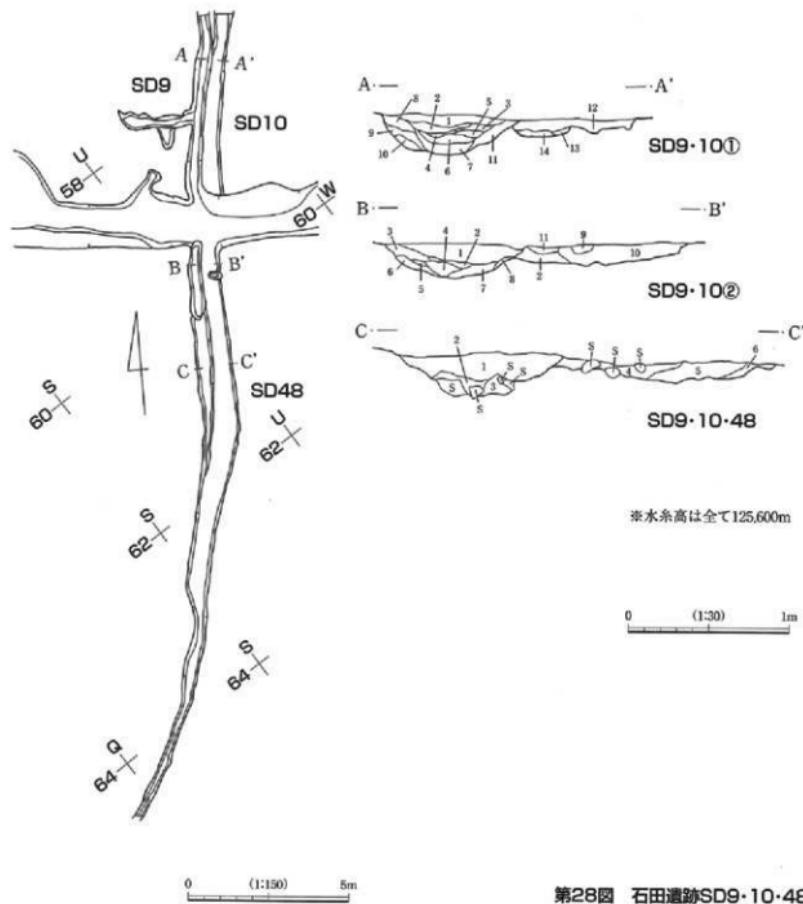
1条確認された。

SG11 (第30~32図 図版10~11)

- (位置・方向) 調査区東側に位置し、北東から東に走る様相である。深さは最も深い地点で確認面より1.5m程度、浅い地点では確認面より20~30cm程度の深さであった。覆土は黒色で粘性が強く、量は少ないが、主として底面近くに遺物が出土した。また、T-54グリッド周辺から一面に敷き詰めたように礫群が検出された。その様相から人為的なものと現場調査段階では判断した。SG11の北端、R-54グリッドには浅い掘り込みが集中する



第27図 石田遺跡SD7-8

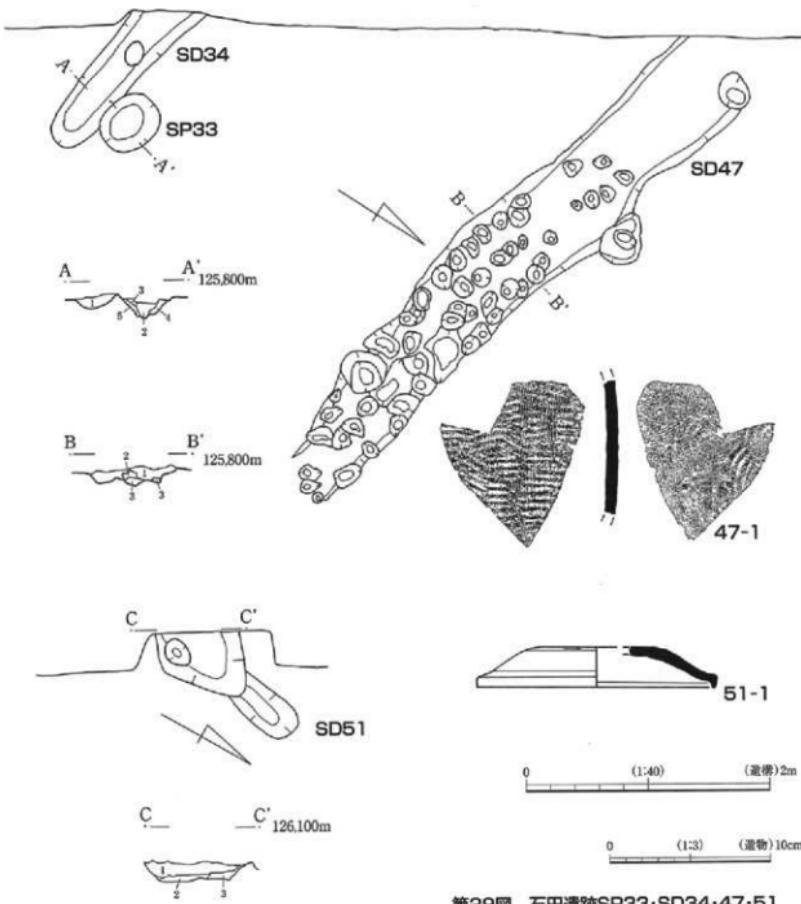


第28図 石田遺跡SD9-10-48

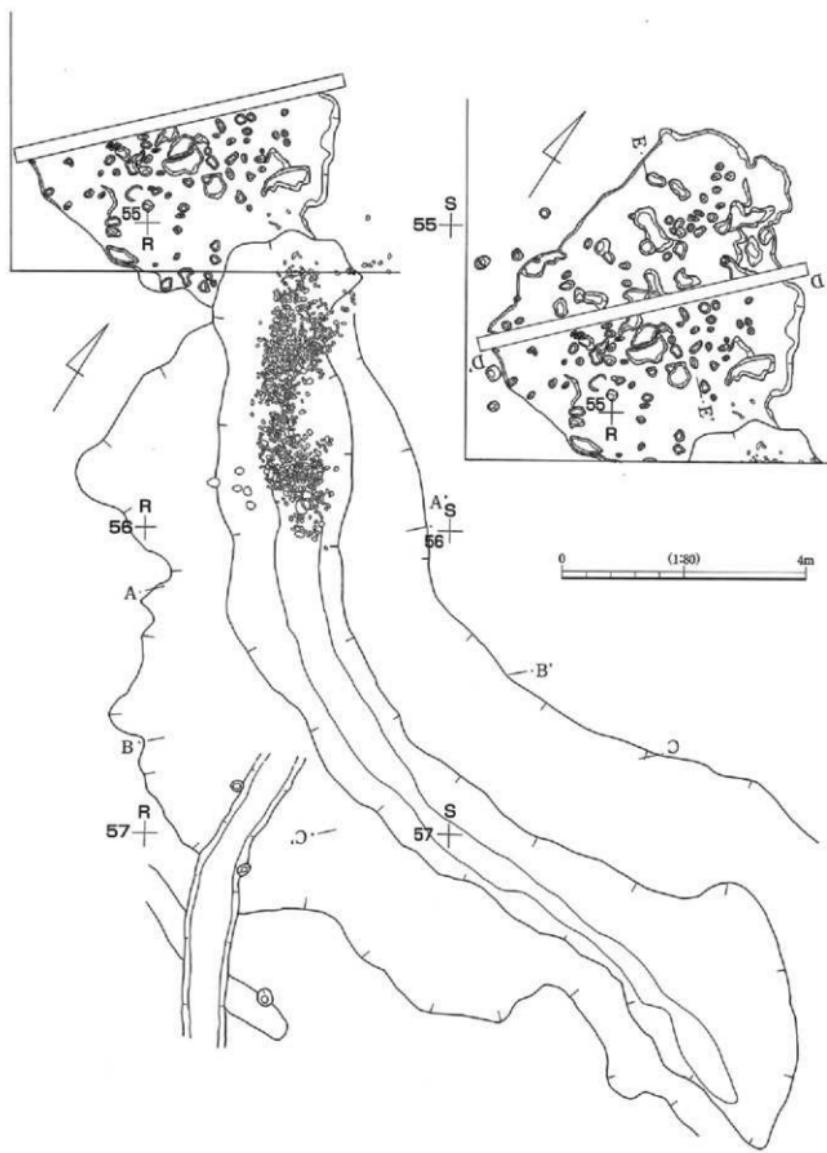
遺構が検出された。SG11と連続するものと考えられた。

(年 代) 川跡出土遺物からは奈良～平安時代初頭に帰属するものと考えられる。

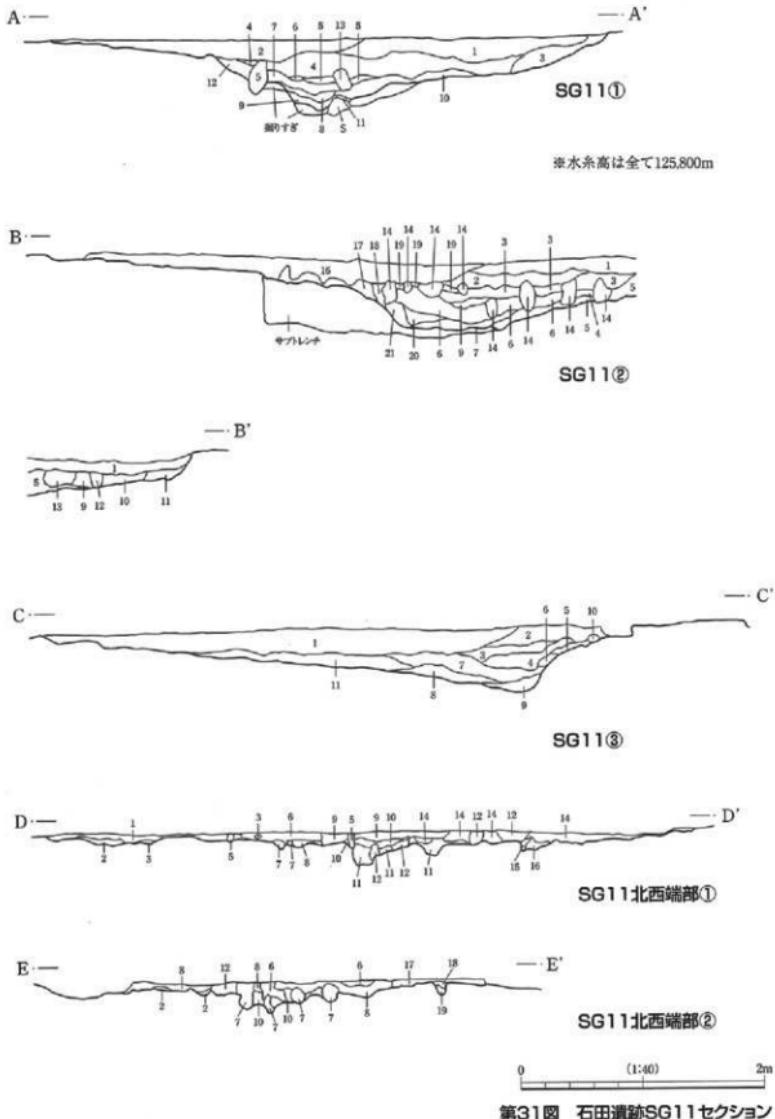
(出土遺物) 遺物は須恵器有台壺・蓋・甕、土師器甕・壺、玉韁轡？が出土した。その内、須恵器有台壺(11-1)・蓋(11-2)・甕(11-3・5)、土師器甕(11-4・6)について図化し掲載した。有台壺(11-1)には墨書が底面に確認された。

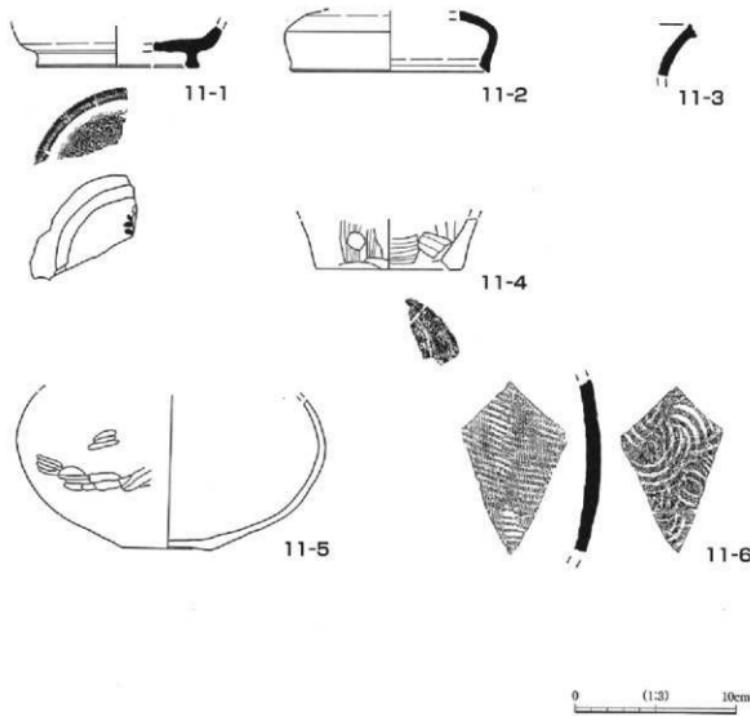


第29図 石田遺跡SP33・SD34・47・51



第30図 石田遺跡SG11平面図



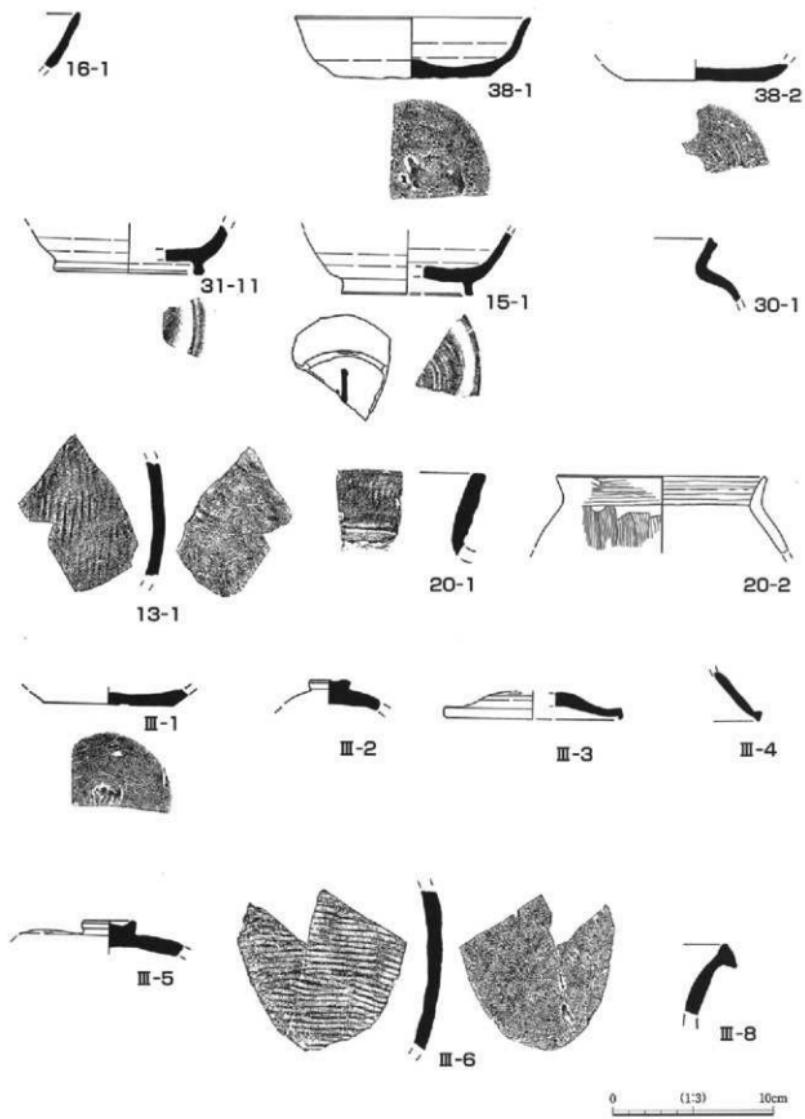


第32図 石田遺跡SG11出土遺物

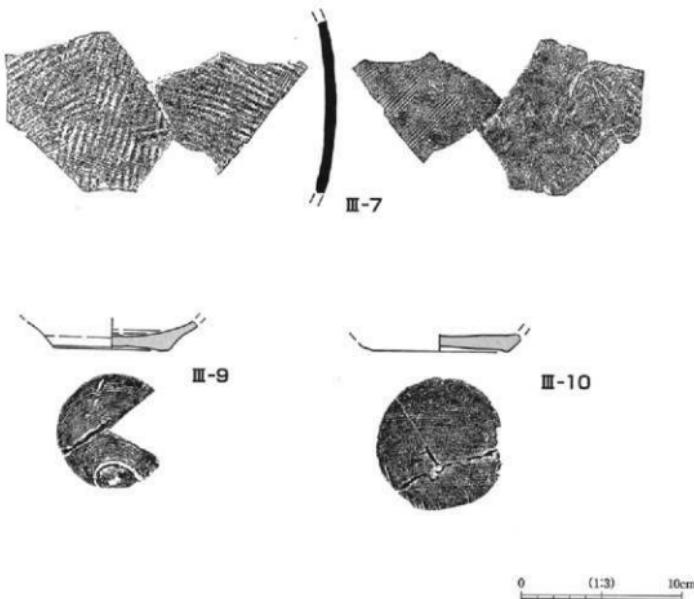
(7) SP・確認面出土遺物 (第33~34図 図版14~15)

表土や確認面、及び落ち込みや小規模なピットより土師器、須恵器、赤焼土器が出土した。以下、図化可能だったものについて掲載した。

須恵器は壺や有台壺、甕などが出土している。中には1点のみだが底部に墨書のある有台壺(15-1)が確認された。土師器について図化し得たものは少數であり、その中では甕(20-2)が確認された。遺構からは検出されなかったが、赤焼土器の壺が2点(III-9~10)出土している。



第33図 石田遺跡SP・確認面出土遺物(1)

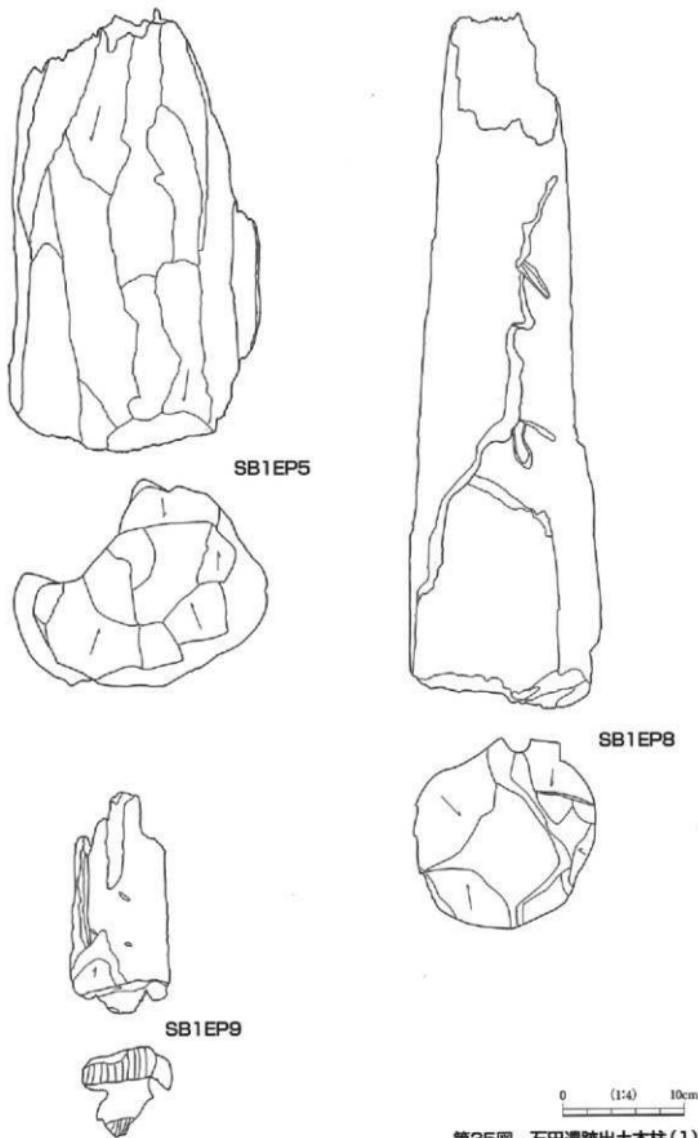


第34図 石田遺跡SP・確認面出土遺物(2)

(B) 木製品 (第35~40図 図版16)

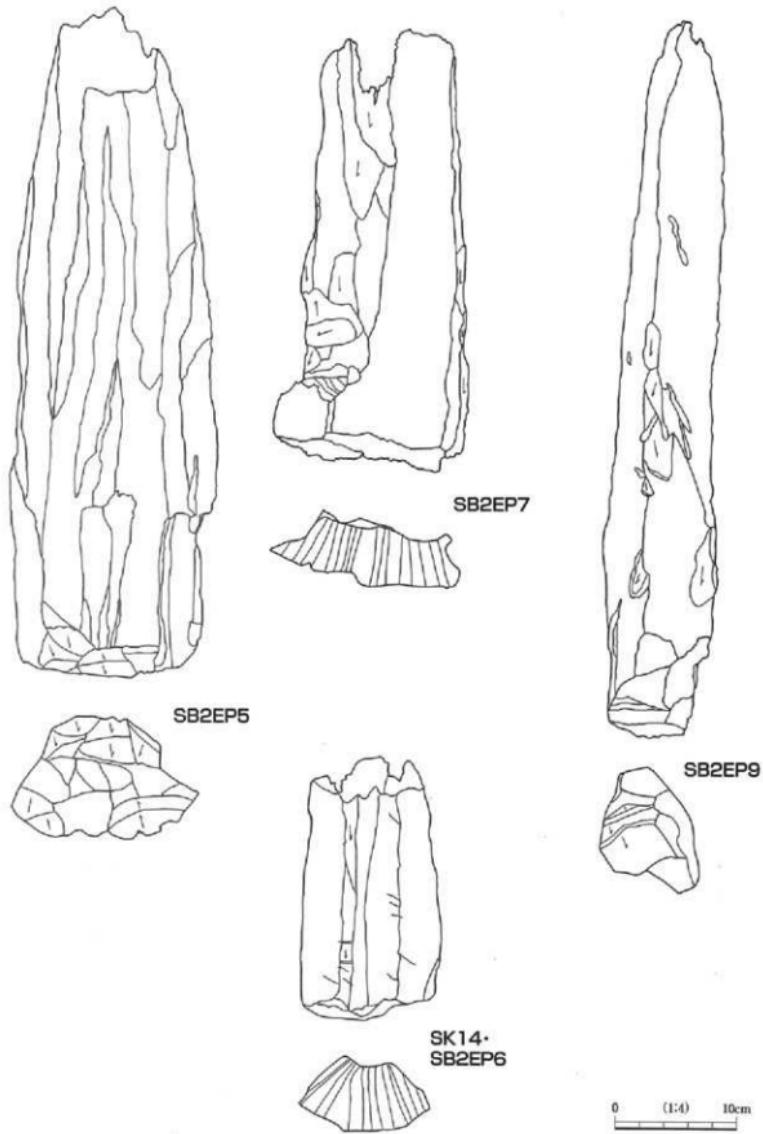
掘立柱建物跡を構成する柱穴の中には木柱が検出されたものがあり、それら14点の木柱について図化を行い掲載した。

木柱の加工の状況については、大別すると1本の材について割らずに使用されていたもの、あるいは複数に分割して使用されていたものが確認された。柱のそれぞれで腐食の状況もまちまちであった。底部を肉眼により観察し、割り方による分類を行った。それらの分類内容については観察表(表5)に示した。なお、SK14・SB2EP6出土の柱については、SK14に帰属するものと考えられたが、明確には出土遺構を区別できず、2つの遺構からの出土と記載した。

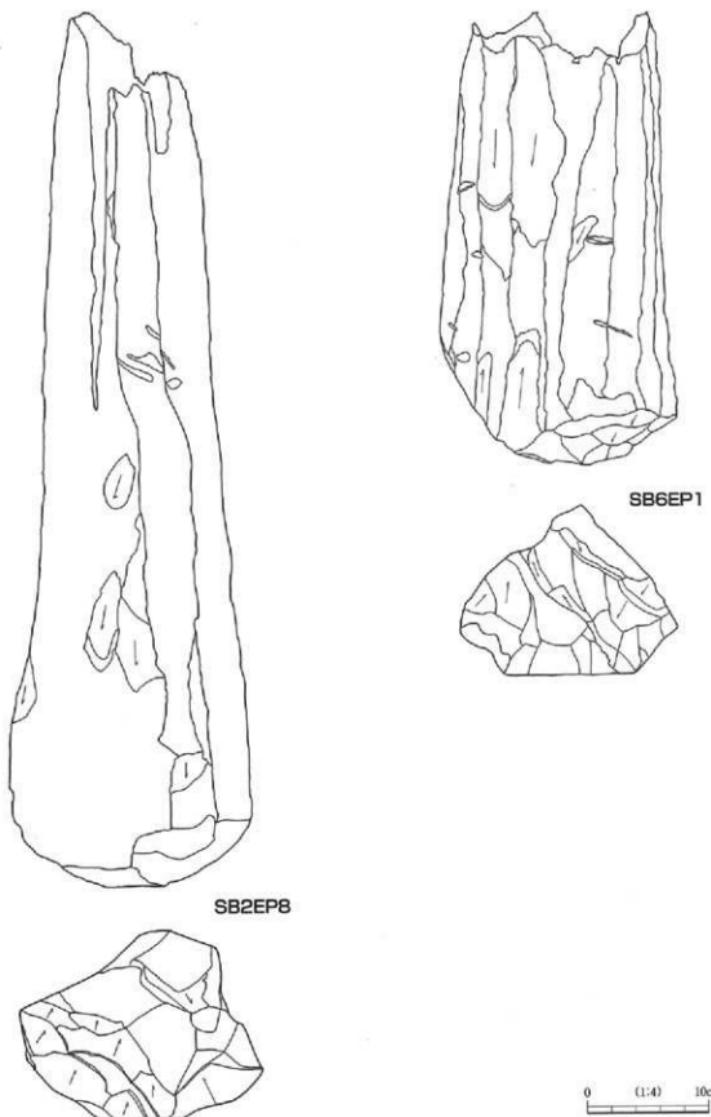


第35図 石田遺跡出土木柱(1)

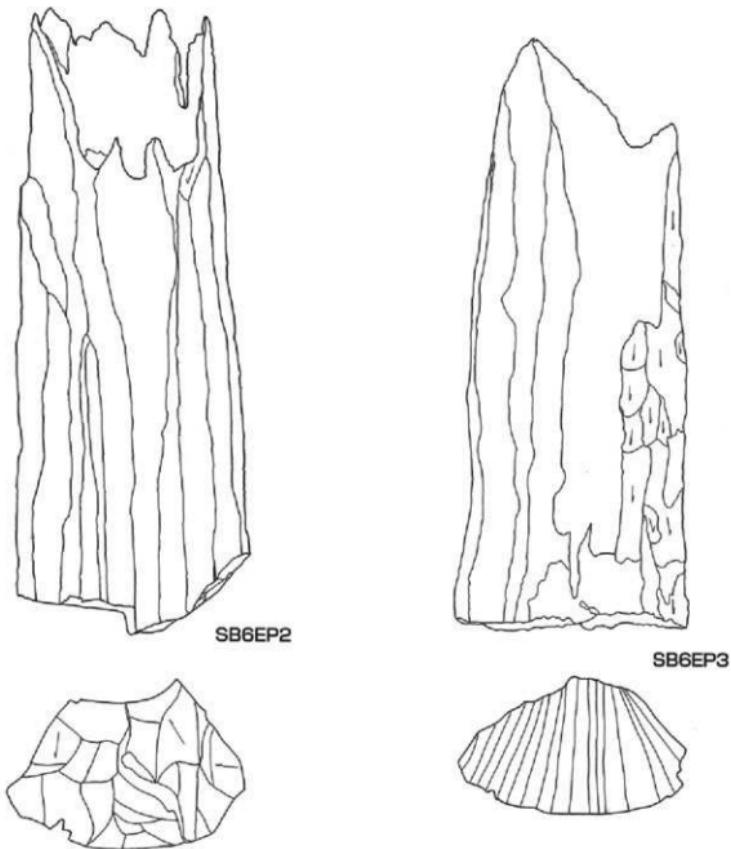
0 (1:4) 10cm



第36図 石田遺跡出土木柱(2)

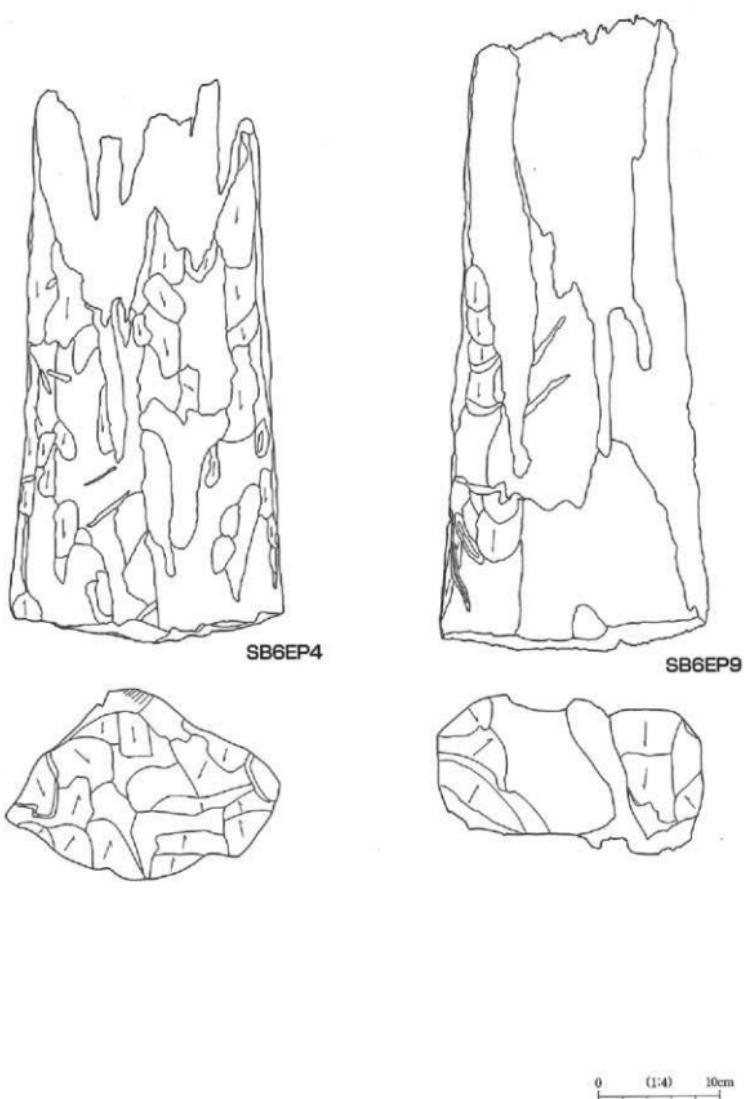


第37図 石田遺跡出土木柱(3)

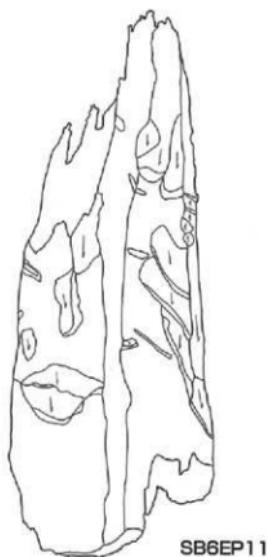


0 (1:4) 10cm

第38図 石田遺跡出土木柱(4)



第39図 石田遺跡出土木柱(5)



0 (1:4) 10cm

第40図 石田遺跡出土木柱(6)

表3-1 石田遺跡土層注記

遺構番号	層序	土色	土質	備考	地図
SB 1 - EP 1	1	2.5Y3/1	黒褐色シルト	均質。アカリ。	
	2	2.5Y3/1	黒褐色シルト	1層に10層がまじる。抜取り痕。	
	3	2.5Y3/1	黒褐色シルト	1層に10層がまじる。抜取り痕。	
	4	10YR1.7/1	黒色砂質土	約2~5cm大の2.5Y5/2暗灰黄色砂質土ブロックがまじる。抜取り痕。	
	5	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~5cm大の2.5Y5/2暗灰黄色砂質土ブロック少々まじる。抜取り痕。	
	6	10YR2/1	黒褐色砂質土	均質。抜取り痕。	
	7	10YR2/1	黒褐色砂質土	約5~10mm大の2.5Y5/2暗灰黄色砂質土粒がまじる。抜取り痕。	
	8	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	均質。抜取り痕。	
	9	2.5Y4/1	黃褐色砂質土	均質。抜取り痕。	
	10	5Y4/1	灰褐色砂質シルト	均質。	
	11	10YR1.7/1	黒褐色砂質土	均質。	
	12	10YR2/1	黒色砂質土	2.5Y5/2暗灰黄色砂質土がブロック状にまじる。	7
	13	5Y5/1	灰褐色砂質土	10YR2/1黒褐色砂質土がまじる。	
	14	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	約2~3cm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックが少々まじる。	
	15	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	14層より約3~5cm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックが少々まじる	
	16	5Y4/1	灰褐色砂質シルト	均質。	
	17	5Y4/1	灰褐色砂質土	均質。	
	18	10YR1.7/1	黒褐色シルト	均質。	
	19	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	約2~3cm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックが少々まじる。	
	21	5Y4/1	灰褐色砂質土	地山との崩落。	
	22	10YR3/1	無褐色砂質土	均質。	
	23	10YR1.7/1	黒褐色砂質土	約5~8cm大の2.5Y6/1黄褐色砂質土ブロックがまじる。	
	24	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	10YR2/1黒色砂質土が少々まじる。	
	25	10YR1.7/1	黒褐色シルト	均質。	
SB 1 - EP 2	1	10YR1.7/1	黒色砂質土	約2~7cm大の2.5Y6/1黄褐色砂質土地山ブロックがまじる。	
	2	2.5Y5/2	黄褐色砂質土	均質。	
	3	10YR2/1	黒褐色砂質土	約1~2cm大の2.5Y6/1黄褐色砂質土地山ブロックを少々含む。	
	4	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。	
	5	10YR2/1	黒褐色シルト	約2~3cm大の7層ブロックが少々まじる。	
	6	2.5Y5/1	黄褐色シルト	地山とのブロック。	
	7	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	均質。	
	8	10YR2/1	黒色砂質土	均質。	
	9	10YR2/1	黒褐色砂質土	均質。	
	10	2.5Y5/1	黄褐色砂質土	地山の崩落。約1~2cm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックが少々まじる。	7
	11	2.5Y6/1	黄褐色砂質土	地山の崩落。約1~2cm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックが少々まじる。	
	12	10YR2/1	黒色砂質土	均質。	
	13	10YR1.7/1	黒褐色シルト	均質。	
	14	10YR2/1	黒褐色砂質土	約3~5cm大の2.5Y5/2暗灰黄色砂質土の地山ブロックがまじる。	
	15	10YR2/2	黒褐色砂質土	均質。繊が少々まじる。抜取り痕。	
	16	10YR2/2	黒褐色砂質土	均質。抜取り痕。	
	17	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	14層がまじる。抜取り痕。	
	18	10YR3/1	暗褐色砂質土	均質。抜取り痕。	
	19	2.5Y5/1	黄褐色砂質土	地山との崩落。抜取り痕。	
	20	10YR3/1	黒褐色砂質土	ややシルト質。抜取り痕。	
	21	10YR2/1	黒褐色砂質シルト	均質。抜取り痕。	
SB 1 - EP 3	1	10YR1.7/1	黒色砂質土	均質。抜取り痕。	
	2	10YR2/1	黒褐色シルト	約2cm大2.5Y5/2暗灰黄色砂質土ブロック少々まじる。抜取り痕。	
	3	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。	
	4	10YR2/1	黒色砂質土	2.5Y5/2暗灰黄色砂質土地山土が少々まじる。	
	5	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~3cm大で2.5Y5/2暗灰黄色砂質土地山土ブロックがまじる。	
	6	10YR3/1	黒褐色シルト	均質。	
	7	10YR2/1	黒色砂質土	2.5Y4/1黄褐色シルト・2.5Y5/2暗灰黄色砂質土がブロック状にまじる。	
	8	10YR1.7/1	黒褐色シルト	均質。	
	9	10YR2/1	黒褐色砂質土	2.5Y4/1黄褐色シルト・2.5Y5/2暗灰黄色砂質土がブロック状にまじる。	
	10	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	地山土のブロック。	7
	11	2.5Y5/1	黄褐色砂質シルト	9層がまじる。	
	12	2.5Y5/1	黄褐色砂質シルト	均質。10YR2/1黒色シルトがブロックで少々まじる。	
	13	10YR3/1	黒褐色砂質土	均質。	
	14	2.5Y5/1	黄褐色砂質土	均質。	
	15	2.5Y6/1	黄褐色砂質土	均質。地山土の崩落。	
	16	10YR1.7/1	黒褐色シルト	均質。	
	17	2.5Y5/1	黄褐色砂質土	10YR2/1黒色砂質土が少々まじる。	
	18	2.5Y5/1	黄褐色砂質土	均質。	
	19	10YR2/1	黒褐色シルト質	均質。	
SB 1 - EP 4	1	10YR2/1	黒色砂質シルト	均質。約5~10cmがまばらにまじる。アカリ。	
	2			1層と15層のまぎり。アカリ。	
	3	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。アカリ。	
	4	10YR1.7/1	黒色砂質土	2.5Y6/1黄褐色砂質土の地山土がブロック状にまざる。	
	5	2.5Y5/1	黄褐色砂質シルト	均質。	
	6	2.5Y5/1	黄褐色シルト質	均質。	
	7	2.5Y5/1	黄褐色シルト質	6層とほほ同じ。やや粘土質。	
	8	10YR1.7/1	黒褐色砂質土	2.5Y6/1黄褐色砂質土の地山土がブロック状にまざる。	

表3-2 石田遺跡土層注記

連続番号	層序	土色	土質	備考	地図
SB1-EP4	9	2.5Y5/1	黄灰色シルト	2.5Y6/1 黄灰色シルト質土がまじる。	
	10	10YR2/1	黒色砂質土	均質。	
	11	2.5Y6/1	黄灰色砂	10YR2/1 黑色砂質土がまじる。	
	12	2.5Y5/1	黄灰色砂質シルト	5層より細質。抜取り痕。	
	13	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	抜取り痕。	
	14	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	# 2 ~ 3 cm 大の 10YR2/1 黑色シルト質土がまざる。抜取り痕。	7
	15	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。抜取り痕。	
	16	2.5Y5/1	黄灰色シルト	均質。抜取り痕。	
	17	2.5Y5/1	黄灰色シルト質砂	6層よりやや粘性強。抜取り痕。	
	18	2.5Y5/1	黄灰色シルト	均質。抜取り痕。	
	19	2.5Y5/1	黄灰色シルト質砂	# 2 ~ 3 cm 大 10YR2/1 黑色シルト質土ブロックが少々まじる。抜取り痕。	
	1	10YR1.7/1	黒色シルト	均質。アタリ。	
	2	10YR1.7/1	黒色シルト	均質。アタリ。	
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	粗砂質。	
	4	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	やや粘性強。	
	5	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	10YR2/1 黑色シルト質土・2.5Y5-1 シルト質土がまだらにまじる。	
	6	10YR1.7/1	暗灰砂質土	4層と 8 層が少々まじる。	
	7	10YR1.7/1	黒色砂質土	均質。ややシルト質多。	
	8	2.5Y5/1	黄灰色シルト		
	9	2.5Y6/1	黄灰色シルト		
SB1-EP5	10	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。	
	11	2.5Y6/1	黄灰色砂		
	12	10YR1.7/1	黒色シルト	均質。	
	13	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	地山土の崩落。	
	14	10YR1.7/1	黒色土シルト	均質。	
	15	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	# 3 ~ 5 mm 大の 10YR2/1 黑色砂質土ブロックが少々まじる。	
	16	10YR1.7/2	黑色砂質土	# 5 ~ 10 mm 大の 2.5Y5-2 暗灰黄色砂質土ブロックがまじる。	
	17	2.5Y5/1	黄灰色シルト	均質。	
	18	10YR4/1	暗灰黄色砂質土	地山土の崩落。	
	19	10YR3/1	暗灰砂質土	均質。	
	20	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	地山土の崩落。	
	1	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。	
	2	10YR1.7/1	黑色砂質土	# 1 ~ 2 cm 大ブロックで 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土がまじる。	
	3	10YR4/1	暗灰黄色砂シルト	# 5 ~ 8 mm 大の礫化物が少々まじる。	
	4	10YR1.7/1	黑色砂質土	2.5Y4/1 暗灰黄色シルト質土・# 5 ~ 10 mm 大の礫がまじる。	
	5	10YR1.7/1	黑色砂質土	# 5 ~ 8 mm 大の 2.5Y5/1 暗灰砂質土ブロックがまじる。	
	6	2.5Y5/1	黄灰色砂質シルト	砂が少々まじる。	
	7	2.5Y5/1	黄灰色砂質シルト	5 層より砂質や多い。10YR2/1 暗色砂質土も少々まじる。	
	8	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	均質。ややシルト質多。	
	9	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	均質。ややシルト質多。	
SB1-EP6	10	10YR3/1	暗褐色砂質土	均質。# 5 ~ 5 cm 大の礫化物が少々まじる。抜取り痕。	
	11	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。# 3 ~ 5 cm 大地山ブロックがまじる。抜取り痕。	
	12	10 Y 4/1	褐褐色砂質シルト	抜き取り痕。	
	13	10YR2/1	黑褐色砂質土	均質多。# 2 ~ 3 cm 大の地山ブロックがまじる。抜き取り痕。	
	14	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	地山土の崩落か。抜き取り痕。	
	15	10YR2/1	褐色シルト	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土・2.5Y4/1 暗灰シルトがまじる。抜き取り痕。	
	16	2.5Y5/1	黄灰色シルト	地山の崩落。抜き取り痕。	
	17	2.5Y5/1	黄灰色シルト	16 層より砂質多。抜き取り痕。	
	1	10YR2/1	褐色砂質土	# 2 ~ 3 mm 大の砂粒ブロックを含む。抜き取り痕。	
	2	10YR2/1	褐色砂質土	10YR5/3 にいよいよ褐色砂質土がまじる。抜き取り痕。	
	3	10YR2/1	褐色砂質土	地山土の崩落。2 層をまじる。抜き取り痕。	
	4	10YR5/1	褐褐色砂質シルト	2 層が少々まじる。抜き取り痕。	
	5	10YR5/1	褐色砂質シルト	# 2 ~ 3 cm 大の礫が少々まじる。抜き取り痕。	
	6	10YR3/1	褐色砂質シルト	均質。抜き取り痕。	
	7	10YR3/1	褐色砂質シルト	均質。抜き取り痕。	
	8	10YR2/1	褐色砂質土	# 2 ~ 3 mm 大礫が均質にまじる。抜き取り痕。	
	9	10YR2/1	褐色シルト	均質。	
SB1-EP7	10	10YR2/1	褐色砂質土	ややシルト質多。	
	11	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	# 2 ~ 3 cm 大の 2.5Y5/1 暗灰砂質土地山ブロックがまじる。	
	12	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	地山土の崩落。	
	13	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	10YR4/1 暗灰砂質土がまじる。	
	14	10YR4/1	暗灰黄色砂質土	13 層がまじる。	
	15	10YR2/1	褐色砂質シルト	# 2 ~ 3 mm 大礫がまじる。	
	16	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	地山土の崩落。	
	17	5Y4/1	灰褐色砂質土	13 層がまじる。	
	18	5Y4/1	灰褐色砂質シルト	均質。	
	19	10YR4/1	暗灰砂質土	均質。	
	20	10Y R2/1	褐色砂質土	均質。	
	21	10YR4/1	褐褐色砂質シルト	均質。	
	22	10YR4/1	褐褐色砂質土	# 2 ~ 3 cm 大の 10YR2/1 黑色砂質土ブロックが少々まじる。	
SB1-EP8	1	10YR2/1	褐色砂質土	# 3 ~ 5 cm 大の 2.5Y5/1 暗灰砂質土がブロックで全体にまじる。	
	2	2.5Y5/1	褐褐色砂質土	地山土の崩落。	
	3	10YR2/1	褐色砂質土	均質。	
	4	10YR2/1	褐色砂質土	均質。地山土の崩落がまじる。	

表3-3 石田遺跡土層記述

遺跡番号	層序	土色	土質	備考	範囲
SB 1 - EP 8	5	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	地山土のブロック。	7
	6	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	2.5YS/1暗灰色シルト質土がまじる。	
	7	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	ブロック状で堆積。	
	8	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	10YR2/1黒色砂質土が互層に堆積する。	
	9	2.5Y4/1	黄灰色シルト	7層がまじる。	
	10	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	均質。	
	11	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。	
	12	10YR2/1	褐色シルト	均質。約5cmの大粒がまじる。	
	13	10YR2/1	褐色シルト	均質。	
	14	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	地山上の崩落。	
	15	10Y R3/1	黑褐色砂質土	14層がまじる。	
	16	10 Y R3/1	黑褐色砂質土	均質。	
	17	10 Y R3/1	黑褐色砂質土	地山土の崩落がまじる。	
	18	10BG2/1	青黒色シルト	グライ化?	
	19	10YR3/1	黑褐色砂質土		
	20	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y6/1黄灰色砂質土・礫などがまじる。	
	21	10YR3/1	黑褐色砂質土	地山上々がまじる。	
	22	2.5Y4/1	黄灰黄色砂質土	均質。ややシルト質多。	
	1	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y5/2暗灰黄色砂質土などがまじる。EP 9と測定のビット。	
	2	10YR1.7/1	褐色シルト	均質。	
	3	10YR2/1	黑色砂質土		
	4	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y5/2暗灰黄色砂質土などがまじる。約10mm大でブロック状に堆積。	
	5	10YR2/1	黑色砂質土	5mmよりシルト質少ない。	
	6	10YR2/1	黑色砂質土	約2～3cmの大2.5Y5/2暗灰黄色砂質土がブロック状に堆積。	
SB 1 - EP 9	1	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y5/2暗灰黄色砂質土地山土がまじる。新しい堆積か。	7
	2	10YR2/1	黑色砂質土	ブロック状に堆積する。	
	3	10YR2/1	黑色砂質土		
	4	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	10YR2/1黑色砂質土が少々まじる。	
	5	10YR2/1	黑色砂質土	均質。ややシルト質多。約5mmの大粒がまじる。	
	6	10YR2/1	褐色シルト	約5～10mm大で層の崩落がブロック状にまじる。	
SB 1 - EP 10	1	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y5/2暗灰黄色砂質土地山土がまじる。新しい堆積か。	7
	2	10YR2/1	黑色砂質土	ブロック状に堆積する。	
	3	10YR2/1	黑色砂質土		
	4	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	10YR2/1黑色砂質土が少々まじる。	
	5	10YR2/1	黑色砂質土	均質。ややシルト質多。約5mmの大粒がまじる。	
	6	10YR2/1	褐色シルト	約5～10mm大で層の崩落がブロック状にまじる。	
SB 2 - EP 1	1	10YR4/3	泥状青褐色靜土	泥状青褐色靜土。	10
	2	10YK3/1	黑褐色砂質土	約2～3cmの大2.5Y5/1黄灰色砂質土ブロックが少々まじる。	
	3	2.5Y5/1	黄灰色粘土	均質。	
	4	5Y6/1	灰色砂質粘土	均質。2層・3層が少々まじる。	
	5	5Y5/1	灰色砂質土	約1～2cmの大10YR1.7/1黑色シルト質土が少々まじる。	
	6	5Y5/1	灰色砂質土	均質。	
	7-1	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	10YR1.7/1黑色砂質土がまじる。	
	7-2	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	2.5Y5/2黄灰色砂質土がまじる。	
	7-3	2.5Y5/1	黄灰色砂質粘土	2.5Y5/2黄灰色砂質粘土	
	8	2.5Y6/1	黄灰色粘土	ブロック状で堆積。10YR2/1黑色砂質土がまじる。	
	9	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。	
	10	5Y6/1	黑色砂質土	均質。	
	11	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	10YR2/1黑色砂質土が少々まじる。	
	12	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y5/1黄灰色砂質土が少々まじる。	
	13	10YR2/1	黑色砂質土	均質。	
	14	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	13層が少々まじる。	
	15	10YR2/1	黑色砂質土	均質。	
	16	5Y5/1	黑色砂質土	均質。	
	17	2.5Y3/1	黑褐色シルト	5Y5/1黄灰色砂質シルトがまじる。	
	18	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	2.5Y5/2黄灰色砂質土がまじる。	
	19	5Y5/1	黑色砂質土	約2～3cmの大10YR1.7/1黑色シルト質土のブロックがまじる。	
SB 2 - EP 2	1	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。	10
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	ブロック状で堆積。	
	2'	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	2層に約1～2cmの大10YR2/1黑色砂質土ブロックがまじる。	
	3	2.5Y6/1	黄灰色砂質土	均質。	
	4	10YR3/1	黑褐色シルト	均質。	
	5	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	均質。	
	6	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	6層・2層が互層にまじる。	
	7	2.5Y5/1	黄灰色砂質シルト	均質。	
	8	10YR2/1	黑色砂質土	約2～3cmの大2.5Y5/2暗灰黄色砂質土ブロックが少々まじる。	
	9	2.5Y5/2	暗灰黄色砂質土	2.5Y4/1黄灰色シルト質土がまじる。	
	10	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	均質。	
	11	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	10YR2/3黑褐色砂質土ブロックが少々まじる。	
SB 2 - EP 3	1	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。	10
	2	10YR1.7/1	黑色砂質土	約5～10mm大の礫が少々まじる。	
	3	10YR3/1	黑褐色シルト	均質。	
	4	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。	
	5	10YR3/1	黑色砂質土	約3～8cmの大2.5Y5/1黄灰色砂質土ブロックがまじる。	
	6	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。ややシルト質多。	
	7	2.5Y3/1	黑褐色シルト	均質。ややシルト質多。	
	8	2.5Y5/2	黑褐色砂質土	10YR2/1黑褐色砂質土がまじる。	
	9	2.5Y5/1	黄灰色砂質土	均質。	
	10	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	均質。	
	11	10YR4/1	褐灰色シルト	均質。	

表3-4 石田遺跡土層注記

遺構番号	層序	土色	土質	備考	坪目	
SB 2 - EP 3	2.5VS/1	黄灰色砂質土	約3~5mm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックがまじる。			
	10YR4/1	褐色砂質土	約2~3mm大の10YR1.7/1黒色シルト質土ブロックが少々まじる。		10	
	10YR2/1	黒色砂質土	均質。約3~5mm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックを少々含む。			
	10YR1.7/1	黒色砂質土	均質。約3~5mm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックを少々含む。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	均質。約2~3mm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックを少々含む。			
	10YR2/1	黑色シルト	3層が約1~2cm大ブロック状にまじる。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	3層よりやや粘性強。			
	2.5VS/1	黄灰色シルト	均質。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	均質。約2~3mm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックを少々含む。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	均質。地山土の崩落。			
SB 2 - EP 4	2.5VS/1	黄灰色砂質土	均質。地山土の崩落。		10	
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	均質。地山土の崩落。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	均質。地山土の崩落。			
	2.5VS/2	暗灰黄色砂質土	均質。地山土の崩落。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	10YR2/1黒色砂質土がまじる。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	均質。			
	10YR2/1	黑色砂質土	2.5VS/1黄灰色砂・難などがまじる。			
	2.5V4/1	黄灰色砂	均質。約5~10mm大の難がまじる。			
	10YR2/1	黑色砂質土	均質。			
	2.5V5/1	黄灰色砂	地山の崩落。			
SB 2 - EP 5	2.5V4/1	黄灰色砂	約1~2cm大の10YR2/1黒色砂質土ブロックがまじる。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	#10mm大の難、2.5VS/1黄灰色砂質土の地山土ブロックなどがまじる。			
	10YR2/1	黑色砂質土	#5~8cm大の2.5VS/1黄灰色砂質土ブロックがまじる。			
	9	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。		
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	地山土の崩落。			
	2.5V3/1	黑褐色砂質土	#3cm大難がまじる。			
	2.5V3/1	黑褐色砂質土	9層と11層の互層。			
	10YR4/1	褐色砂質シルト	均質。			
	5 G2/1	綠褐色砂質シルト	均質。グライト化。			
SB 2 - EP 6	2.5VS/2	暗灰黄色砂質土	プロック状に堆積。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。			
	10YR3/1	黑色シルト	※SB 2 - EP 6 の注記はSK14を参照		26	
	10YR2/1	黑色シルト	均質。			
	2.5V4/1	黄灰色砂質土	しまり弱。			
	3	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。約5~10mm大難がまじる。		
	4	5V4/1	灰褐色	3層が少々まじる。		
	5	2.5VS/2	暗灰黄色砂質土	均質。地山土の崩落。		
	6	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	9層が少々まじる。		
	7	5V4/1	灰褐色砂質シルト	均質。		
SB 2 - EP 7	2.5V4/1	黄灰褐色砂質土	2層よりしまり弱。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。8層より粘性強。約5~10mm大難がまじる。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	均質。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
SB 2 - EP 8	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。			
	10YR2/1	黑色砂土	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大の難がまじる。			
	10YR2/1	黑色砂土	ややシルト質多。10YR3/1黒褐色砂が少々まじる。			
	10YR2/1	黑色砂質シルト	均質。			
	10YR2/1	黑色砂質シルト	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難・地山崩落がまじる。			
	10YR2/1	黑色砂質土	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	10YR3/1黒褐色砂・約5~10mm大難がまじる。			
SB 2 - EP 9	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。			
	10YR1.7/1	黑色シルト	均質。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	約5~8cm大の2層及び10YR3/1黒褐色砂質土ブロックを含む。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	均質。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	約5~8cm大の2層及び10YR3/1黒褐色砂質土ブロックを含む。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質土	均質。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	約1~2cm大難がまじる。			
	2.5VS/1	黄灰褐色砂質シルト	#2~3cm大の10YR3/1黒褐色砂質土ブロックがまじる。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。			
	10YR1.7/1	黑色砂質土	均質。			
SB 3 - EP 1	10YR3/1	黑色シルト	均質。しまり強。			
	10YR3/2	黑褐色シルト	しまり強。10YR5/3にせい黄褐色細砂が10%まじる。		12	

表3-5 石田遺跡土層注記

遺跡番号	層序	土色	土質	備考	範囲
SB 3-E P 2	1	2.5Y2/1	黒褐色シルト	しまり強。粗砂が全体にまじる。均質。	12
	2	2.5Y4/1	黄褐色シルト	しまり強。約1~3cm大礫がわずかにまじる。	
	3	10YR7/2	にい 黄褐色細砂	地山の崩落か。	
SB 3-E P 3	1	10YR1/7/1	黒褐色シルト	均質。粗砂が多く含む。	12
	2	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。	
	3	10YR2/1	黒褐色シルト	約5mm大礫をわずかに含む。	
SB 3-E P 4	1	2.5Y2/1	黒褐色シルト	2.5Y8/2灰白色シルトの約1~2cm大ブロックを5%含む。	12
	2	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。約2~3cm大礫を10%含む。	
	3	2.5Y4/1	黄褐色シルト	2.5Y8/2灰白色シルトの約2cm大ブロックを5%含む。	
SB 3-E P 5	1	2.5Y7/3	浅褐色細砂	10YRA/2灰褐色シルトを20%含む。	12
	2	10YR2/1	黒褐色シルト	しまり強。約1~2cm大礫をわずかに含む。均質。	
	3	10YR7/6	明黄色褐色細砂	地山の崩落か。均質。	
SB 3-E P 6	4	10YR3/1	黒褐色細砂	約3~5cm大礫がわずかにまじる。粗砂をわずかに含む。	12
	1	2.5Y3/2	黒褐色シルト	約1~2cm大礫を多く含み、粗砂も多く含む。	
	2	10YR3/2	黒褐色細砂	しまり強。均質。粗砂がわずかにまじる。	
SB 3-E P 7	1	10YR2/1	黒褐色シルト	約5mm大礫をわずかに含む。	12
	2	2.5Y3/2	黒褐色細砂	しまり強。約5~10mm大礫をわずかに含む。	
	3	10YR3/3	黒褐色シルト	均質。	
SB 3-E P 8	1	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。礁がわずかにまじる。	12
	2	10YR1/7/1	黒褐色シルト	しまり強。10YR6/1灰褐色シルトブロックがわずかにまじる。	
	3	10YR3/2	黒褐色シルト	粘性強。粗砂・約1cm大礫がごくわずかにまじる。	
SI 12-E P 1	1	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。2.5YR7/8黄褐色シルトがわずかにまじる。	12
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	均質。	
	3	2.5Y5/1	黄褐色シルト	細砂が全体に20%程まじる。	
SI 12-E P 2	1	5 Y2/1	黒褐色シルト	しまり強。均質。約1~2cm大礫がわずかにまじる。	12
	2	2.5Y3/1	黒褐色シルト	均質。	
	3	2.5Y7/1	黒褐色シルト	2.5Y7/2灰褐色シルトを5%程ブロック状に含む。地山由来か。	
	4	10YR5/1	褐褐色シルト	粘性強。粗砂を20%程上層に含む。	
	5	2.5Y3/1	黒褐色シルト	上面に2.5Y7/2灰褐色シルトを約5~10mm大ブロックでわずかに含む。	
	6	2.5Y4/1	黄褐色シルト	2.5Y7/2灰褐色シルトブロックを外層に10%含む。	
	7	10YR3/2	黒褐色シルト	均質。	
SB 4-E P 1	1	2.5Y4/2	暗灰褐色シルト	しまり強。約3~7mm大礫・粗砂をわずかに含む。	14
	2	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。約2~3cm大礫を10%含む。	
	3	2.5Y2/1	黒褐色シルト	粗砂が多さまじる。	
	4	2.5Y6/1	黄褐色細砂	粗砂が多さまじる。均質。	
	5	10YR7/1	灰白色シルト	しまり強。粘性強。均質。約1~3cm大礫をわずかに含む。	
	6	2.5Y4/1	黄褐色細砂	均質。約1~2cm大礫をわずかに含む。	
	7	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。粗砂が多くまじる。	
	8	10YR3/1	黒褐色シルト	10YR5/1灰褐色シルトの約2cm大ブロックが10%まじる。	
	9	2.5Y2/1	黒褐色シルト	しまり強。粗砂が多くまじる。	
	10	2.5Y3/1	黒褐色粗砂	粘性弱。しまり弱。地山崩落か。	
	11	2.5Y2/1	黒褐色シルト	均質。粗砂がわずかにまじる。	
	12	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。約2~3cm大礫がわずかにまじる。	
	13	10YR6/3	にい 黄褐色細砂	均質。	
	14	10YR2/3	黒褐色シルト	下方に10YR6/3灰褐色細砂ブロックを10%含む。	
SB 4-E P 2	1	10YR2/1	黒褐色シルト	約1~2cm人の頭をまばらに含む。	14
	2	10YR2/3	暗褐色シルト	粗砂を多く含む。	
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	均質。	
	4	10YR4/1	褐褐色シルト	しまり強。地山シルトの崩落か。	
	5	10YR2/1	黒褐色シルト	粘性強。約5~20mm大の礫をまばらに含む。アクリカ。	
	6	2.5Y3/1	黒褐色シルト	粗砂を多く含む。	
	7	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。	
	8	10YR4/3	にい 黄褐色シルト	粗砂多く含む。	
	9	10YR2/1	灰白色シルト	粗砂多。約1~3cmの大の10YR3/1黒褐色シルトブロックをまばらに含む。	
	10	10YR4/1	褐褐色シルト	粘性強。粗砂をまばらに含む。	
	11	10YR2/3	黒褐色細砂	10YR2/2黒褐色シルトが5%程まじる。粗砂多く含む。	
SB 4-E P 3	1	10YR3/1	黒褐色砂質土	均質。	14
	2	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~3cm大2.5Y5/2暗灰褐色砂質土がブロック状にまじる。	
	3	10YR4/1	褐褐色砂質粘土	40mm大以下の大きさの10YR2/1黒褐色砂質土ブロックがまじる。	
	4	10YR4/1	褐褐色砂質土	均質。	
	5	10YR2/1	黒褐色砂質土	約3~5mm大細砂ブロック・約2~3cm大礫がまじる。	
	6	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~5cm大2.5Y6/2灰褐色砂質土ブロックがまじる。	
	7	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~5cm大2.5Y6/2灰褐色砂質土ブロックがまじる。	
	8	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~3cm大の10YR2/1灰褐色砂質土ブロック・約2~5mm大礫がまじる。	
	9	10YR1/7/1	黒褐色シルト	均質。約2~3cm大の2.5Y6/2灰褐色砂質土ブロックがまじる。	
	10	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。粗砂をまばらに含む。	
	11	10YR4/1	褐褐色砂質シルト	3cm大の10YR2/1砂質土ブロックがまじる。	
	12	10YR4/1	褐褐色砂質土	約3cm大礫がまじる。	
	13	2.5Y6/2	赤褐色砂質土	10YR3/1黑褐色砂質土がまじる。	
	14	10YR5/1	褐褐色砂質粘土	堆積土の崩落。	
	15	2.5Y4/1	褐褐色砂質土	均質。	
	16	10YR3/1	黒褐色砂質土	約5~10mm大礫・約8mm大炭化物がまじる。	
	17	10YR2/1	黒褐色砂質土	約2~3cm大礫がまじる。	

表3-6 石田遺跡土層注記

遺構番号	層序	土色	土質	性状	地図
SB 4 - EP 3	18	10Y3/1	黒褐色シルト	均質。約2~8mm大の10YR4/1褐色砂質土ブロックがまじる。	
	19	10Y8/2/1	黒褐色砂質土	約5~8mm大の塊がまじる。	
	20	10YR1.7/1	黒色シルト	均質。粘性強。	
	21	10YR1.7/1	黒色シルト	均質。粘性強。2.5Y4/1黄褐色砂質土の崩落がまじる。	
	22	2.5T6/1	黄褐色砂質土	均質。	
	23	10YR2/1	黒褐色砂質土	ヤシシルト質多。約5~10mm大の塊がまじる。	
	24	10YR4/2	灰褐色砂質土	均質。	
	25	10YR1.7/1	黒色シルト	10YR4/2灰褐色砂質土ブロック・2.5y4/1黄褐色砂質土がまじる。	
	26	10YR2/1	黒褐色砂質土	約5~8mm大の塊がまじる。	
	27	2.5Y6/1	黄褐色砂質土	均質。	
	28	2.5Y6/1	灰褐色砂質土	均質。約8~10mm大の10YR2/1黒褐色砂質土ブロックがまじる。	
	29	2.5Y4/1	黄褐色砂質土	導山土の崩落に、約2~4cm大の10YR2/1黒褐色砂質土ブロックがまじる。	
	30	2.5Y4/1	灰褐色砂質土	均質。	
	31	2.5Y5/2	褐褐色砂質土	均質。10YR2/1黒褐色砂質土ブロックが少々まじる。	
	32	5Y4/1	灰色砂質土	約3~4cm大の10YR2/1黒褐色砂質土ブロック・約1~2cm大の塊がまじる。	
	33	10YR2/1	黒褐色砂質土	導山崩落の2.5Y6/1黄褐色砂質土ブロック・約2cm大の塊が少々まじる。	
	34	10YR2/1	黒褐色砂質土	約5~10mm大の塊がまじる。	
	35	10YR1.7/1	黒褐色砂質土	均質。約2~5mm大の塊を含む。	
	36	2.5Y5/1	黄褐色砂質土	30層が少々まじる。	
SB 4 - EP 4	1	10YR4/3	ない青褐色シルト	約5~7mm大の塊をまばらに含む。	
	2	10YR3/2	黒褐色シルト	10YR8/2灰白色シルトをブロック状に40%含む。	
	3	10YR4/2	灰褐色シルト	均質。	
	4	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり強。均質。	
	5	10YR6/2	灰白色シルト	しまり強。10YR2/1黒褐色シルトがブロック状に5%まじる。	
	6	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり強。約5mmの大の塊をまばらに含む。	
	7	10YR4/2	灰褐色シルト	しまり強。10YR5/1暗褐色シルトをブロック状で10%含む。	
	8	10YR3/1	無褐色シルト	均質・しまり強。約5~20mm大の10YR8/3浅黃褐色シルトブロック含む。	
	9	10YR2/2	無褐色シルト	均質・しまり強。約5~10mm大の10YR8/3浅黃褐色シルトブロック含む。	
	10	10YR4/3	にい青褐色シルト	粗砂が多くまじる。	
	11	10YR4/4	褐色シルト	均質。鉄分がまじる。	
	12	2.5Y7/2	灰褐色シルト	動性強。粗砂がわずかにまじる。	
	13	10YR5/1	褐褐色シルト	10YR2/1黒褐色シルトが20%程まじる。	
SB 4 - EP 5	1	10YR1.7/1	黒色シルト	しまり強。粘性強。	
	2	10YR5/3	にい青褐色シルト	約5~30mm大の塊をまばらに含む。	
	3	10YK3/1	黒褐色シルト	約1~2cm大の塊をまばらに含む。	
	4	7.5YR4/4	褐色シルト	しまり強。粗砂・鉄分が多くまじる。	
	5	10YR7/3	にい青褐色シルト	導山の崩落。	
	6	10YR4/3	にい青褐色シルト	粗砂が多くまじる。	
	7	10YK3/1	黒褐色シルト	しまり強。均質。	
	8	10YR4/3	にい青褐色シルト	約3cm大の塊がまじる。導山崩落か。	
SB 4 - EP 6	1	10YR5/1	褐褐色シルト	後世の堆積か。	
	2	5Y3/1	オリーブ色シルト	粘性強。アカリ基分か。木質を含む。	
	3	2.5Y3/1	褐褐色シルト	粗砂を多く含む。	
	4	10YR2/1	黒褐色シルト	約1cmの大の塊・粗砂をわずかに含む。	
	5	2.5Y2/1	黒褐色シルト	しまり弱。約1cmの大の塊・粗砂をわずかに含む。	
	6	2.5Y2/1	黒色シルト	均質。	
	7	10YR7/1	灰白色シルト	約1~2cm大の塊・10YR2/1黒色シルトブロックを20%含む。	
	8	10YR3/1	黑褐色シルト	均質。約5~10mm大の塊をわずかに含む。	
	9	2.5Y7/1	灰褐色シルト	粘性強。2.5Y5/1灰褐色シルトをブロック状に10%含む。	
	10	2.5Y2/1	黑褐色シルト	下方に2.5Y6/1シルトブロックが5%程まじる。	
	11	2.5Y7/1	灰褐色シルト	均質。	
SB 4 - EP 7	1	10YR2/2	黑褐色シルト	約2~4cm大の塊をまばらに含む。	
	2	10YR4/2	灰褐色砂質土	約5~7mm大の塊をまばらに含む。	
	3	10YR6/4	にい青褐色シルト	約5~7mm大の塊をまばらに含む。	
	4	10YR2/2	黑褐色シルト	約1~2cm大の塊・10YR7/2にい青褐色シルトブロックを5%含む。	
	5	10YR3/2	黑褐色シルト	しまり強。均質。約2~3cm大の塊をわざかに含む。	
	6	10YR2/2	黑褐色シルト	均質。約1cm程度の塊をわざかに含む。	
	7	10YR7/2	にい青褐色シルト	均質。粗砂をわざかに含む。	
SB 4 - EP 8	8	10YR1.7/1	黒褐色シルト	均質。約5~20mm大の塊をわざかに含む。	
	9	10YR2/2	黑褐色シルト	しまり強。均質。約2~3cm大の塊をわざかに含む。	
	10	10YR2/2	黑褐色シルト	均質。約1cm程度の塊をわざかに含む。	
	11	10YR3/2	黑褐色シルト	均質。約3cm大の塊をわざかに含む。	
	12	2.5Y7/2	灰褐色シルト	均質。	
	13	2.5Y3/1	黑褐色シルト	約1cm大の10YR7/2にい青褐色シルトブロックを5%含む。	
	1	10YR2/1	黒褐色シルト	約3~7mm大の塊をまばらに含む。	
	2	2.5Y3/1	褐褐色シルト	しまり強。均質。	
	3	2.5Y6/1	黄褐色シルト	しまり強。粗砂がわざかにまじる。	
	4	10YR2/3	褐褐色シルト	均質。粗砂がわざかにまじる。	
	5	10YR4/1	褐褐色シルト	均質。	
	6	10YR5/2	灰褐色シルト	しまり強。均質。	
	7	10YR2/1	黒褐色シルト	約1~4cm大の塊が多くまじる。	
SB 4 - EP 9	1	10YR2/1	黒褐色シルト	約3~7mm大の塊をまばらに含む。	
	2	2.5Y3/1	褐褐色シルト	しまり強。均質。	
	3	2.5Y6/1	黄褐色シルト	しまり強。粗砂がわざかにまじる。	
	4	10YR2/3	褐褐色シルト	均質。粗砂がわざかにまじる。	
	5	10YR4/1	褐褐色シルト	均質。	
	6	10YR5/2	灰褐色シルト	しまり強。均質。	
	7	10YR2/1	黒褐色シルト	約1~4cm大の塊が多くまじる。	

表3-7 石田遺跡土層注記

遺構番号	層序	土色	土質	備考	範囲
S B 4 - E P 9	8	10YR5/2	黒褐色シルト	約1~3cmの大繩をまばらに含む。	14
	9	10YR3/1	褐色細シルト	均質。	
S B 4 - E P 10	1	10YR7/1	灰白色シルト	均質。	
	2	10YR8/2	灰白色シルト	しまり強。均質。地山の崩落か?	
	3	10YR5/2	灰褐色細砂	約1~3cm大繩を多く含む。	
	4	10YR3/1	黒褐色細シルト	均質。細砂・鉄分がわずかにまじる。	
	5	10YR4/2	灰褐色細砂	均質。	
	6	10YR8/1	灰白色シルト	均質。	
	7	10YR2/1	黒褐色シルト	しまり強。約5~7mmの大繩をわずかにまじる。	15
	8	2.5Y8/2	灰白色シルト	しまり強。2.5Y2/1シルトが互層にまじる。	
	9	10Y R 2/1	黒褐色シルト	均質。	
	10	2.5Y3/1	黒褐色細砂	約5Y7/1灰白色シルトが約1cm大ブロックで10%程まじる。	
	11	10YR3/3	暗褐色シルト	均質。	
	12	10YR4/2	灰褐色シルト	均質。	
S B 4 - E P 11	1	10YR3/2	黒褐色シルト	しまり強。地の堆積か。約1~2cm大繩をわずかに含む。	
	2	2.5Y3/1	黒褐色シルト	均質。粗砂が多くまじる。	
	3	2.5Y2/1	黒褐色シルト	粘性強。細砂が多くまじる。	
	4	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。	
	5	10YR7/1	灰白色細砂	鉄分・粗砂が10%程度まじる。	15
	6	10YR5/4	灰褐色シルト	粘性強。しまり強。地の堆積か。約1~1.5cm大繩をわずかに含む。	
	7	10YR3/1	黒褐色シルト	粗砂が多きまじり。約1~3cm大繩が5%程まじる。	
	8	10YR2/2	黒褐色シルト	細砂を多く含む。	
S B 4 - E P 12	1	10YR3/1	黒褐色シルト	約1cmの大繩をまばらに含む。	
	2	10YR2/2	黒褐色シルト	約5~10mmの大繩10YR6/1黒灰色シルトブロックをわずかに含む。	
	3	10YR7/1	灰白色細砂	均質。鉄分・シルトが10%程まじる。	
	4	10YR3/2	暗褐色細砂	新らしい堆積か。	
	5	10YR2/2	黒褐色シルト	粘性強。均質。	15
	6	2.5Y2/1	黒褐色シルト	約1~2cmの大繩を多く含む。	
	7	10YR3/1	黒褐色シルト	細砂をわずかにまじる。	
	8	10YR7/1	にせい黄褐色細砂	約2cm大繩10YR6/1黒灰色・10YR2/2黒褐色シルトブロックが20%程まじる。	
	9	2.5Y7/1	灰白色細砂	約1~2cm大繩を多く含む。	
	10	10YR5/3	にせい黄褐色細砂	しまり強。約1~2cmの大繩をまばらに含む。地山の崩落か。	
S B 4 - E P 13	1	10YR4/1	褐色細シルト	均質。新しい堆積か。	
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	均質。粗砂がわずかにまじる。	
	3	10YR2/1	黒褐色シルト	約2~3mmの大繩10YR7/2灰褐色シルトブロックが10%程まじる。	15
	4	2.5Y2/1	黒褐色シルト	約1~2cmの大繩がまばらにまじる。	
	5	10YR2/1	黒褐色シルト	粘性強。約3~5cm大繩が多くまじる。柱のアクリ跡か?	
	6	10YR4/3	にせい黄褐色シルト	粘性強。細砂を多く含む。	
	7	10YR6/1	褐色細シルト	均質。	
S B 4 - E P 14	1	10YR2/1	褐色シルト	細砂ブロック・約2cm大繩をまばらに含む。	
	2	10YR3/2	黒褐色シルト	細砂を多く含み、10YR5/3灰褐色シルトブロックを10%含む。	
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	均質。	
	4	10YR3/1	黒褐色シルト	均質。	
	5	1.0 YR6/2	灰褐色シルト	しまり強。約5~10mm大繩をまばらに含む。	15
	6	10YR7/1	灰白色細砂	しまり強。地山の崩落か。	
	7	10YR2/2	黒褐色シルト	10YR7/2にせい黄褐色細砂をブロック状に5%含む。	
	8	10YR8/2	灰白色細砂	しまり強。約1~3cm大繩を5%含む。	
	9	10YR8/3	浅黄色細砂	地山の崩落か。	
	10	10YR2/2	黒褐色シルト	約1cm大繩をわずかに含む。	
S B 4 - E P 15	1	2.5Y2/1	黒褐色シルト	しまり強。約5~10mm大繩をわずかに含む。	
	2	10YR2/1	黒褐色シルト	粘性強。均質。	
	3	10YR5/2	灰褐色細砂	粗砂・約5~10mm大繩をわずかに含む。	
	4	10YR4/1	褐色細砂	均質。	
	5	2.5Y7/2	灰褐色シルト	しまり強。均質。	
	6	10YR3/2	黑褐色シルト	10YR7/2にせい黄褐色細砂を5%ブロック状に下側に含む。	15
	7	10YR4/1	暗灰色シルト	10YR8/2灰白色シルト・10YR2/1黒褐色シルトのブロック各5%ずつ含む。	
	8	10YR5/1	暗灰色細砂	しまり強。約5mm大繩をわずかに含む。	
	9	10YR2/1	黒褐色シルト	均質。	
	10	2.5Y2/1	黒褐色シルト	しまり強。約5~10mm大繩をわずかに含む。	
S B 4 - E P 16	11	10YR3/1	黒褐色シルト	細砂をわずかに含む。	15
	12	2.5Y3/2	黑褐色シルト	均質。	
	13	10YR2/1	高褐色シルト	10YR8/1灰白色シルトの約5mm大ブロックを20%含む。	
S B 4 - E P 17	1	10YR5/1	黒褐色細砂	粘性弱。しまり弱。約2cm大繩をわずかに含む。	15
	2	10YR6/1	褐色細シルト	粘性弱。しまり弱。均質。	
S B 4 - E P 18	1	2.5Y3/1	黒褐色シルト	粗砂を多く含み、約1~3cm大繩を10%含む。	15
	2	10YR7/3	にせい黄褐色細砂	しまり強。均質。	
	3	2.5Y5/1	灰褐色細砂	しまり強。約3~20mm大繩を20%含む。	
S B 4 - E P 19	1	2.5Y3/1	黑褐色シルト	約1cm大繩をわずかに含む。	15
	2	2.5Y6/2	灰褐色細砂	均質。	
	3	2.5Y2/1	黑褐色シルト	細砂を多く含む。	
S P 5 - E P 1	1	10YR2/2	黑褐色シルト	約2cmの大繩をまばらに含む。	18

表3-8 石田遺跡土層注記

遺跡番号	層序	土色	土質	備考	押出
SB 5 - EP 1	2	10YR3/3	暗褐色細砂	粗砂が多くはじまる。	18
	3	10YR4/2	灰黃褐色シルト	しまり弱。10YR5/1灰褐色シルトが5%程ブロック状にはじまる。	
	4	10YR2/2	褐褐色シルト	粗砂を多く含む。	
SB 5 - EP 2	1	10YR3/2	黑褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトが5%程はじまる。	18
	2	10YR2/1	黑色シルト	均質。	
SB 5 - EP 3	3	10YR4/1	褐灰色シルト	粘性強。後世の耕作等の跡か。	18
	1	10YR3/1	黑褐色シルト	粘性強。細砂をわずかに含む。	
	2	10YR2/2	褐褐色シルト	軟分率5%程はじまる。	
SB 5 - EP 4	1	10YR3/1	黑褐色シルト	じきり強。10YR5/1灰褐色シルトを30%含む。	18
	2	10YR2/1	黑色シルト	均質。	
SB 5 - EP 5	1	10YR3/1	黑褐色シルト	10YR8/1灰白色シルトを約5cm大ブロックで40%含む。	18
	2	10YR4/1	褐灰色シルト	10YR8/1灰白色シルトを約5cm大ブロックで40%含む。	
	3	10YR4/2	灰黃褐色細砂	10YR8/2灰白色シルトを約5~8mm大ブロックでごくわずかに含む。	
SB 5 - EP 6	4	10YR2/1	黑色シルト	10YR8/3浅黃褐色シルトブロックを20%含む。	18
	1	2.5 Y 5/1	黃褐色シルト	均質。粗砂を含む。	
SB 5 - EP 7	2	2.5 Y 2/1	黑色シルト	1 cm大の2.5 Y 4/3オーブ海色シルトブロックを10%含む。	18
	1	10YR2/1	黑色シルト	均質。	
	3	10YR2/2	褐褐色シルト	10YR8/1灰白色シルトをブロック状で30%含む。	
SB 5 - EP 8	1	2.5 Y 2/1	黑色シルト	粗砂をわずかに含む。	18
	1	10YR2/1	黑色シルト	約2~3cm大礫を5%含む。	
SB 5 - EP 9	2	10YR3/1	黑褐色シルト	約1cm大の炭化物ブロックがわずかにはじまる。	18
	3	10YR5/2	灰黃褐色細砂	しまり弱。均質。	
	4	10YR2/1	黑色シルト	粗砂を多く含む。	
SB 5 - EP 10	5	10YR2/1	黑色シルト	粗砂を多く含む。	18
	1	10YR3/1	黑褐色シルト	約5mm大礫、粗砂を20%程含む。	
SB 5 - EP 11	2	10YR2/1	黑色シルト	均質。	18
	1	10YR2/1	黑色シルト	粗砂を含む。	
SB 5 - EP 12	1	10YR1.7/1	黑色シルト	粗砂を含む。	18
	1	10YR2/1	黑色シルト	均質。粗砂がわずかにはじまる。	
SB 5 - EP 13	2	10YR5/2	灰黃褐色細砂	しまり弱。均質。	18
	1	10YR2/1	黑色シルト	均質。粗砂を多く含み、約1~2cm大礫を5%程含む。	
SB 6 - EP 1	2	5 Y 2/1	黑色シルト	粘性強。均質。	20
	3	5 Y 3/1	オーブ無色シルト	しまり強。細砂および約1~2cm大礫を含む。	
	4	2.5 Y 3/1	黒褐色細砂	2.5 Y 8/1灰白色シルトをブロック状に5%含む。	
SB 6 - EP 2	5	2.5 Y 4/1	黃褐色シルト	粘性強。細砂多く含む。2.5 Y 8/1灰白色シルトをブロックで5%含む。	20
	1	10YR2/1	黑色シルト	粘性強。均質。	
	2	2.5 y 3/1	黑褐色シルト	粘性強。均質。約1~2cm大礫を含む。	
SB 6 - EP 3	3	2.5 Y 2/1	黑色シルト	均質。	20
	4	2.5 Y 4/2	晰暗黃褐色シルト	2.5 Y 7/2灰黃褐色シルトをブロック状に20%含む。	
	1	10YR3/1	黑褐色シルト	均質。	
SB 6 - EP 4	2	10YR2/1	黑色シルト	10YR7/2にぶい紫褐色シルトの約5cm大ブロックをまばらに含む。	20
	3	7.5 Y R/3	褐褐色細砂	しまり弱。粗砂を含む。	
SB 6 - EP 5	4	10YR3/2	黑褐色シルト	粘性強。均質。	20
	5	10YR4/2	灰黃褐色細砂	粘性強。2.5 Y 2/1黒褐色シルトを20%含む。	
SB 6 - EP 6	6	10YR5/2	灰黃褐色細砂	しまり弱。均質。	20
	1	5 Y 2/1	黑色シルト	2.5 Y 3/2灰白色シルトをブロック状に10%含む。	
SB 6 - EP 7	2	2.5 Y 3/1	黑褐色シルト	均質。	20
	3	2.5 Y 3/1	黑褐色細砂	粘性強。10YR2/1黒褐色シルトが10%はじまる。	
	4	10YR6/1	褐褐色シルト	粘性強。均質。	
SB 6 - EP 8	5	10YR4/2	灰黃褐色シルト	10YR2/1黒褐色シルトを20%含む。	20
	6	10YR5/2	黑褐色シルト	後世の埋漿か。	
SB 6 - EP 9	1	10YR3/1	黑褐色シルト	しまり弱。難を40%程含む。	20
	2	10YR4/2	灰黃褐色粗砂	しまり弱。約2~3cm大礫を30%程含む。	
	3	10YR2/1	黑色シルト	粗砂を多く含む。	
SB 6 - EP 10	4	10YR3/3	晰褐色細砂	しまり弱。約5mm大礫を5%程含む。	20
	1	10YR2/1	黑色シルト	約1~2cm大礫、粗砂を含む。	
SB 6 - EP 11	2	10YR3/3	晰褐色細砂	均質。粗砂を含む。	20
	3	10YR2/3	黑褐色シルト	約5~10mm大礫を含む。	
	1	2.5 Y 2/1	黑色シルト	均質。	
SB 6 - EP 12	2	2.5 Y 5/1	黃褐色シルト	粘性強。均質。	20
	1	2.5 Y 2/1	黑色シルト	約1cm大礫を5%含む。	
SB 6 - EP 13	2	2.5 Y 3/2	褐褐色細砂	均質。	20
	1	10YR2/1	黑色シルト	約5~10mm大礫を含む。	
	2	10YR4/2	灰黃褐色細砂	約5~20mm大礫、粗砂を含む。	
SB 6 - EP 14	3	10YR3/1	黑褐色シルト	約5~20mm大礫を含む。	20
	1	10YR3/1	黑褐色シルト	均質。粗砂がわずかにはじまる。	
SB 6 - EP 15	2	10YR3/2	黑褐色細砂	しまり弱。10YR6/3にぶい黄褐色細砂がわずかにはじまる。	20
	3	10YR4/2	灰黃褐色細砂	2.5 Y 8/3細砂ブロックを全体に20%含む。	
	1	10YR2/1	黑色シルト	しまり弱。約2cm大礫をまばらに含む。	
SB 6 - EP 16	2	10YR6/1	褐褐色シルト	10YR8/2灰褐色細砂を5%ブロック状に含む。	20
	3	10YR4/2	灰黃褐色細砂	約5~30mm大礫をまばらに含む。	
SP 41	1	10YR2/1	黑色シルト	10YR8/2灰褐色細砂をブロック状に5%含む。	21
	2	10YR6/1	褐褐色シルト	10YR5/1褐褐色シルトをブロック状に10%含む。	

表3-9 石田遺跡土層注記

遺跡番号	層序	土色	土質	備考	堆積
S P41	3	10YR7/2	にいひ青褐色シルト	細砂が多くはじる。	21
	1	2.5Y2/1	黒褐色シルト	約2~3cm大粒、粗砂を含む。	
	2	10YR2/1	黒褐色細砂	約1~2cm大粒を5%程度含む。	
	3	10YR4/2	灰褐色細砂	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に5%程度含む。	
	4	10YR7/6	明黄褐色シルト	約2~3cm大粒を30%含む。	
	5	10YR5/1	褐灰色細砂	均質。粗砂がわずかにはじる。	
	6	10YR4/1	褐灰色シルト	均質。粗砂がわずかにはじる。	
S P42	7	10YR7/3	にいひ青褐色細砂	堆山崩落。	21
	1	10Y R2/1	黑色シルト	しまり強。細砂を全体に10%程度含み、約2~4cm大粒の塊をまばらに含む。	
	1	10YR2/2	黒褐色シルト	均質。	
	2	10YR7/1	灰褐色シルト	均質。細砂が20%程度含む。	
	1	10YR3/1	黒褐色細砂土	約2~5mm大粒がはじる。	
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	均質。	
	3	10YR3/1	黒褐色砂質土	約2~5cm大粒・約3~5mm大粒化物がはじる。	
S I12	4	10YR3/1	黑兩色砂質土	約5~8mm大粒が少くはじる。	22
	5	10YR3/1	黑兩色砂質土	約2~5cm大粒がはじる。	
	6	10YR3/1	黑兩色砂質土	約2~3mm大粒が少くはじる。	
	7	10YR2/1	黑色砂質シルト	約2~3mm大粒が少くはじる。	
	8	10YR4/2	灰褐色砂質土	均質。堆山崩落。	
	9	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。10番で少くはじる。	
	10	10YR4/2	褐灰色砂質土	均質。堆山崩落。	
	11	10YR1.7/1	黑色炭化物	やシルト質多、均質なブロック。	
	12	10YR3/1	黑褐色砂質シルト	しまり弱。	
	13	10YR3/1	黑褐色砂質土	しまり弱。約3~8mm大粒がはじる。	
	14	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。	
	15	10YR2/1	黑色シルト	16番に近い。やや粘性強。	
	16	10YR2/1	黑色シルト	7.5YR3/2黒褐色シルトを含む。木質検出部分。	
	17	10YR2/1	黑色シルト質粘土	均質。	
S K14	18	2.5Y6/2	灰黄色砂質土	地山土の崩落。	26
	19	10YR4/1	褐灰色砂質土	地山土の崩落。砂質多い。	
	20	2.5Y5/1	灰黄色砂質シルト	約2~3cm大粒10YR2/1黑色砂質土ブロックが少くはじる。	
	23	10YK2/1	黑色砂質土	1番より細が多く、しまり弱。	
	24	10YR2/1	黑色砂質土	やシルト質多。約2~5mm大粒・約3~5mm大粒が少くはじる。	
	25	10YR5/1	馬鹿色砂質土	均質。しまりやや弱。	
	26	7.5Y2/1	黑色砂質土	しまり弱。	
	27	10YR1.7/1	黑色砂質土	約2~3cm大粒がはじる。	
	28	10YR2/1	黑色砂質土	均質。しまり弱。	
	29	10YR4/1	暗灰褐色砂質土	均質。	
	30	2.5Y5/2	暗灰褐色砂質土	堆山ブロック。	
	31	2.5Y4/1	灰黄色砂質土	約5~8mm大粒がまとまる。しまり弱。	
	32	10YR2/1	黑色シルト	均質。	
	33	2.5Y2/1	黑色砂質土	31番より細少ない。	
S B2-E P6	34	2.5Y3/2	黑褐色砂質土	堆山土の崩落。	26
	35	10Y R3/1	堆褐色砂質シルト	均質。	
	36	2.5Y3/2	黑褐色砂質シルト	均質。	
	37	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。	
	38	10YR2/1	黑色砂質土	しまり弱。約3~5mm大粒がはじまる。	
	39	2.5Y3/2	黑褐色砂質土	地山土のブロック(崩落)。	
	40	2.5Y3/1	黑褐色砂	均質。	
	41	2.5Y5/2	暗灰褐色砂質土	地山土の崩落。	
	42	2.5Y3/2	黑褐色砂	地山土、10YR2/1黑色砂質土などがはじる。	
	49	10YR2/1	黑色砂質土	1番・3番より細が少ない。	
	50	10YR3/1	黑褐色砂質土	約2~5cm大粒・少くはじる。	
	51	10YR4/1	褐灰色砂質土	均質。	
	52	10YR2/1	黑色砂質土	均質。約3~5mm大粒がわざかにはじる。	
	53	2.5Y5/2	暗灰褐色砂質土	地山土のブロック。	
	54	10YR3/1	黑褐色砂質土	約3~10mm大粒が少くはじる。	
	55	10YR3/1	黑褐色砂質土	均質。5番とほぼ同じ。斑を含まない。	
S B2-E P6	21	2.5Y4/1	黃灰色砂質土	地山土の崩落。約2~3cm大粒の10YR2/1黑色砂質土ブロックが少くはじる。	26
	22	10YR4/1	褐褐色砂質土	約2~5mm大粒の10YR2/1黑色砂質土粒子が少くはじる。	
	43	10YR3/2	黑褐色砂	地山土の崩落に23番などがはじる。	
	44	2.5Y4/1	黃灰色砂	10YR3/1黒褐色シルト質がはじる。	
	45	2.5Y4/2	暗灰褐色砂	均質。	
	46	2.5Y2/1	黑色シルト	2.5Y4/1黃灰色砂質土が少くはじる。	
	47	10YR2/1	黑色砂質土	約5~8mm大粒が少くはじる。	
	48	10YR2/1	黑色砂質土	2.5Y4/1黃灰色砂質土(地山土)が少くはじる。	
	56	10YR4/1	暗灰褐色砂質土	約3~5mm大粒がわざかにはじる。	
	57	10YR1.7/1	黑色砂質土	しまり弱。約2~3mm大粒を含む。	
	58	2.5Y5/2	暗灰褐色砂質土	地山土のブロック。	
	59	10YR4/1	褐灰色砂質土	均質。5番が少くはじる。	
	60	2.5Y3/2	黑褐色砂	10YR2/1黑色砂質土がはじる。	
	61	10YR2/1	黑色砂質土	約3~5mm大・約2~3cm大の崩がはじる。	
	62	10YR2/1	黑色砂質土	均質。やシルト質多。しまり弱。	
	63	2.5Y3/2	黑褐色砂質シルト	地山土の崩落に10YR2/1黑色砂質土がはじる。	

表3-10 石田遺跡土層注記

地層番号	層序	土色	土質	備考	鉛筆
SD9 SD10 ①	1	2.5Y3/1	黒褐色砂質土	約5~8mm大礫が少々まじる。	
	2	2.5Y4/1	黄褐色砂質シルト	均質。	
	3	2.5Y3/1	黒褐色砂質土		
	4	2.5Y3/1	黒褐色砂質土		
	5	2.5Y3/1	黒褐色砂質土		
	6	2.5Y4/1	黄褐色砂質土		
	7	2.5Y4/1	黄褐色砂質土		
	8	2.5Y3/2	黒褐色砂質土		
	9	2.5Y4/1	黄褐色砂質土	地山土の産落。	
	10	2.5Y4/1	黄褐色砂質シルト		
	11	2.5Y3/1	黒褐色砂質土		
	12	2.5Y3/1	黒褐色砂質土	SD10 _a シルト質多。	
	13	10YR2/1	黒褐色砂質土	SD10 _a , #2~5mm大礫が部分的に少々まじる。	
	14	10YR2/1	黒褐色砂質土	SD10 _a 。	
SD9 SD10 ②	1	10YR2/1	黒褐色砂質土	#10~12mm大礫が少々まじる。	
	2	2.5Y6/1	黄褐色砂質土		
	3	10YR4/1	黒褐色砂質土		
	4	10YR5/1	黒褐色砂質シルト	#5~10mm大礫が少々まじる。	
	5	10YR5/1	黒褐色砂質シルト		
	6	10YR5/1	黒褐色砂質シルト	#2~3mm大礫が少々まじる	
	7	10YR4/1	褐灰色粘土		
	8	10YR4/1	褐灰色砂質土		
	9	10YR4/1	褐灰色シルト質土	SD10 _a 。	
	10	10YR4/1	褐灰色砂質土	SD10 _a 。	
	11	10YR4/1	褐灰色シルト質土	SD10 _a 。	
SD9 SD10 SD48	1	2.5Y4/1	黄褐色シルト	均質。しまり強。	
	2	2.5Y3/2	黒褐色シルト	#2~3cm大の礫を5%含み、細砂多くまじる。	
	3	2.5Y4/1	黄褐色シルト	2.5Y8/2#2白色細砂ブロックを10%含む。	
	4	2.5Y3/2	黒褐色シルト	SD10 _a 土。#10cm大礫が少々まじる。	
	5	2.5Y3/1	黒褐色シルト	SD48 _a 土。細砂がわずかにまじる。	
	6	2.5Y4/2	褐灰色シルト質土	SD48 _a 土。しまり強。粗砂がわずかにまじる。	
SD7・8ベルト	1	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	#1~2cm大の礫をまばらに含み、粗砂もわずかにまじる。	
	2	N 2	黑色シルト	じきり強。均質。	
	3	7.5Y2/1	黑色シルト	S D 8. しまり強。#1~3cm大の礫を5%含む。	
SD7①	1	10YR4/1	褐灰色シルト	#1~3cm大の礫を5%含む。	27
SD7②	1	10YR3/1	褐灰色シルト	褐砂をわずかに含む。	27
SD8	1	10YR2/1	黑色シルト	#2~3cm大の礫を5%、細砂を多く含む。	27
SD34	1	2.5 Y7/1	灰白色細砂	2.5Y5/1シルトをブロック状に20%含む。#2~4cm大の礫を多く含む。	29
SP33	2	10YR2/1	黑色シルト	均質。#5~10mm大礫をまばらに含む。	
	3	10YR1/7/1	黑色シルト	均質。	
	4	5Y3/1	オーブラックシルト	#1~4cm大の礫を5%含む。	
	5	10YR3/2	黒褐色シルト	10YR7/2にぶい黄褐色シルトをブロック状で20%含む。	
SD47	1	10YR3/1	黒褐色シルト	#3~5cm大の礫を10%含む。	
	2	10YR2/2	灰白色シルト	均質。	
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色細砂	2.5Y3/1黒褐色シルトがわずかにまじる。	
SD51	1	10YR2/1	黑色シルト	#5~20mm大の礫を5%含む。	
	2	10YR2/1	黑色シルト	細砂をわずかに含む。	
	3	10YR2/3	暗褐色細砂	10YR4/1黒褐色シルトをわずかに含む。	
SG11 ①	1	10YR2/1	黒褐色砂質土	#3~8mm大の礫がまじる。	
	2	10YR2/1	黒褐色砂質土	均質。#3~8mm大の礫がわずかにまじる。	
	3	10YR2/1	黒褐色砂質土	#2~3cm大の礫。地山砂がまじる。	
	4	10YR5/1	黒褐色粘土	均質。	
	5	10YR1/7/1	黑色シルト質土	均質。	
	6	5Y5/1	灰色シルト質土	砂質土のブロック。均質。	
	7	10YR3/1	褐褐色粘土	均質。#1~2cm大の礫が少々まじる。	
	8	2.5Y3/1	黑褐色シルト質土	均質。	
	9	10YR3/1	黑褐色砂質シルト	均質。	
	10	10YR3/1	黑褐色シルト質土	均質。	
	11	5 Y4/1	灰褐色砂質シルト	均質。	
	12	2.5Y4/1	黄褐色砂質土	地山由来の2.5Y5/2暗灰黄色砂質土がまじる。	
SG11 ②	1	10YR2/1	黑色砂質土	#5~8mm大の礫。#1~2cm大の礫がまじる。	
	2	10YR2/1	黑色砂質土	#5~8mm大の礫がまじる。	
	3	10YR2/1	黑色砂質土	#5~8mm大の礫。#1~2cm大の礫がまじる。	
	4	10YR4/1	褐褐色砂質土	均質。	
	5	10YR3/1	黒褐色シルト質粘土	均質。	
	6	10YR3/1	黒褐色シルト質粘土	均質。	
	7	5Y4/1	砂質シルト	#5~8mm大の礫が少々まじる。	
	8	2.5Y4/1	黄褐色シルト質土	均質。	
	9	10YR5/1	褐灰色砂質土	均質。#3~5mm大の礫が少々まじる。	
	10	10YR5/1	褐灰色砂質土	均質。#3~5mm大の礫が1/2個より多くまじる。	
	11	10YR2/1	黑色砂質土	地山由来の砂。#2~4cm大の礫がまじる。	
	12	10YR2/1	黑色砂質土	地山由来の砂が少々まじる。	
	13	10YR2/1	黑色砂質土	ややシルト質多。	
	14	10YR1/7/1	黑色シルト質土	均質。	

表3-11 石田遺跡土層記述

連続番号	層序	土色	土質	備考	持続
S G11 ②	15	10YR1.7/1	黒色シルト質土	均質。	31
	16	10YR1.7/1	黒色砂質土	均質。¢ 5~10mm大礫が少々まじる。	
	17	2.5Y5/2	褐色黄色砂質土	均質。	
	18	10YR4/1	褐色砂質土	ややシルト質多。22層が少々まじる。	
	19	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	均質。	
	20	10YR4/1	褐色砂質シルト	¢ 5~15mm大礫が少々まじる。	
S G11 ③	21	10YR3/1	黒褐色シルト質粘土	細質多。	31
	1	10YR2/1	黑色砂質土	¢ 1~2cm大・¢ 3~5cm大礫が少々まじる。	
	2	10YR2/1	黑色砂質土	¢ 5~8mm大礫が少々まじる。	
	3	10YR3/1	黑褐色砂質土	¢ 5~10mm大礫が少々まじる。	
	4	2.5Y5/1	黃褐色砂質土	¢ 1~2cm大・¢ 3~5cm大礫が少々まじる。	
	5	2.5Y6/1	黃褐色砂質土	塊山土の崩落。4層が少々まじる。	
	6	10YR4/1	褐色砂質土	均質。	
	7	2.5Y4/1	黃褐色砂質シルト	均質。	
	8	10YR4/1	褐灰色砂質シルト	粘性や強。	
	9	10YR4/1	褐灰色シルト	粘性強。	
	10	10YR1.7/1	黑色砂質シルト	均質。¢ 2~3mm大礫がまじる。	
	11	10YR4/1	褐褐色砂質シルト	粘性や強。¢ 2~5大礫がまじる。	
S G11 北西端部	1	10YR3/1	黑褐色砂質土		31
	2	2.5Y4/1	黃褐色砂質土		
	3	2.5Y3/1	黑褐色砂質土		
	4	10YR2/1	黑色砂質土		
	5	10YR1.7/1	黑色砂質土		
	6	10YR2/1	黑色砂質土		
	7	10YR1.7/1	黑色砂質土		
	8	10YR1.7/1	黑色砂質土		
	9	10YR1.7/1	黑色砂質土		
	10	2.5Y4/1	黃褐色砂質土		
	11	10YR3/1	褐褐色砂質土		
	12	10YR2/1	黑色砂質土		
	13	10YR1.7/1	黑色砂質土		
	14	10YR1.7/1	黑色砂質土		
	15	2.5Y5/2	暗灰褐色砂質土		
	16	2.5Y4/1	黃褐色砂質土		
	17	10YR2/1	黑色砂質土		
	18	10YR3/1	黑褐色砂質土		
	19	10YR2/1	黑色砂質土		

表4-1 石田遺跡 遺物觀察表

報告書 番号	遺構番号	種別	器種	計測値				調整		粘土	底部 切離し	備考	棒図	図版	
				分類	口径	底径	器高	器厚	外面						
1-1	S B1 E P7	須恵器	环	I A2	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	砂	不明		8	12
1-2	S B1 E P4	須恵器	环	I A3	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		8	12
1-3	S B1 E P8	須恵器	环	I A4	-	78	-	4	ロクロ	ロクロ		鋸切り後 ナデか		8	12
1-4	S B1 E P6	須恵器	环	I A4	-	68	-	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	回転系切		8	12
1-5	S B1 E P5	須恵器	环	I A4	-	-	-	4.5	ロクロ	ロクロ		不明		8	-
1-6	S B1 E P10	須恵器	蓋	I C1	-	-	-	9	ロクロ ナデ	ロクロ	砂	不明		8	12
1-7	S B1 E P10	須恵器	蓋	I C1 (160)	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	鋸切り後 ナデか		8	12
1-8	S B1 E P6	須恵器	蓋	I C1	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		8	12
1-9	S B1 E P6	須恵器	蓋	I C2	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		8	12
1-10	S B1付透	須恵器	环	I A1	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		8	12
1-11	S B1付透	須恵器	环	I A3	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		8	12
2-1	S B2 E P9	須恵器	环	I A2	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		9	12
2-2	S B2 E P1	須恵器	环	I A4 (100)	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	砂	回転系切		9	12
2-3	S B2 E P4	須恵器	有台环	I B1	-	88	-	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	ナデ調整の為不明		9	12
2-4	S B2 E P9	須恵器	有台环	I B2	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	砂	ナデ調整の為不明	底面に刻書か	9	12
2-5	S B2 E P1	須恵器	蓋	I C5	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	砂	不明		9	12
3-1	S B3 E P3	須恵器	有台环	I B4	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	石英砂	ナデ調整の為不明		11	12
3-2	S B3 E P3	須恵器	环	I A2	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ		不明	内面セビア色	11	12
4-1	S B4 E P13	須恵器	环	I A1	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ	砂	不明		16	12
4-2	S B4 E P6	須恵器	环	I A2	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		16	12
4-3	S B4 E P1	須恵器	环	I A3	-	-	-	3.5	ロクロ	ロクロ	砂	不明		16	12
4-4	S B4 E P3	須恵器	环	I A3	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	砂	不明		16	12
4-5	S B4 E P7	須恵器	环	I A3	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ		不明		16	12
4-6	S B4 E P8	須恵器	环	I A3	-	-	-	3.5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		16	12
4-7	S B4 E P3	須恵器	蓋	I C1 (152)	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		16	12
4-8	S B4 E P1	須恵器	蓋	I C3 (140)	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ		不明		16	12
4-9	S B4 E P2	須恵器	蓋	I H?	-	-	-	7	タスキ	アテ	石英砂	不明		16	12
4-10	S B4 E P6	土師器	蓋	I H2	-	-	-	6	ハメナデ	ミガキ		不明	内面黒色処理	16	12
4-11	S B4 E P5	土師器	蓋	I H3	-	-	-	5	ハメナデ			不明		16	12
4-12	S B4 E P1	土師器	蓋	I H4	-	-	-	8	不明	不明		不明		16	12
5-1	S B5 E P3	土師器	蓋	I H4 (283)	-	-	-	8	ロクロ	ロクロ	砂	不明		18	12
5-2	S B5 E P2	須恵器	有台环	I B2	-	(87)	-	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	ナデ調整の為不明		18	12
6-1	S B6 E P2	須恵器	环	I A1	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		19	12
12-1	S I 12	須恵器	环	I A1 (144) (78)	42	4	ロクロ	ロクロ	砂	鋸切り後 ナデか			24	13	
12-2	S I 12	須恵器	环	I A1	130	82	40	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	回転系切		24	13
12-3	S I 12	須恵器	环	I A4	-	(70)	-	6	ロクロ	ロクロ	砂	鋸切り後 ナデか		24	13
12-4	S I 12	須恵器	环	I A4	-	(80)	-	5	ロクロ	ロクロ		底部を ハメ調整		24	13
12-5	S I 12	須恵器	环	I A4	-	90	-	5	ロクロ	ロクロ		鋸切り後 ナデか		24	13
12-6	S I 12	須恵器	环	I A4	-	76	-	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	回転既切		24	13
12-7	S I 12	須恵器	环	I A4	-	(76)	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	回転系切		24	13
12-8	S I 12	須恵器	环	I A4	-	(66)	-	4	ロクロ ナデ	ロクロ		回転系切	立ち上がり部分 にナデ調整	24	13
12-9	S I 12	須恵器	环	I A4	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ		鋸切り後 ナデか		24	13
12-10	S I 12	須恵器	有台环	I B3	-	90	-	5	ロクロ	ロクロ	石英砂	ナデ調整 の為不明		24	13
12-11	S I 12	須恵器	蓋	I C1	-	-	-	5	ロクロ ケズリ	ロクロ		不明	天井部器蓋	24	13
12-12	S I 12	須恵器	蓋	I C3 (156)	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	砂	不明		24	13
12-13	S I 12	須恵器	蓋	I C3	190	-	38	5	ロクロ ケズリ	ロクロ	砂	不明		24	13
12-14	S I 12	須恵器	蓋	I C3	(170)	-	28	6	ロクロ ケズリ	ロクロ	凝灰岩質 細砂	不明		24	13
12-15	S I 12	須恵器	後輪	I D	(144)	-	-	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	ナデ調整 の為不明		24	13

表4-2 石田遺跡 遺物觀察表

報告書番号	遺構番号	種別	器種	剖面値					調査		胎土	底部 切削	備考	押圧	回数	
				分類	口径	底径	器高	器厚	外面	内面						
12-16	S I 12	須恵器	縦楕	I D	130	-	31	3	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	ナデ調整の為不明		24	13	
12-17	S I 12	須恵器	縦楕	I D	142	96	52	4	ロクロ	ロクロ	石灰岩質砂	荒切り後ナデか		25	14	
12-18	S I 12	須恵器	縦楕	I D	150	100	46	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	荒切り後ナデか		25	14	
12-19	S I 12	須恵器	蓋	I G ?	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	外表面自然軸多		25	13	
12-20	S I 12	須恵器	蓋	I G 1	-	(70)	-	8	不明	不明	不明	内外面自然軸		25	14	
12-21	S I 12	須恵器	蓋	I G 2	-	(120)	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		25	14	
12-22	S I 12	須恵器	縦楕	I G 3	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		25	14	
12-23	S I 12	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	14	タキ	アテ	凝灰岩砂	不明		25	14	
12-24	S I 12	土師器	蓋	I H 1	-	(86)	-	5	不明	不明	砂	黒漆板	内面黑色処理	25	14	
12-25	S I 12	土師器	蓋	I H 1	-	(92)	-	5	不明	不明	砂	黒漆板	漆断接着	25	14	
12-26	S I 12	土師器	蓋	I H 1	-	(84)	-	10	不明	不明	石英砂	不明	内面黑色処理	25	14	
12-27	S I 12	土師器	蓋	I H 1	-	-	-	7	不明	不明	砂	黒漆板	内面黑色処理	25	14	
12-28	S I 12	土師器	蓋	I H 3	-	-	-	4	ハケメ	ハケメ	砂	不明		25	14	
12-29	S I 12	串燒土器	蓋	III C	(130)	-	-	7	ロクロ	ロクロ	砂	不明		25	14	
14-1	S K 14	須恵器	坏	I A 2	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		26	14	
14-2	SK14-SB2EP6	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	5	タキ	アテ	砂	不明		26	14	
14-3	SK14-SB2EP6	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	9	タキ	アテ	砂	外表面自然軸多		26	14	
14-4	SK14	土師器	蓋	I H 1	-	(78)	-	8	ハケメ	ハケメ	砂	不明		26	14	
7-1	SD7-8ベルト	土師器	蓋	I H 1	-	(104)	-	7	不明	ハケメ	砂	不明	摩滅頗著		27	13
34-1	S D34	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	6	タキ	アテ	凝灰岩砂	不明		29	15	
51-1	S D51	須恵器	蓋	I C 1	148	-	25	5	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		29	15	
11-1	S G 11	須恵器	有台坏	I B 1	-	(100)	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	ナデ調整の為不明	底面墨書き	32	13	
11-2	S G 11	須恵器	蓋	I C 5	(122)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	砂		32	13	
11-3	S G 11	須恵器	蓋	I H 1	-	-	-	5	不明	不明	凝灰岩砂	不明	外表面自然軸多	32	13	
11-4	S G 11	土師器	蓋	I H 1	-	(90)	-	8	ハケメ	ハケメ	砂	不明		32	13	
11-5	S G 11	須恵器	要	I H ?	-	-	-	7	平行タキ	アテ	砂	不明		32	13	
11-6	S G 11	土師器	要	II G 1	-	54	-	4	ハケメ	ナデ	大変黒い	砂	古墳時代のものか		32	13
16-1	S P 16	須恵器	坏	I A 1	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		33	15	
38-1	S P 38	須恵器	坏	I A 3	(144)	(96)	37	4	ロクロ	ロクロ	砂	剪切後ナデか		33	14	
38-2	S P 38	須恵器	坏	I A 4	-	(84)	-	6	ロクロ	ロクロ	砂	回転糸切板ナデか		33	14	
31-1	S P 31	須恵器	有台坏	I B 1	-	(92)	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	ナデ調整の為不明		33	15	
15-1	S P 15	須恵器	有台坏	I B 2	-	(80)	-	4	ロクロ	ロクロ	石灰岩砂	ナデ調整の為不明	底面墨書き	33	15	
30-1	SP18-SP30	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	7	タキ	アテ	凝灰岩砂	不明		33	15	
13-1	S P 13	須恵器	蓋	I H 2	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		33	15	
20-1	S P 20	須恵器	蓋	I H 3	-	-	-	9	不明	不明	凝灰岩砂	不明	外表面描波状紋	33	15	
20-2	S P 20	土師器	蓋	II H 3	(128)	-	-	6	ハケメ	ナデ	赤褐色砂	不明		33	15	
III-1	確認面	須恵器	坏	I A 4	-	(80)	-	6	ロクロ	ロクロ	砂	切削後ナデか		33	15	
III-2	確認面	須恵器	蓋	I C ?	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	砂	やや黒い	不明	33	15	
III-3	確認面	須恵器	蓋	I C 1	110	-	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		33	15	
III-4	確認面	須恵器	蓋	I C 2	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		33	15	
III-5	確認面	須恵器	蓋	I C 3	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		33	15	
III-6	確認面	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	7	タキ	アテ	砂	不明	外表面自然軸多	33	15	
III-7	確認面	須恵器	蓋	I H ?	-	-	-	6	タキ	アテ	砂	不明		34	15	
III-8	確認面	須恵器	蓋	I H 1	-	-	-	8	ロクロ	ロクロ	凝灰岩砂	不明		33	15	
III-9	確認面	須恵器	蓋	I H 1b	-	74	-	5	ロクロ	ロクロ	砂	糸切後		34	15	
III-10	確認面	赤焼土器	坏	III A 2C	-	82	-	不明	不明	砂	静止糸切			34	15	

3 総括

(1) 調査の成果

石田遺跡は、山形市域南西部を流れる本沢川と花川に挟まれた扇状地上に立地する奈良～平安時代の集落跡である。今回の調査は谷柏変電所新設工事を原因とする緊急調査で、工事事業の実施される範囲を対象にしたものである。

平成10～12年度には山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。特に平成12年度の調査区は本調査区に隣接しており、一連の構成となる建物跡群が確認されている。今後、それらの整理作業による成果を含めた検討が必要となろう。

今回の調査の大きな意義として、かねてよりその存在が周知されていた石田遺跡について、発掘調査を実施した事により、遺跡の様相を明らかにできた事が挙げられよう。

以下、当調査区にて検出された遺構・遺物をもとに、考察を加えて調査のまとめとしたい。

(2) 奈良～平安時代の遺構及び遺物について

検出された遺構は主に掘立柱建物跡8棟、竪穴住居跡1棟、土坑1基、溝跡8条、河川跡1条であった。時期は奈良時代末～平安時代初頭のものがほとんどである。以下、検出された遺構群について考察を加える。

遺構の変遷及び性格について

まず掘立柱建物跡群について述べる。概説的には建物規模 2×2 間が6棟(SB2・3・4a・4b・5)、 2×3 間が2棟(SB1・6)、 2×4 間が1棟(SB4c)である。なかでもSB4c・SB5は廂をもち、SB4a・bは総柱の建物跡である。SB1・SB2では柱穴の抜取り穴や切り合いが確認され、建て替えが行なわれたと考えられる。SB4もEP3の断面観察により複数回の建て替えが行われたものと推測され、SB4a(2×2 間)→SB4b(2×2 間)の変遷を考えられ、 2×4 間の総柱建物(SB4c)として機能した時期もあったかと推測された。

建物同士に重複や切り合いは認められないが、主軸方向や、建物ごとの柱穴の規模による分類から2つのグループに分けられ、2時期前後の建物跡群の変遷が考えられる。それらは、I期：主軸方向が真北に対してN-4°～11°-Wの建物跡群のグループ(SB1・2・3・4a・6)、II期：主軸方向が真北に対してN-2°～3°-Eの建物跡群のグループ(SB4b・5)の変遷である。柱穴からの出土遺物からはI期とII期の建物跡群の間に明確な時期差は見出せず、大きな時間的隔たりは無いものと考えられる。

建物跡群の周囲に検出された溝跡の時期については、SD34・47はSB6の桁行の方向と平行に走るためI期に包括されるものと考えられる。またSB5-E P12がSD8を切っており、SD8はII期以前の形成と考える。SD7はSD8に切られるが、建物跡群と近接した位置にあり、関連性があるものと推測される。

竪穴住居跡SI12・土坑SK14はいずれもI期のSB2・SB3を切っており、I期以降の所産が考えられる。出土遺物からは大きな時間差が見られない。II期に前後する時期が考えられる。

次に河川跡 S G 11について述べる。掘立柱建物跡群に近接した位置にあり、人為的と考えられる蹕群の石組みも検出された。本調査区内で河川全体の北端が完結する様相であった。それらの条件から、他の造構群との機能的な関連、例えば掘立柱建物跡群に集積された物資等を運び出す等の、水運による運搬や船着場のような機能性についても現場調査段階では想定した。しかし、「水場造構」を構成するような木組や杭列等は検出されなかった。そのため、あくまで推定においてであるが、石田遺跡内における掘立柱建物跡群と S G 11の関連性について、あるいは建物跡群と河川跡の有機的関連もあったのではないか、という可能性として記述するにとどめるものとした。

出土遺物について

本調査で出土した遺物はコンテナ20箱を数える。その内108点について図化し得た。出土遺物は土師器・須恵器・赤焼土器等土器類が最も多く、なかでも供膳形態の壺・蓋類、貯蔵形態の甕等が主体となる。その他は木製品等である。特に柱根の残存状況が良く、計14本検出された。

本書中では出土遺物の種別について I - 須恵器、II - 土師器、III - 赤焼土器の3種に大別した。器種は、A - 壺、B - 有台壺、C - 蓋、D - 稜枕、G - 壺、H - 甕に分類し、器形や調整技法の特徴により細分した。但し、須恵器・土師器共に完形に近い物が少なく、遺物様相の傾向を判断するに困難な状況であり、出土部位の様相で分類するにとどめた。底部痕跡については a - 篦切、b - 回転糸切、c - 静止糸切、d - 葉脈痕の4類に分類している。本書中の遺物の分類内容については表7の通りである。

須恵器から様相を略述する。出土した器種は供膳形態が大半であり、比較して貯蔵形態の出土量は少ない。壺については底部が回転篦切による切り離しのもの・切り離しの後ナデ調整を行ったと考えられるものが大半を占める。回転糸切のものもあるが少數である。胎土の観察からは凝灰岩の粗砂が混入するものが多く見られる傾向であった。

墨書のあるものも須恵器にのみ確認された。有台壺に2点(11-1・15-1)、蓋に1点(12-1)であった。いずれも字形が判然とせず、書かれている文字の種類については不明である。

土師器で出土した器種については甕の底部や体部など、煮炊形態のものが大半であった。大半の遺存状態は悪く、完形に近い形となるものは皆無であり、部位ごとの特徴による分類のみにとどめた。

赤焼土器は壺の底部が2点、蓋が1点のみの計3点の出土である。

柱根は柱穴より合計で14本出土した。樹種等の詳細については、理科学分析等による分類をおこなっていないため断定できない。

木柱それぞれの加工の状況について、肉眼による柱断面の観察により、A - 割っていないもの、B - 全体の1/3程に分割しているもの、C - 全体の1/4程に分割しているもの、D - 全体の1/6程度以下に分割しているもの、の4種類に大別した(表5)。その加工の状態の分類からは、柱穴ごとの部材の使い分けや、あるいは建物内における配置等、柱の使用された状況についての特徴や規則性等は見出しができなかった。

表5 石田遺跡 出土木柱觀察表

出土遺構	底部幅	分類	挿図	図版
SB 1 E P 5	200	A	35	16
SB 1 E P 8	150	A	35	16
SB 1 E P 9	74	D	35	16
SB 2 E P 5	150	B	36	16
SB 2 E P 7	156	C	36	16
SB 2 E P 8	200	C	37	16
SB 2 E P 9	104	D	36	16
SB 6 E P 1	180	C	37	16
SB 6 E P 2	196	D	38	16
SB 6 E P 3	190	D	38	16
SB 6 E P 4	224	B	38	16
SB 6 E P 9	220	B	38	16
SB 6 E P 11	156	C	40	16
SK 14・SB 2 E P 6	106	D	36	16

表6-1 石田遺跡 遺構観察表

遺構番号	所在グリッド	柱穴番号	平面形	長軸	短軸	深さ	備考	挿図	図版
SB 1	N-55~O-56	E P 1	円形	90	74	67		6~8	2
		E P 2	隅丸方形	96	86	61			
		E P 3	円形	90	80	58			
		E P 4	隅丸方形	94	60	61			
		E P 5	長楕円形	80	70	47	木柱残存		
		E P 6	長楕円形	90	60	59			
		E P 7	長楕円形	100	64	54			
		E P 8	方形	82	68	56	木柱残存		
		E P 9	円形	36	28	36	木柱残存		
		E P 10	円形	36	34	16			
SB 2	P-56~O-57	E P 1	円形	84	76	58		9~10	3
		E P 2	方形	82	56	27			
		E P 3	不整円形	108	76	50			
		E P 4	長楕円形	72	58	36.5			
		E P 5	長楕円形	86	74	52	木柱残存		
		E P 6	(隅丸方形)	(88)	(48)	41	木柱?残存		
		E P 7	円形	64	62	37	木柱残存		
		E P 8	円形	82	72	53.5	木柱残存		
SB 3	Q-57~58	E P 9	隅丸方形	70	64	53	木柱残存	11~12	4
		E P 1	不整円形	38	34	23			
		E P 2	長楕円形	54	40	16			
		E P 3	不整円形	64	54	39			
		E P 4	長楕円形	70	50	30			
		E P 5	円形	54	50	33			
		E P 6	円形	48	42	24			
		E P 7	不整円形	48	46	21			
		E P 8	長楕円形	64	52	23			
		S I 12-E P 2	不整円形	46	34	36.5			
SB 4	O-57~P-58	S I 12-E P 1	長楕円形	56	42	27.5		13~16	5
		E P 1	不整円形	92	84	56	抜取痕あり		
		E P 2	不整方形	64	56	51.5			
		E P 3(旧)	不整方形	86	82	51			
		E P 3(新)	円形	68	68	45			
		E P 4	不整円形	62	60	44	抜取痕あり		
		E P 5	不整円形	70	56	37			
		E P 6	長楕円形	100	74	66	抜取痕あり		
		E P 7	円形	64	58	14			
		E P 8	不整円形	84	64	54			
		E P 9	円形	70	62	35			
		E P 10	円形	65	52	33			
		E P 11	長楕円形	110	86	51			
		E P 12	不整円形	94	74	46			
		E P 13	円形	90	81	55			
		E P 14	長楕円形	86	42	41			
		E P 15	不整円形	(60)	(50)	37	抜取痕あり		
		E P 16	円形	48	46	13.5			
		E P 17	円形	38	34	14.5			
		E P 18	円形	38	36	14			
		E P 19	不整円形	44	30	18			

表6-2 石田遺跡 遺構観察表

遺構番号	所在グリッド	柱穴番号	平面形	長軸	短軸	深さ	備考	辨図	図版
S B 5	Q-58～R-59	E P1	円形	48	42	41		17～18	6
		E P2	不整円形	42	36	15			
		E P3	不整円形	42	34	32			
		E P4	円形	48	42	12			
		E P5	不整円形	50	40	26			
		E P6	円形	24	18	19			
		E P7	長袖円形	50	34	19			
		E P8	不整円形	26	24	16			
		E P9	不整円形	54	44	44			
		E P10	長袖円形	42	28	10			
		E P11	長袖円形	62	30	15			
		E P12	不整円形	36	30	13			
		E P13	円形	22	20	13			
S B 6	N-59～O-60	E P1	円形	80	78	50	木柱残存	19～20	7
		E P2	円形	92	86	38	木柱残存		
		E P3	円形	72	72	48	木柱残存		
		E P4	不整円形	78	76	60	木柱残存		
		E P5	円形	94	74	21			
		E P6	円形	44	36	21.5			
		E P7	円形	18	16	10			
		E P8	円形	24	20	17			
		E P9	円形	46	44	45	木柱残存		
		E P10	不整円形	62	52	36			
		E P11	不整円形	64	58	33	木柱残存		
		E P12	不整円形	72	62	26			
S P41	N-54		円形	74	58	18		21	8
S P42	N-57		隅丸方形	86	72	50		21	8
S P33	N-60		円形	51	41	20		29	10
S I12	R-57～58	E P3	不整円形	(380)	340	10		22～25	10
S K14	P-57		長指円形	(140)	84	33	木柱？残存	26	9

表7 石田遺跡 遺物分類表

土器区分	器種	器種分類	口縁部～体部形態	外画面調整	内面調整	底面形状
坏A	坏B	1	器高近く、外間にクロ口縁部を顕著に残し、体部が直線に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	a・b
		2	器高が高く、体部が内弯する。	ロクロ	ロクロ	a・b
		3	器厚が厚く、体部が外反する。	ロクロ	ロクロ	
		4	器厚が薄く、口縁部付近でわずかに外反する。	ロクロ	ロクロ	
有台坏B	有台坏B	1	体部が直線的に立ち上がり、高台が全面で接地する。付高台。	ロクロ	ロクロ	
		2	1や3と比べて体部が大きく述べ、高台が外側端部で接地する。付高台。	ロクロ	ロクロ	
		3	体部は直線に立ち上がり、高台は外側端部で接地する。付高台。	ロクロ	ロクロ	
		4	高台が断面三月状をなし、外側端部で接地する。付高台。	ロクロ	ロクロ	
須恵器I	蓋C	1	天井が平らで、口縁部が直立か内側に折れ曲がる。	ロクロ ケズリ ナデ	ロクロ	
		2	口縁部がくぼんで口縁端部が直立。端部が上方に盛り上がる。			
		3	天井と体部の境が不明瞭で、口縁端部が折り曲がる。			
		4	天井と体部の境が不明瞭で、口縁端部が角をなし内傾する。			
俊腕D	俊腕D	5	体部が直立して立ち上がり、天井が渦曲する。肩縁壺型の蓋か？	ロクロ	ロクロ	
		6	体部に接つ持つもの。	ロクロ	ロクロ	a?
壺G	壺G	1	底部平底のもの。			
		2	底部に台のつくもの。			
甕H	甕H	3	短颈甕。	ロクロ	ロクロ	
		1	口縁部と体部の境で「く」の字状に屈曲、口縁端部が外傾する。			
		2	小型で口縁部と体部の境で「く」の字状に屈曲。			
甕G	甕G	3	口縁部と体部の境で「く」の字状に屈曲。			
		1	平底で体部が直線に立ち上がる。	ハケメ ケズリ	ハケメ	葉脈痕
		2	小型で器高が低く、内面黒色處理を施すもの。	ナデ ハケメ	ミガキ	不明
土師器II	甕H	3	器厚が薄く、口縁部と体部の境が「く」の字状に屈曲するもの。	ナデ	不明	
		4	器厚が薄く、口縁部と体部の境が「く」の字状に屈曲するもの。	ナデ ハケメ	ナデ	不明
		1	蓋を開した。	ミガキ		
		2	底部と体部の境が角をなす。	ロクロ	ロクロ	b・c
赤燒土器III	坏A	1	底部と体部の境で丸みを帯びる。	不明	不明	b・c
		2	蓋と考えられるものを一括した。	ロクロ	ロクロ	不明

第Ⅳ章 上谷柏遺跡

1 遺跡の概観

上谷柏遺跡は、平成13年度に新規に発見された遺跡である。本遺跡が所在する大字谷柏地区には数多くの遺跡が点在しており、本遺跡の南方約360mの丘陵部には県指定史跡谷柏古墳群が所在する。遺跡周辺は水田地帯となっており、標高は約132mを測る。

検出面までの層序は、2層に分かれる。第Ⅰ層は耕作土である。第Ⅱ層は遺物包含層で、9世紀中葉の遺物を包含する。調査区の南半に分布し、北側では耕作による削平で確認できなかった。ややグライ化しており、直径約3cmの風化した凝灰岩、安山岩を含む。包含される遺物は、小破片が多く、遺存状態が良好でない。こういった状況から、客土の可能性も否定できないが、非常に均質で安定した堆積状況を呈す。第Ⅲ層は、暗褐色シルト層で、調査区南東部、SG1河川跡付近に分布する。第Ⅳ層は灰褐色シルト層で、よく締まっている。第Ⅲ層及び第Ⅳ層上面で遺構を確認している。検出面は、北側から南側にかけて緩やかに傾斜する。北側では、削平により、第Ⅱ層直下が第Ⅳ層となる。第Ⅴ層以下は、非常に軟弱な黒色粘土層、グライ化した細砂層となる。

検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟(SB6)、河川跡1条(SG1)である。その他、十数基のピットが検出されたが、精査の結果、いずれも現代の稲杭であった。

2 検出された遺構と遺物

今回の調査は、東北電力による谷柏支線新設工事に係る鉄塔建設工事に伴い実施されたものである。調査区は非常に狭小で、前節でも述べたように、今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、河川跡1条である。以下、遺構毎についてその概略を記す。

(1) SB6掘立柱建物跡（第41～43図 図版17～19）

調査区北西隅に位置する。調査区が狭小であるため、全体を確認することができなかった。確認されたのは主柱穴2本(EP3、5)、庇柱穴(EP2、4)である。1間以上×2間以上の東面に庇がつく建物跡で、柱間は、桁行が約1.8mを測る。主軸方向はN-15°-Eと推測される。

主柱穴であるEP3、5は、平面形が円形を呈し、直径約50cmを測る。アタリが明瞭に確認でき、断面観察等の結果から、柱の直径は約15cmと判断される。

庇の柱穴であるEP2、4は、平面形が東西に長い隅丸方形若しくは梢円形を呈し、長軸約50cm、短軸約40cmを測る。アタリがやや不明瞭で、柱の規模を推定することはできなかった。

遺物は、EP2の掘り方から、凡そ9世紀第3四半期の所産と判断される須恵器坏口縁部片(3)及び土師器片が数片出土している。

時期は、EP2の出土遺物から9世紀中葉以降の所産と判断される。

(2) SG 1 河川跡 (第41・43図 図版17・19)

調査区南東隅に位置する。南西から北東に向って走向し、幅約210cm、検出面からの深さは約27cmを測る。覆土は4層に分かれ、第2層の下面～第3層の上面にかけて遺物を包含する。床面直上の堆積層は、砂礫層(F4)となり、より上層の覆土も多量の砂を含み、河川形成時に堆積したものと判断される。北側に比べ、南側の立ち上がりが、非常に緩やかである。床面はやや凹凸があり、北東から南西へ向ってやや傾斜する。また、トレンチ北壁断面で掘り方をもつ柱穴を1基確認している。

遺物は整理箱にして、1/3箱出土している。何れも小破片で、多量の砂を含む層からの出土であることから、河川形成時に流入した遺物と判断される。須恵器(壺・有台壺・短頸壺・大甕)、土師器(長胴壺)、赤焼土器(壺・有台壺)が出土している。時期にやや幅があり、回転ヘラ切の赤焼土器壺(13)も出土しているが、凡そ9世紀第3四半期の所産の遺物が大勢を占める。9点を図化した。

以上のことから、この河川は、遺物にやや時期幅のあるものの、凡そ9世紀第3四半期に形成されたものと判断される。

その他、包含層より、須恵器壺(2)、須恵器有台皿(5)、両黒土師器有台壺(10)、内黒土師器壺(11)が出土している。何れもSG1付近から出土しており、この河川跡に帰属する可能性もあるが確認はできなかった。また、SB6掘立柱建物跡付近の検出面から凝灰岩製の砥石(15)が出土している。

3 まとめ

今回の調査は、東北電力による谷柏支線新設工事に伴い実施されたものである。非常に小規模な調査であったが、平安期の掘立柱建物跡1棟、河川跡1条を検出することができた。

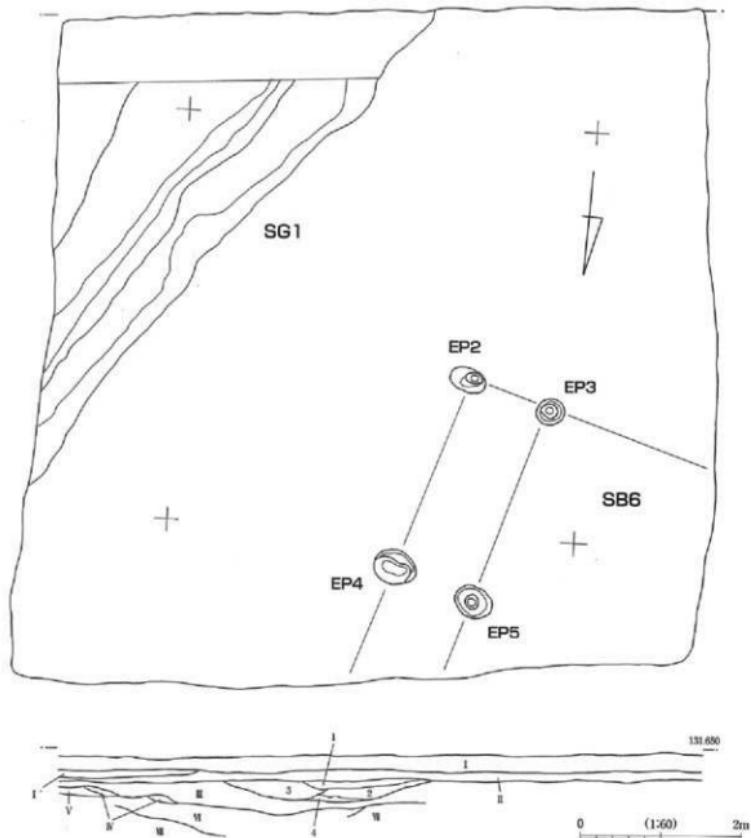
掘立柱建物跡(SB6)は、一部のみの検出であったが、東面に庇をもつ1間以上×2間以上の建物跡である。時期は、掘り方出土の遺物から、9世紀中葉以降の所産と判断される。

河川跡(SG1)は、その堆積状況から短期間に機能したものと判断される。遺物はすべて、河川形成時に堆積したと考えられる砂層から出土しており、時期は凡そ9世紀第3四半期頃の所産と判断される。

SB6とSG1はその出土遺物がほぼ同時期であるが、遺構覆土の堆積状況及び位置関係から同時に存在したとは判断しがたい。また、前述のように、SG1に設定したトレンチの北壁から柱穴を1基確認しているが、遺物は全く出土せず、SB6と同時期であるかは確認できなかった。よって、SB6とSG1との前後関係を決定する確証は得られなかつたが、SG1が短期間に形成されたと判断されること及びSB6の出土遺物が掘り方からの出土していることから、SB6がより新しいと考えたい。

出土遺物は、9世紀第3四半期の所産のものが大勢を占める。須恵器については、その胎土の特徴が本市南部の丘陵に点在する窯跡出土の遺物と近似している。よって、それらと同一もしくは近接した地域で製作されたものと推測される。但し、当該時期に帰属する窯跡は確認されていないので、未発見の窯跡が所在している可能性がある。

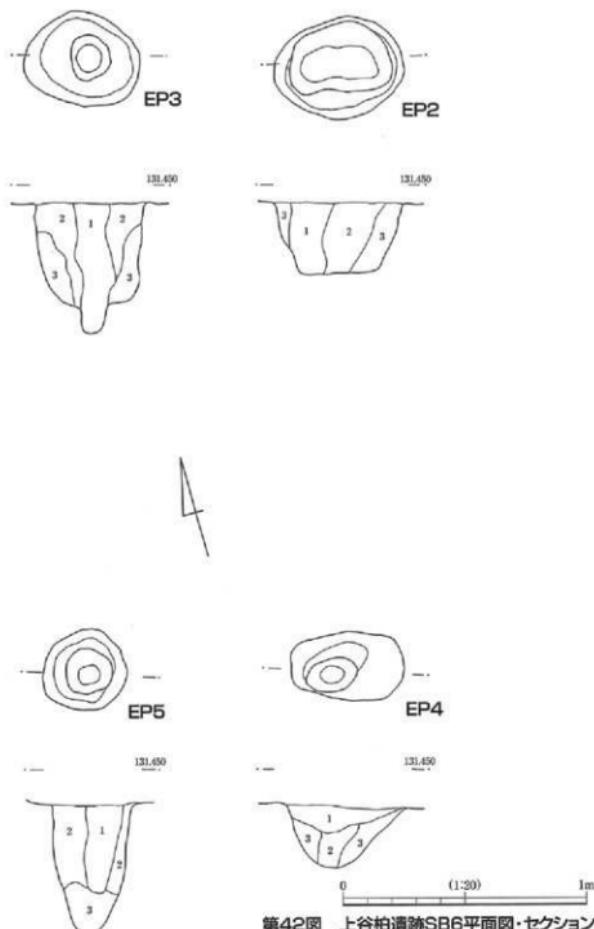
また、本遺跡の範囲は、今回の調査成果から、南側及び東側の水田部分が、本遺跡の所在する水田より低くなっていることから、北側及び西側に広がると判断される。



第41図 上谷柏遺跡・遺構配置図

表8 上谷柏遺跡基本層序・SG1土層注記

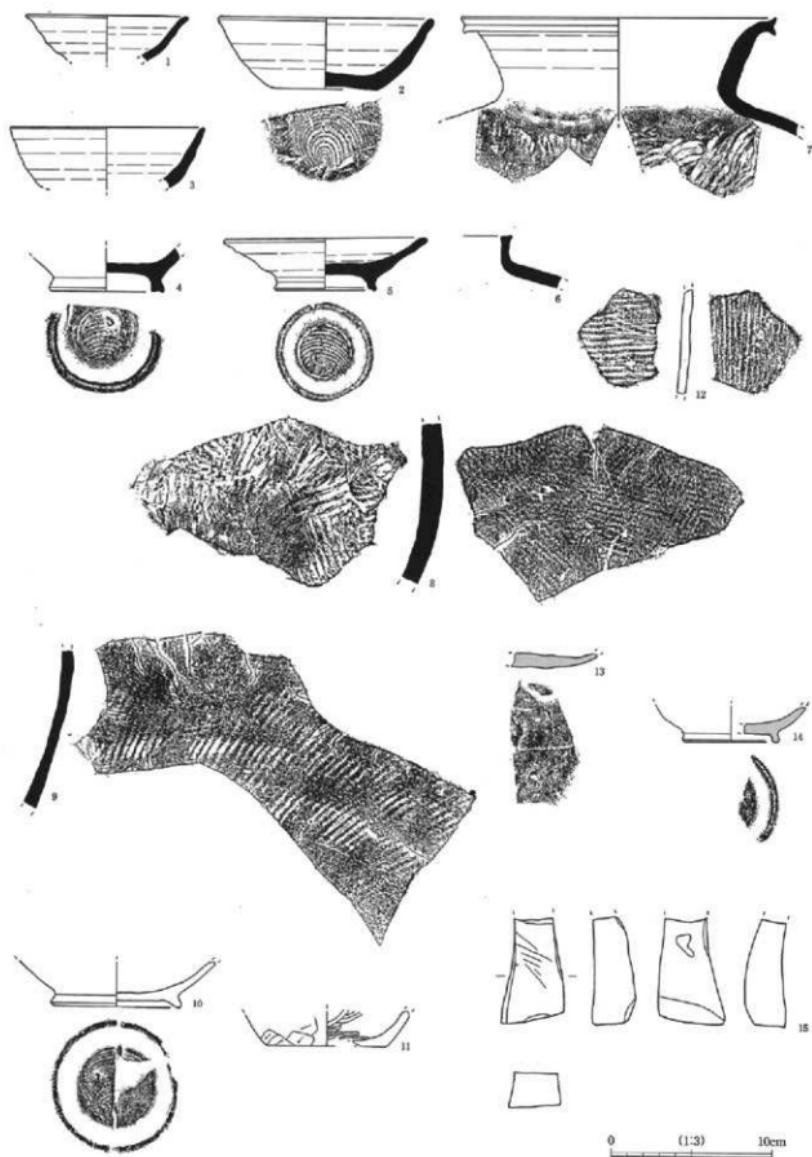
遺構番号	層位	土色	土質	注記
基本層序	I	10YR4/1褐色	粘質シルト	水田耕作土。
	II	10YR3/2黒褐色	シルト	塵(径10~30mm)含む。炭化物(径1~5mm)含む。遺物含む。
	III	10YR1.7/1黒色	シルト	II層ややまじる。酸化鉄多量に含む。SG1付近で、SG1F1混じる。
	IV	10YR5/1褐色	シルト	均質。地山。
	V	10YR4/1褐色	シルト	やや疊混じる。VとVIの漸移層。
	VI	10YR5/2灰黄褐色	細砂	均質。
	VII	10YR1.7/1黒色	粘土	均質。
	VIII	10YR6/1褐色	砂	均質。
SG1	1	10YR7/3にぶい黄褐色	細砂	塵少量含む。均質。
	2	10YR2/1黒褐色	シルト	砂多量に含む。遺物含む。
	3	10YR7/3にぶい黄褐色	砂	塵(径2~10mm)含む。遺物含む。
	4		砂疊	酸化鉄沈殿。



第42図 上谷柏遺跡SB6平面図・セクション

表9 上谷柏遺跡SB6土層注記

遺構番号	層位	土色	土質	注記
EP 2	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物粒、小礫、灰黃褐色細砂(10YR5/2)微量に含む。柱穴。
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR5/2灰黃褐色細砂ブロック少量含む(上半に偏る)。炭化物粒微量に含む。掘り方。
	3	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトブロック微量に含む。ほぼ均質。掘り方。
EP 3	1	10YR3/2黒褐色	シルト	EP2F1と同じ。
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトブロック、炭化物粒微量に含む。掘り方。
	3	10YR3/2黒褐色	シルト	EP2F2と同じ。
EP 4	1	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR5/2灰黃褐色細砂ブロック、10YR2/2黒褐色シルトブロック少量含む。炭化物粒微量に含む。柱消失後の堆積土。
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	EP2F1と同じ。
	3	10YR3/2黒褐色	シルト	EP2F2と同じ。
EP 5	1	10YR3/2黒褐色	シルト	EP2F1と同じ。
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	EP2F2と同じ。
	3	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトブロック微量に含む。ほぼ均質。掘り方。



第43図 上谷柏遺跡出土遺物

表10 上谷柏遺跡 遺物觀察表

遺物番号	遺構番号(層位)	種別	器種部位	残存	口径	底径	器高	器厚	外面調整	内面調整	底部切離	胎土	備考	排回番号	回版番号
1	SG1F2	須恵器	坏	口縁部 体部	(100)	-	-	3	ロクロ	ロクロ	-	石英・凝灰岩質砂		43	19
2	II	須恵器	坏	略完形	(132)	64	44	7	ロクロ	ロクロ	回転糸切	凝灰岩質砂	見込摩滅	43	19
3	SB6EP2F2	須恵器	坏	口縁部 体部	(120)	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	凝灰岩質砂	内外面摩滅	43	19
4	SG1F2	須恵器	有台坏	底部	-	80	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	凝灰岩質砂	内外面摩滅	43	19
5	II	須恵器	有台皿	略完形	126	62	32	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	凝灰岩質砂・粗砂		43	19
6	SG1F2	須恵器	臺	口縁部 体部	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	凝灰岩質砂	外面自然釉	43	19
7	SG1F2	須恵器	臺	口縁部 体部	(194)	-	-	8	口縁部: ナデ 体部: タタキ		-	凝灰岩質砂	外面自然釉	43	19
8	SG1F2	須恵器	臺	体部	-	-	-	6	タタキ	アテ→ ナデ	-	石英・凝灰岩質砂		43	19
9	SG1F2	須恵器	臺	体部	-	-	-	12	タタキ	アテ	-	凝灰岩質砂	内外面摩滅	43	19
10	II	土師器	有台坏	底部	-	80	-	5	黒色 ミガキ	黒色 ミガキ	回転糸切	石英・雲母	内外面摩滅	43	19
11	II	土師器	臺	底部	-	74	-	6	ケズリ	黒色 ミガキ	栗根痕→ ナデ	石英・凝灰岩質砂・粗砂		43	19
12	SG1F2	土師器	臺	体部	-	-	-	5	ハケメ (縦位)	ハケメ (横位)	-	砂		43	19
13	SG1F2	赤焼土器	坏	底部	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転 ヘラ切	雲母・凝灰岩質砂	内外面摩滅	43	19
14	SG1F2	赤焼土器	有台坏	底部	-	60	-	6	ロクロ	ロクロ	摩滅不明	石英・凝灰岩質砂・粗砂	内外面摩滅	43	19

遺物番号	遺構番号	種別	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	備考	排回番号	回版番号
15	II	砾石	-	39	26	73	端部欠損・4面使用・凝灰岩	43	19

参考文献

- 茨木光裕 1998 「遺跡分布から見た古代交通路の復元の一考察—最上郡南半部を中心として—」『さあべい』第15号 さあべい同人会
- 國井修 2001 「中野目Ⅰ遺跡 中野目Ⅱ遺跡発掘調査報告書」山形市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 國井修 2002 「吉原Ⅵ遺跡発掘調査報告書」山形市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 佐藤庄一 2001 「石田遺跡」「分布調査報告書(27)」山形県埋蔵文化財調査報告書第201集
- 鈴木徹、斎藤也寸志・志田純子・氏家信行・斎藤健 1999 「東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係予備調査報告書(2)」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第68集
- 鈴木良仁・須賀井明子 1996 「富山2遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第41集
- 武田和宏 2001 「石田遺跡」「山形市埋蔵文化財発掘調査年報 平成5~11年度」 山形市教育委員会
- 長崎至 1987 「桜林興野遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第115集
- 名和透朗・伊藤邦弘・太田優・斎藤典典 1988 「早稻田遺跡 桜林遺跡 西田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第126集
- 野尻侃 1986 「石田遺跡」「分布調査報告書(13)」山形県埋蔵文化財調査報告書第96集
- 山形県埋蔵文化財センター 1999 「石田遺跡第2次調査説明資料」
- 山形県埋蔵文化財センター 1999 「吉原遺跡第3次調査説明資料」
- 山形県埋蔵文化財センター 2000 「石田遺跡第3次調査説明資料」
- 山形県埋蔵文化財センター 2001 「山形元屋敷遺跡調査説明資料」
- 山口博之・吉田江美子・斎藤也寸志 2002 「谷柏」遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第95集

報告書抄録

ふりがな	いしだいせきかみやがしわいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	石田遺跡上谷柏遺跡発掘調査報告書							
調書名								
卷次								
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第14集							
編著者名	須藤英之 國井修							
編集機関	山形市教育委員会							
所在地	〒990-8540 山形県山形市旅篭町二丁目3番25号 TEL 023-641-1212							
発行年月日	2002年6月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
石田	山形県 山形市 大字 谷柏 元上谷柏 字石田 121-1	6201	82	38度 12分 36秒	140度 17分 32秒	20000410 ～ 20000629	2,569m ²	谷柏 変電所 建設事業
上谷柏	山形県 山形市 大字 谷柏 元上谷柏 字石田	6201	平成13年度 登録	38度 12分 34秒	140度 17分 21秒	20011105 ～ 20011120	64m ²	高压送電線 谷柏支線 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
石田	集落跡	奈良～平安時代		掘立柱建物跡6棟 竪穴住居跡1棟 川跡1条 溝跡8条 土坑1基		土師器(壺) 須恵器(壺・有台 壺・壺蓋・壺) 赤焼土器(壺・蓋) 木製品(柱)		出土箱数20箱
上谷柏	集落跡	平安時代		掘立柱建物跡1棟 河川跡1条		土師器(壺・有台 壺・壺) 須恵器(壺・有台 壺・壺) 赤焼土器(壺・有台 壺)		出土箱数1箱

図 版

図版1



調査区全景（東から）



調査区全景（上が北）

図版2



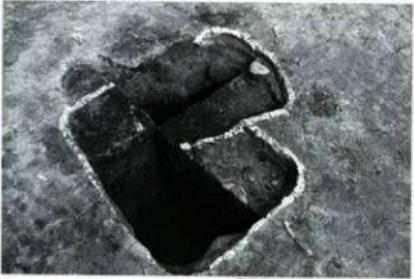
SB1完掘状況（上が南）



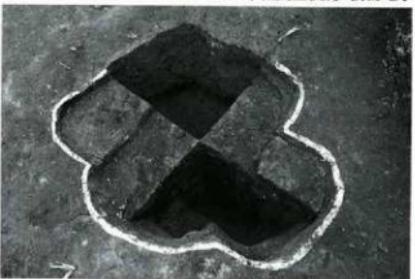
SB1検出状況（北から）



SB1EP5木柱出土状況（東から）



SB1EP6断面（北から）



SB1EP8断面（北から）



SB2完掘状況（上が南）



SB2検出状況（西から）



SB2EP2完掘状況（北から）

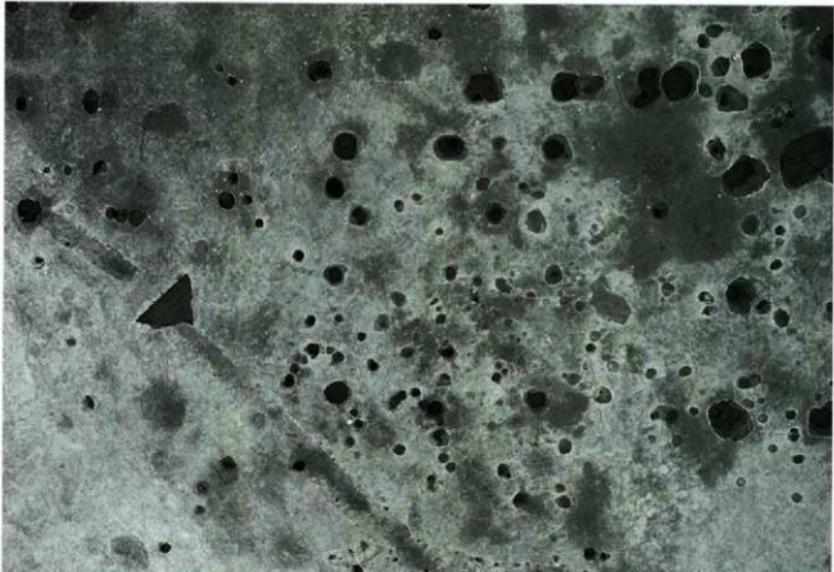


SB2EP5断面（西から）



SB2EP9断面（東から）

図版4



SB3・SI12完掘状況（上が南）



SB3検出状況（南から）



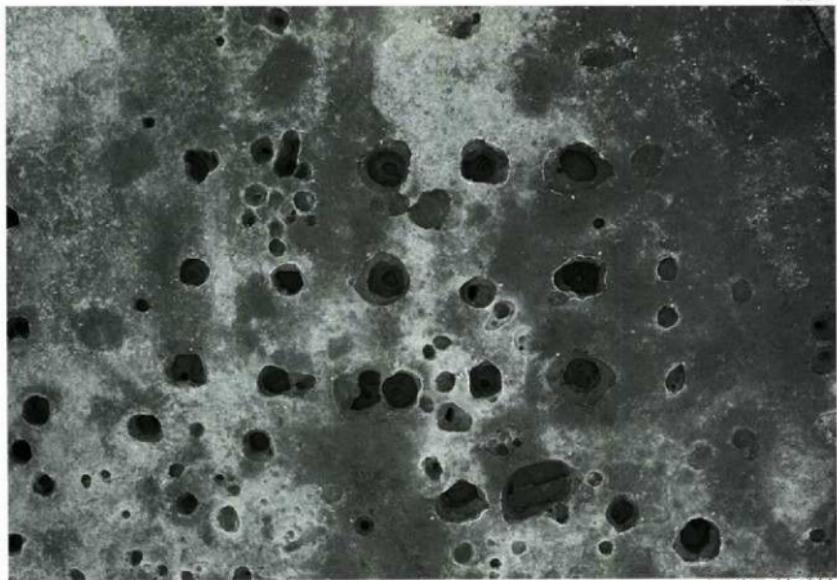
SB3EP1断面（南から）



SB3EP5完掘状況（北から）



SB3EP8断面（西から）



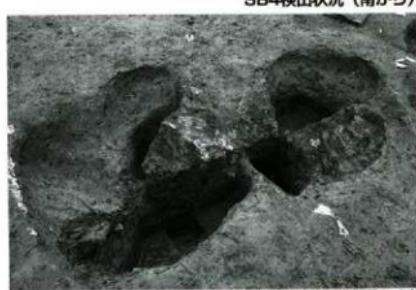
SB4完掘状況（上が南）



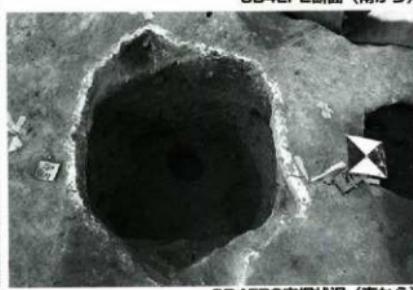
SB4検出状況（南から）



SB4EP2断面（南から）

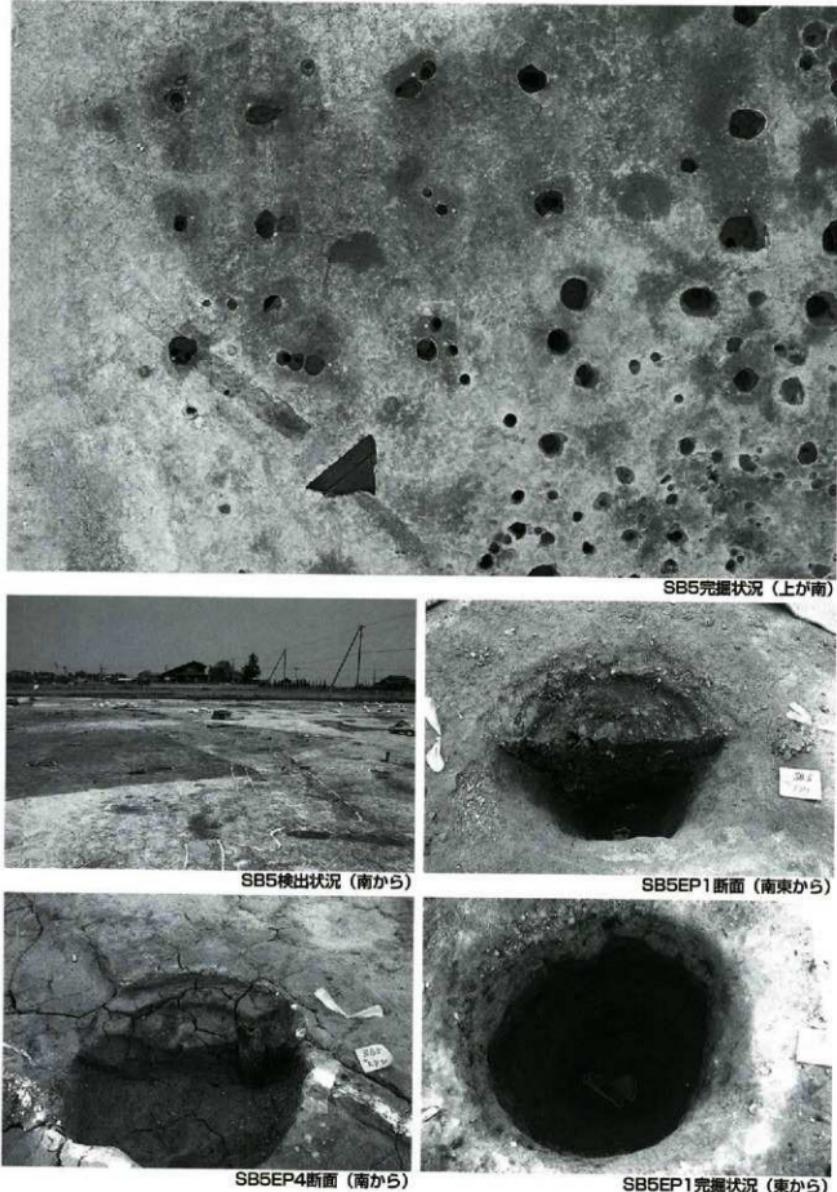


SB4EP3断面（南西から）



SB4EP2完掘状況（南から）

図版6

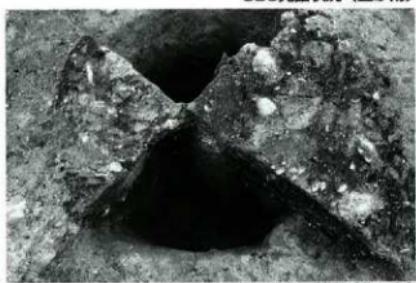




SB6壳掘状況（上が南）



SB6検出状況（南から）



SB6EP1断面（北から）

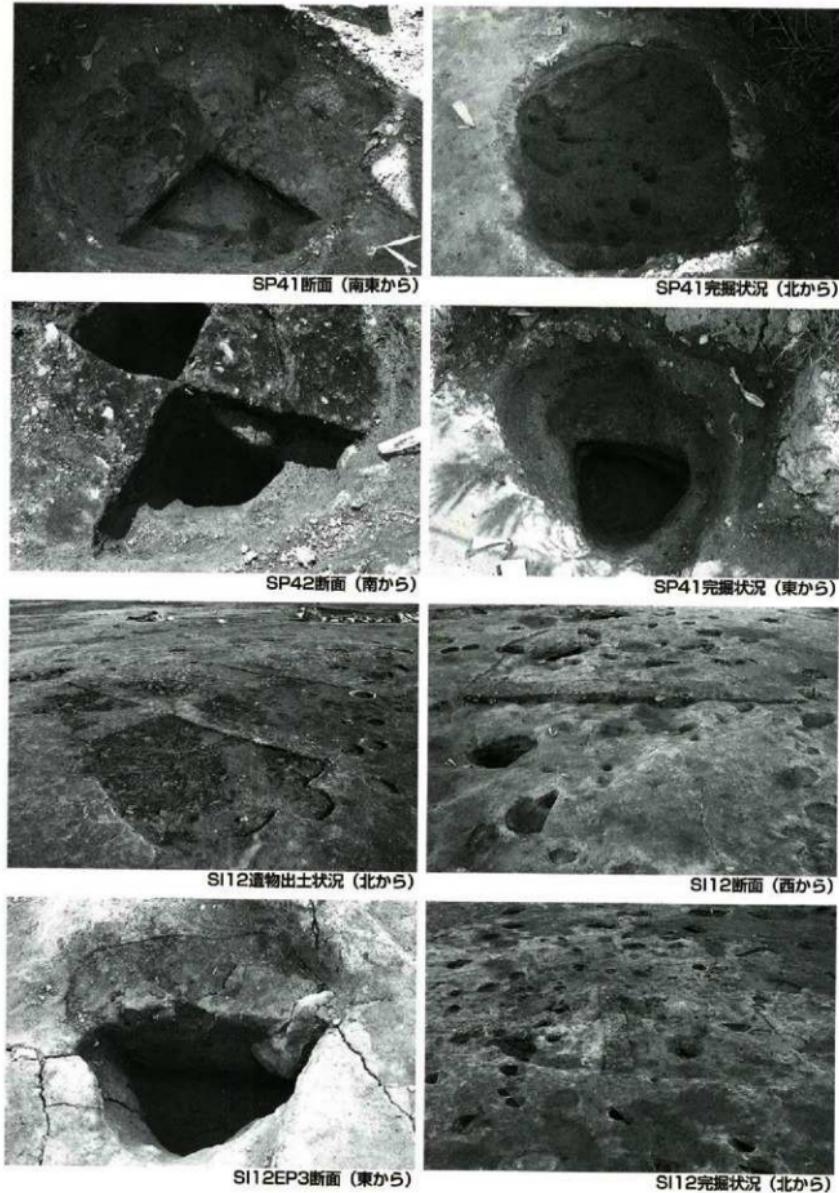


SB6EP3断面（北東から）



SB6EP3壳掘状況（南から）

図版8





SK14・SB2EP6半截状況 (南西から)



SK14・SB2EP6断面 (南西から)



SK14木質検出状況 (東から)



SK14完掘状況 (南東から)



SD9・10断面① [W-56グリッド] (南から)



SD9・10断面② [W-58グリッド] (北から)



SD9・10・48断面 [U-60グリッド] (南から)



SD9・10精査状況 (西から)

図版10



SD7・8検出状況 (上が南)



SD7発掘状況 (東から)



SP33・SD34断面 (東から)



SD47断面 (南東から)



SD51断面 (東から)



SG11精査状況 (南から)



SG11精査状況 (東から)



SG11精査状況 (西から)